

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジン トカイダイクク 学校法人 東海大学								
フリガナ大学の名称	トカイダイククダイクク 東海大学大学院 (Tokai University Graduate School)								
大学本部の位置	神奈川県平塚市北金目4-1-1								
大学の目的	東海大学大学院は、東海大学建学の精神にのっとり、専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>【生物学研究科】 20世紀終盤から今世紀にかけて、生物学とその学際的科学的果たす役割は、多方面の科学技術と産業においてその重要性を急速に拡大してきている。特に遺伝子技術の発展、生物資源の開発、生物多様性の保全、持続的食糧生産のような課題は、生物科学の各分野の進展とともに社会において注目されている。生物学研究科はこのような課題に対して、人類が培ってきた文化・文明と自然・地球環境を一体とする広い視野を有しながら、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用を目指し、生物学における高度な知識と技術を活用できる人材の養成を目標とする。</p> <p>【生物学研究科 生物学専攻】 研究科で養成する人材像を受け、陸圏と水圏の多様な生物種を対象に、生物学の対象となる分子から生態系に至る全ての階層をバランスよく学修した基礎を発展させる。生物、特に動物種に関してDNAを用いた分子系統学的解析を含む多様性と生理学的機構の理解を基盤とし、生物資源の開発やその持続的利用のために習得した知識と技術を活用できる人材を養成する。 具体的には、生物の生態モデルの構築、分子系統地理学的解析、水産増養殖等に関する知識・技術や研究活動の経験をもとに、生物多様性の保全や生物資源の維持・開発に主体的に取り組める人材を養成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 生物学部
	生物学研究科 [Graduate School of Biology] 生物学専攻 (M) [Course of Biology] 計	年	人	年次人	人	修士 (理学) [Master of Science]	年 月 第 年次 令和2年4月 第1年次	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	東海大学短期大学部（廃止） 食物栄養学科（廃止）（△100） 児童教育学科（廃止）（△100） ※令和2年4月学生募集停止 東海大学医療技術短期大学（廃止） 看護学科（3年制）（廃止）（△80） ※令和2年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称					卒業要件単位数			
	生物学研究科生物学専攻	講義	演習	実験・実習	計			32単位	
		18科目	4科目	0科目	22科目				

教 員 組 織 の 設 置 概 要 分	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
新 設 分	生物学研究科		7	3	3	0	13	0	0
	生物学専攻（修士課程）		(7)	(3)	(3)	(0)	(13)	(0)	(0)
	計		7	3	3	0	13	0	—
既 員 組 織 の 設 置 概 要 分	総合理工学研究科		107	25	4	1	137	0	0
	総合理工学専攻（博士課程）		(107)	(25)	(4)	(1)	(137)	(0)	(0)
	地球環境科学研究科		20	2	0	0	22	0	0
	地球環境科学専攻（博士課程）		(20)	(2)	(0)	(0)	(22)	(0)	(0)
	生物科学研究科		15	3	0	0	18	0	0
	生物科学専攻（博士課程）		(15)	(3)	(0)	(0)	(18)	(0)	(0)
	文学研究科		9	2	0	0	11	0	2
	文明研究専攻（博士課程前期）		(9)	(2)	(0)	(0)	(11)	(0)	(2)
	文学研究科		13	2	0	0	15	0	2
	文明研究専攻（博士課程後期）		(13)	(2)	(0)	(0)	(15)	(0)	(2)
	文学研究科		8	5	1	0	14	0	5
	史学専攻（博士課程前期）		(8)	(5)	(1)	(0)	(14)	(0)	(5)
	文学研究科		8	5	0	0	13	0	4
	史学専攻（博士課程後期）		(8)	(5)	(0)	(0)	(13)	(0)	(4)
	文学研究科		9	3	0	0	12	0	3
	日本文学専攻（博士課程前期）		(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(3)
	文学研究科		7	2	0	0	9	0	1
	日本文学専攻（博士課程後期）		(7)	(2)	(0)	(0)	(9)	(0)	(1)
	文学研究科		4	1	1	0	6	0	1
	英文学専攻（博士課程前期）		(4)	(1)	(1)	(0)	(6)	(0)	(1)
	文学研究科		4	0	1	0	5	0	1
	英文学専攻（博士課程後期）		(4)	(0)	(1)	(0)	(5)	(0)	(1)
	文学研究科		9	5	1	0	15	0	6
	コミュニケーション学専攻（博士課程前期）		(9)	(5)	(1)	(0)	(15)	(0)	(6)
	文学研究科		8	1	0	0	9	0	0
	コミュニケーション学専攻（博士課程後期）		(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(0)
	文学研究科		6	2	0	0	8	0	2
	観光学専攻（修士課程）		(6)	(2)	(0)	(0)	(8)	(0)	(2)
	政治学研究科		6	5	0	0	11	0	0
	政治学専攻（博士課程前期）		(6)	(5)	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)
政治学研究科		5	1	0	0	6	0	0	
政治学専攻（博士課程後期）		(5)	(1)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)	
経済学研究科		9	3	0	0	12	0	0	
応用経済学専攻（博士課程前期）		(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)	
経済学研究科		9	1	0	0	10	0	0	
応用経済学専攻（博士課程後期）		(9)	(1)	(0)	(0)	(10)	(0)	(0)	
法学研究科		11	3	0	0	14	0	0	
法律学専攻（博士課程前期）		(11)	(3)	(0)	(0)	(14)	(0)	(0)	
法学研究科		11	0	0	0	11	0	0	
法律学専攻（博士課程後期）		(11)	(0)	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)	
人間環境学研究科		10	6	0	0	16	0	12	
人間環境学専攻（修士課程）		(10)	(6)	(0)	(0)	(16)	(0)	(12)	
芸術学研究科		2	2	0	0	4	0	4	
音響芸術専攻（修士課程）		(2)	(2)	(0)	(0)	(4)	(0)	(4)	
芸術学研究科		7	3	0	0	10	0	12	
造型芸術専攻（修士課程）		(7)	(3)	(0)	(0)	(10)	(0)	(12)	
体育学研究科		28	1	2	2	33	0	0	
体育学専攻（修士課程）		(28)	(1)	(2)	(2)	(33)	(0)	(0)	
理学研究科		12	10	3	0	25	0	1	
数理学専攻（修士課程）		(12)	(10)	(3)	(0)	(25)	(0)	(1)	
理学研究科		13	0	2	0	15	0	1	
物理学専攻（修士課程）		(13)	(0)	(2)	(0)	(15)	(0)	(1)	
理学研究科		9	3	2	0	14	0	0	
化学専攻（修士課程）		(9)	(3)	(2)	(0)	(14)	(0)	(0)	
工学研究科		31	11	6	2	50	0	5	
電気電子工学専攻（修士課程）		(31)	(11)	(6)	(2)	(50)	(0)	(5)	
工学研究科		23	8	3	1	35	0	8	
応用理化学専攻（修士課程）		(23)	(8)	(3)	(1)	(35)	(0)	(8)	
工学研究科		17	6	0	3	26	0	10	
建築土木工学専攻（修士課程）		(17)	(6)	(0)	(3)	(26)	(0)	(10)	
工学研究科		26	11	7	1	45	0	2	
機械工学専攻（修士課程）		(26)	(11)	(7)	(1)	(45)	(0)	(2)	
工学研究科		8	2	1	0	11	0	5	
医用生体工学専攻（修士課程）		(8)	(2)	(1)	(0)	(11)	(0)	(5)	
情報通信学研究科		19	10	1	0	30	0	4	
情報通信学専攻（修士課程）		(19)	(10)	(1)	(0)	(30)	(0)	(4)	
海洋学研究科		35	20	4	0	59	0	6	
海洋学専攻（修士課程）		(35)	(20)	(4)	(0)	(59)	(0)	(6)	

教員組織の概要	既設	医学研究科 医科学専攻（修士課程）	97 (97)	40 (40)	4 (4)	0 (0)	141 (141)	0 (0)	6 (6)
		医学研究科 先端医科学専攻（博士課程）	98 (98)	37 (37)	3 (3)	0 (0)	138 (138)	0 (0)	4 (4)
		健康科学研究科 看護学専攻（修士課程）	10 (10)	11 (11)	18 (18)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	22 (22)
		健康科学研究科 保健福祉学専攻（修士課程）	5 (5)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
		農学研究科 農学専攻（修士課程）	16 (16)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	12 (12)
		計	744 (744)	264 (264)	70 (70)	10 (10)	1088 (1088)	0 (0)	— (—)
		合計	751 (751)	267 (267)	73 (73)	10 (10)	1101 (1101)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任		計			
	事 務 職 員		641 (641)	425 (425)		1,066 (1,066)			
	技 術 職 員		72 (72)	8 (8)		80 (80)			
	図 書 館 専 門 職 員		48 (48)	24 (24)		72 (72)			
	そ の 他 の 職 員		29 (29)	13 (13)		42 (42)			
	計		790 (790)	470 (470)		1,260 (1,260)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	1,609,801.12 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		1,611,854.00 m ²			
	運 動 場 用 地	421,731.97 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²		421,731.97 m ²			
	小 計	2,031,533.09 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		2,033,585.97 m ²			
	そ の 他	219,768.53 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²		219,768.53 m ²			
合 計	2,251,301.62 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		2,253,354.50 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	580,908.23 m ² (580,908.23 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)		580,908.23 m ² (580,908.23 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	466 室	231	1,372	89 (補助職員 13 人)		6 室 (補助職員 0 人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		生物学研究科生物学専攻		13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。 大学全体での共用分として、電子データベースは44種〔うち国外25種〕学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約42,417種〔うち国外約41,879種〕と、電子ブックは約10,000点〔うち国外約7,000点〕がそれぞれ利用可能。	
	生物学研究科	16,500 [2,900] (14,986 [2,629])	3,380 [3,060] (3,376 [3,056])	3,180 [3,005] (3,175 [3,000])	150 (146)	0 (0)	0 (0)		
	計	16,500 [2,900] (14,986 [2,629])	3,380 [3,060] (3,376 [3,056])	3,180 [3,005] (3,175 [3,000])	150 (146)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	21,620.00 m ²	3,567 席		2,248,166冊					
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	34,224.13 m ²	400mトラック 1面							
維 持 費 の 見 積 り 概 要	積 経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		280千円	280千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円
		共同研究費等		16,534千円	16,534千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円
		図書購入費	1,743千円	1,743千円	1,743千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円
	設備購入費	500千円	1,200千円	1,060千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,396千円	1,146千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産の運用、手数料及び国庫助成金等						

東海大学付属望星高等学校と共用
名称：東海大学付属望星高等学校（通信制）
収容定員：3,000名
校地面積基準：なし

大学全体

大学全体

研究科単位での算出不能なため、学部との合計

既設大学の状況	大学の名称	東海大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
		年	人	年次人	人		倍			
大	文学部		370	—	1,490		1.07	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学部 文明学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.05	平成13年	〃	
	文学部 7ｼﾞｱ文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 3-ﾛｯﾊﾞ文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 7ﾌﾘｶ文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 北欧学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和42年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 歴史学科		130	—	530		1.08	昭和35年	〃	
	文学部 日本史専攻	4	50	—	210	学士(文学)	1.13	昭和58年	〃	
	文学部 東洋史専攻	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和58年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 西洋史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.05	昭和58年	〃	
	文学部 考古学専攻	4	30	—	120	学士(文学)	1.05	昭和58年	〃	
	文学部 日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.06	平成13年	〃	
	文学部 文芸創作学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.07	昭和35年	〃	
	文学部 広報ｼﾞｱ7学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
文学部 心理・社会学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止	
学	文化社会学部		450	—	900		1.03	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文化社会学部 7ｼﾞｱ学科	4	70	—	140	学士(文化社会学)	1.04	平成30年	〃	
	文化社会学部 3-ﾛｯﾊﾞ・7ﾌﾘｶ学科	4	70	—	140	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
	文化社会学部 北欧学科	4	60	—	120	学士(文化社会学)	1.04	平成30年	〃	
	文化社会学部 文芸創作学科	4	60	—	120	学士(文化社会学)	1.04	平成30年	〃	
	文化社会学部 広報ｼﾞｱ7学科	4	100	—	200	学士(文化社会学)	1.03	平成30年	〃	
	文化社会学部 心理・社会学科	4	90	—	180	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
等	政治経済学部		480	—	1,860		1.03	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学部	4	160	—	620	学士(政治学)	1.04	昭和41年	〃	
	経済学部	4	160	—	620	学士(経済学)	1.03	昭和41年	〃	
政治経済学部 経営学部	4	160	—	620	学士(経営学)	1.04	昭和49年	〃		
の	法学部		300	—	1,200		1.05	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法学部 法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.05	昭和61年	〃	
状	教養学部		330	—	1,320		1.06	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	教養学部 人間環境学科		160	—	640		1.04	昭和43年	〃	
	教養学部 自然環境課程	4	65	—	260	学士(教養学)	0.96	昭和44年	〃	
	教養学部 社会環境課程	4	95	—	380	学士(教養学)	1.03	昭和44年	〃	
	教養学部 芸術学科		90	—	360		1.04	昭和43年	〃	
	教養学部 音楽学課程	4	32	—	128	学士(教養学)	1.06	昭和44年	〃	
	教養学部 美術学課程	4	20	—	80	学士(教養学)	1.07	昭和44年	〃	
	教養学部 ｼﾞﾞﾞｼﾞﾝ学課程	4	38	—	152	学士(教養学)	1.03	昭和44年	〃	
教養学部 国際学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.13	昭和47年	〃		
況	体育学部		480	—	1,840		1.03	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学部 体育学科	4	110	—	420	学士(体育学)	0.99	昭和42年	〃	
	体育学部 競技ｽﾎﾟｰﾂ学科	4	140	—	540	学士(体育学)	1.06	平成16年	〃	
	体育学部 武道学科	4	60	—	230	学士(体育学)	1.03	昭和43年	〃	
	体育学部 生涯ｽﾎﾟｰﾂ学科	4	110	—	420	学士(体育学)	1.01	昭和46年	〃	
体育学部 ｽﾎﾟｰﾂ･ﾌﾞﾘｯｼﾞ･ｾﾞﾐﾅｰｼﾞｮﾝ学科	4	60	—	230	学士(体育学)	1.04	平成16年	〃		
の	健康学部		200	—	400		1.02	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	健康学部 健康ﾏﾈｼﾞﾝｸﾞ学科	4	200	—	400	学士(健康ﾏﾈｼﾞﾝｸﾞ学)	1.02	平成30年	〃	
況	理学部		320	—	1,280		1.02	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.04	昭和39年	〃	
	理学部 情報数理学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.03	昭和49年	〃	
	理学部 物理学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.01	昭和39年	〃	
理学部 化学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和39年	〃		
の	情報理工学部		200	—	800		1.05	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報理工学部 情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.06	平成13年	〃	
情報理工学部 ｺﾝﾋﾞｭｰｼﾞｮﾝ工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.04	平成13年	〃		

既 設 大 学 等 の 状 況	《大学院》									
	総合理工学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等
	総合理工学専攻	博士課程	3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0.40	平成17年	〃
	地球環境科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等
	地球環境科学専攻	博士課程	3	10	—	30	博士(理学)・博士(工学)	0.13	平成17年	〃
	生物科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等
	生物科学専攻	博士課程	3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(保健学)	0.16	平成17年	〃
	文学研究科								昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	文明研究専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.18	昭和49年	〃
	文明研究専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.33	昭和51年	〃
	史学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.25	昭和44年	〃
	史学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	日本文学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.43	昭和49年	〃
	日本文学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.33	昭和51年	〃
	英文学専攻	博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.12	昭和44年	〃
	英文学専攻	博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	コミュニケーション学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.50	昭和49年	〃
	コミュニケーション学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和51年	〃
	観光学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.18	平成26年	〃
	政治学研究科								昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
政治学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.00	昭和46年	〃	
政治学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	〃	
経済学研究科								昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.05	昭和54年	〃	
応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	〃	
法学研究科								平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
法律学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.00	平成2年	〃	
法律学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成5年	〃	
人間環境学研究科								平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
人間環境学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.50	平成19年	〃	
芸術学研究科								昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
音響芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.50	昭和48年	〃	
造型芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.50	昭和48年	〃	
体育学研究科								昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
体育学専攻	修士課程	2	15	—	30	修士(体育学)	1.63	昭和51年	〃	
理学研究科								昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
数理学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.18	昭和43年	〃	
物理学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.24	昭和43年	〃	
化学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.58	昭和43年	〃	
工学研究科								昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
光工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和47年	〃	
機械工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和42年	〃	
電気電子工学専攻	修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.04	平成28年	〃	
応用理化学専攻	修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.11	平成28年	〃	
建築土木工学専攻	修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.08	平成28年	〃	
機械工学専攻	修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.23	平成28年	〃	
医用生体工学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37	平成26年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
情報通信学研究科								平成24年	東京都港区高輪2-3-23	
情報通信学専攻	修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	1.06	平成24年	〃	
海洋学研究科								昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
海洋学専攻	修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	0.77	平成27年	〃	

平成28年度より学生募集停止
平成28年度より学生募集停止

既 設 大 学 等 の 状 況	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143		
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.50	平成7年	〃		
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.47	平成17年	〃		
	健康科学研究科									平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.80	平成11年	〃		
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.10	平成11年	〃		
	農学研究科										平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.54	平成20年	〃		
	大学の名称		東海大学短期大学部									
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地		
		年	人	年次 人	人		倍					
食物栄養学科		2	100	—	200	短期大士(食物栄養学)	0.92	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101			
児童教育学科		2	100	—	200	短期大士(児童教育学)	1.04	昭和44年	〃			
大学の名称		東海大学医療技術短期大学										
学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地			
		年	人	年次 人	人		倍					
看護学科		3	80	—	240	短期大士(看護学)	1.07	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2			

<p>附属施設の概要</p>	<p> 名称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規模等：土地 118,828.50㎡、建物 85,897.78㎡ </p> <p> 名称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所在地：東京都渋谷区代々木1-2-5 設置年月：昭和58年12月 規模等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡ </p> <p> 名称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県中郡大磯町月京21-1 設置年月：昭和59年4月 規模等：土地 23,286.72㎡、建物 19,950.38㎡ </p> <p> 名称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所在地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規模等：土地 47,708.39㎡、建物 46,636.17㎡ </p>	
----------------	---	--

学校法人東海大学 設置届出等に関する組織の移行表

平成31年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	
文学部	文文学科	60	—	240		
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科	90	—	360		
英語文化コミュニケーション学科	90	—	360			
文化社会学部	アジア学科	70	—	280		
	ヨーロッパ・アメリカ学科	70	—	280		
	北欧学科	60	—	240		
	文芸創作学科	60	—	240		
	広報メディア学科	100	—	400		
	心理・社会学科	90	—	360		
	政治経済学部	政治学科	160	—	640	
経済学科	160	—	640			
経営学科	160	—	640			
法学部	法律学科	300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
		音楽学課程	32	—	128	
	芸術学科	美術学課程	20	—	80	
		デザイン学課程	38	—	152	
	国際学科	80	—	320		
体育学部	体育学科	110	—	440		
	競技スポーツ学科	140	—	560		
	武道学科	60	—	240		
	生涯スポーツ学科	110	—	440		
	スポーツレジャーマネジメント学科	60	—	240		
理学部	数学科	80	—	320		
	情報数理学科	80	—	320		
	物理学科	80	—	320		
	化学科	80	—	320		
情報理工学部	情報科学科	100	—	400		
	コンピュータ応用工学科	100	—	400		
工学部	生命化学科	100	—	400		
	応用化学科	80	—	320		
	光・画像工学科	60	—	240		
	原子力工学科	40	—	160		
	電気電子工学科	140	—	560		
	材料科学科	80	—	320		
	建築学科	200	—	800		
	土木工学科	120	—	480		
	精密工学科	80	—	320		
	機械工学科	140	—	560		
	動力機械工学科	150	—	600		
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科	60	—	240		
観光学部	観光学科	200	—	800		
情報通信学部	情報メディア学科	80	—	320		
	組込みソフトウェア工学科	80	—	320		
	経営システム工学科	80	—	320		
	通信ネットワーク工学科	80	—	320		
海洋学部	海洋文明学科	80	—	320		
	環境社会学科	80	—	320		
	海洋地球科学科	80	—	320		
	水産学科	120	—	480		
	海洋生物学科	90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科	118	—	708	118名は平成31年度入学生まで	
	看護学科	85	—	340		
健康学部	健康マネジメント学科	200	—	800		
経営学部	経営学科	150	—	600		
	観光ビジネス学科	80	—	320		
基盤工学部	電気電子情報工学科	80	—	320		
	医療福祉工学科	60	—	240		
農学部	応用植物科学科	80	—	320		
	応用動物科学科	80	—	320		
	バイオサイエンス学科	70	—	280		
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440		
	国際コミュニケーション学科	80	—	320		
	デザイン文化学科	70	—	280		
生物学部	生物学科	70	—	280		
	海洋生物科学科	70	—	280		
計		6773	—	27328		

令和2年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
文学部	文文学科	60	—	240		
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科	90	—	360		
英語文化コミュニケーション学科	90	—	360			
文化社会学部	アジア学科	70	—	280		
	ヨーロッパ・アメリカ学科	70	—	280		
	北欧学科	60	—	240		
	文芸創作学科	60	—	240		
	広報メディア学科	100	—	400		
	心理・社会学科	90	—	360		
	政治経済学部	政治学科	160	—	640	
経済学科	160	—	640			
経営学科	160	—	640			
法学部	法律学科	300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
		音楽学課程	32	—	128	
	芸術学科	美術学課程	20	—	80	
		デザイン学課程	38	—	152	
	国際学科	80	—	320		
体育学部	体育学科	110	—	440		
	競技スポーツ学科	140	—	560		
	武道学科	60	—	240		
	生涯スポーツ学科	110	—	440		
	スポーツレジャーマネジメント学科	60	—	240		
理学部	数学科	80	—	320		
	情報数理学科	80	—	320		
	物理学科	80	—	320		
	化学科	80	—	320		
情報理工学部	情報科学科	100	—	400		
	コンピュータ応用工学科	100	—	400		
工学部	生命化学科	100	—	400		
	応用化学科	80	—	320		
	光・画像工学科	60	—	240		
	原子力工学科	40	—	160		
	電気電子工学科	140	—	560		
	材料科学科	80	—	320		
	建築学科	200	—	800		
	土木工学科	120	—	480		
	精密工学科	80	—	320		
	機械工学科	140	—	560		
	動力機械工学科	150	—	600		
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科	60	—	240		
観光学部	観光学科	200	—	800		
情報通信学部	情報メディア学科	80	—	320		
	組込みソフトウェア工学科	80	—	320		
	経営システム工学科	80	—	320		
	通信ネットワーク工学科	80	—	320		
海洋学部	海洋文明学科	80	—	320		
	環境社会学科	80	—	320		
	海洋地球科学科	80	—	320		
	水産学科	120	—	480		
	海洋生物学科	90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科	118	—	708	118名は令和3年度入学生まで	
	看護学科	85	—	340		
健康学部	健康マネジメント学科	200	—	800		
経営学部	経営学科	150	—	600		
	観光ビジネス学科	80	—	320		
基盤工学部	電気電子情報工学科	80	—	320		
	医療福祉工学科	60	—	240		
農学部	応用植物科学科	80	—	320		
	応用動物科学科	80	—	320		
	バイオサイエンス学科	70	—	280		
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440		
	国際コミュニケーション学科	80	—	320		
	デザイン文化学科	70	—	280		
生物学部	生物学科	70	—	280		
	海洋生物科学科	70	—	280		
計		6773	—	27328		

平成31年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
観光学専攻	(M)	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
		(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30	
		(M)	8	—	16	
理学研究科	数理学専攻	(M)	12	—	24	
		(M)	12	—	24	
		(M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100	
		(M)	75	—	150	
		(M)	25	—	50	
		(M)	45	—	90	
		(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20	
		(M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
計			557	—	1272	

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
食物栄養学科	100	—	200	
児童教育学科	100	—	200	
計	200	—	400	

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
看護学科(3年制)	80	—	240	
計	80	—	240	

令和2年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105		
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	史学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	日本文学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	英文学専攻	(M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6		
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
観光学専攻	(M)	8	—	16			
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
法学研究科	法学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8		
		(M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30		
		(M)	8	—	16		
理学研究科	数理学専攻	(M)	12	—	24		
		(M)	12	—	24		
		(M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100		
		(M)	75	—	150		
		(M)	25	—	50		
		(M)	45	—	90		
		(M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20		
		(M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16		研究科の設置(届出)
計			565	—	1288		

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
	0	—	0		令和2年4月学生募集停止
	0	—	0		令和2年4月学生募集停止
計	0	—	0		

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
	0	—	0		令和2年4月学生募集停止
計	0	—	0		

教 育 課 程 等 の 概 要

（生物学研究科 生物学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目群	総合生物学特論	1前	2			○			3	2					オムニバス
	科学英語特論	1前	2			○			1						
	小計（2科目）	—	4			—			4	2					
基礎科目群	脊椎動物学特論A	1前		2		○				2					オムニバス
	脊椎動物学特論B	1前		2		○					2				オムニバス
	脊椎動物学特論C	1前		2		○					1				
	無脊椎動物学特論	1後		2		○			1						
	数理生物学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	大気海洋環境学特論	1後		2		○			1						
小計（6科目）	—		12			—			3	3	3				
生命科学科目群	動物生理学特論	1前		2		○			2						オムニバス
	栄養生理学特論	1後		2		○			1						
	組織学特論	1後		2		○			1						
	環境生理学特論	2前		2		○			1						
	生殖生物学特論	1後		2		○			1						
小計（5科目）	—		10			—			4						
生態科学科目群	動物生態学特論	1後		2		○				1	1				オムニバス
	保全生態学特論	1後		2		○				1	1				オムニバス
	動物地理学特論	2前		2		○				1	1				オムニバス
	多様性生物学特論	1後		2		○				1	1				オムニバス
	生態系モデリング学特論	2前		2		○				1					
小計（5科目）	—		10			—			3	3					
研究ゼミナール	生物学研究ゼミナール1	1前	2				○		7	3	3				
	生物学研究ゼミナール2	1後	2				○		7	3	3				
	生物学研究ゼミナール3	2前	2				○		7	3	3				
	生物学研究ゼミナール4	2後	2				○		7	3	3				
小計（4科目）	—	8				—		7	3	3					
合計（22科目）		—	12	32			—		7	3	3				
学位又は称号		修士（理学）		学位又は学科の分野				理学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
共通科目群より「総合生物学特論」と「科学英語特論」の4単位、および「生物学研究ゼミナール1」～「生物学研究ゼミナール4」の8単位を含む32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			14週				
								1時限の授業時間			100分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(海洋学研究科 海洋学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合海洋学 科目群	総合海洋学特論	1前・後	2			○			28	19	2			兼6 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス・集中 集中 集中 集中 集中
	沿岸環境特論	1前		2		○			1		1			
	気候変動特論	1前		2		○			3	1				
	海洋生態学特論	1後		2		○			1	1				
	海洋総合管理特論	1前		2		○			1	2				
	水産学特論	1前		2		○			1	2				
	海洋資源特論	1前		2		○				2				
	海洋科学技術研究特論	1後		2		○								
	環境生命科学研究特論	1後		1		○			3	5				
	アカデミックイングリッシュ	1前・後		2			○		1					
	海洋学特論A	1前		1		○			1					
	海洋学特論B	1前		1		○			1	1				
	海洋学特論C	1後		1		○			2		1			
	海洋学特論D	1後		1		○				2	1			
小計(14科目)	—		2	21			—	30	20	4			兼6	
海洋人 間圏 分野 科目 群	海洋人類学特論	1前		2		○			1	1	1			オムニバス
	海洋ガバナンス特論	1前		2		○			1	1				
	海洋資源管理特論	1後		2		○			1					
	環境・開発経済特論	1後		2		○				1				
	ロジスティクス特論	1後		2		○				1				
	沿岸域管理特論	1前		2		○				1				
	水産社会特論	1前		2		○			1					
	小計(7科目)	—		14			—	4	4	1				
海洋生 命圏 分野 科目 群	分子細胞生物学特論	1前・後		2		○			1	1				オムニバス
	海洋生物化学特論	1前・後		2		○			1					
	水族生物学特論	1後		2		○			2					
	浮遊生物学特論	2前		2		○			1	1				
	底生生物学特論	2前		2		○				1				
	海棲哺乳類学特論	1後		2		○			2					
	魚類学特論	1前		2		○			1	1				
	資源生物学特論	1後		2		○			1	1				
	水産増殖学特論	1前・後		2		○			2					
	水産食品科学特論	1後		2		○			1					
小計(10科目)	—		20			—	12	4						
海洋地 球圏 分野 科目 群	大気・海洋物理学特論	1後		2		○			2					オムニバス オムニバス
	地球化学特論	1後		2		○			1					
	低次生産環境特論	1前・後		2		○			1	1				
	固体地球物理学特論	1後		2		○			1	1				
	海底資源開発工学特論	1後		2		○			1	1				
	海洋エネルギー工学特論	1後		2		○			1	1				
	沿岸域工学特論	1後		2		○			1					
	小計(7科目)	—		14			—	8	3					
研究 ゼミ ナール	海洋学研究ゼミナール1	1前	2				○		32	16	1			
	海洋学研究ゼミナール2	1後	2				○		32	16	1			
	海洋学研究ゼミナール3	2前	2				○		32	16	1			
	海洋学研究ゼミナール4	2後	2				○		32	16	1			
	小計(4科目)	—	8				—	32	16	1				
合計(42科目)		—	10	69			—	35	20	4			兼6	
学位又は称号	修士(海洋学)		学位又は学科の分野				理学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
総合海洋学科目群より必修科目「総合海洋学特論」を含め10単位以上、必修科目「海洋学研究ゼミナール1」～「海洋学研究ゼミナール4」の8単位、その他の選択科目を、合わせて32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、その審査並びに最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			14週				
							1時限の授業時間			100分				

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(生物学部 生物学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
文現区分 現代分論 1	現代文明論	2前	2			○					1			兼2	オムニバス	
	小計(1科目)	—	2	0	0				0	0	1	0	0	兼2	—	
区分Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前・後	2			○							兼2	オムニバス	
		社会科学	1前・後	2			○							兼1		
		自然科学	1前・後	2			○							兼2	オムニバス	
		小計(3科目)		6	0	0				0	0	0	0	0	兼4	—
	発展教養科目	シティズンシップ	1前・後	1			○					2			兼3	
		ボランティア	1前・後	1			○								兼4	
		地域理解	1前・後	1			○					2			兼3	
		国際理解	1前・後	1			○								兼3	
	小計(4科目)		4	0	0				0	0	2	0	0	兼6	—	
	科目健康 スポーツ	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1					○						兼4	
生涯スポーツ理論実習		1前・後	1					○						兼5		
小計(2科目)		—	2	0	0				0	0	0	0	0	兼8	—	
区分Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング	1前・後	2			○							兼5		
		英語リーディング&ライティング	1前・後	2			○							兼5		
		小計(2科目)	—	4	0	0				0	0	0	0	0	兼10	—
	グローバル人材育成	グローバルスキル	2前・後	2			○								兼5	
		アカデミック英語	2前・後	2			○								兼5	
小計(2科目)	—	4	0	0				0	0	0	0	0	兼10	—		

教育課程等の概要

(生物学部 生物学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	生物と社会	1前		2		○			1	3	3			兼6	オムニバス	
	生命倫理	1後		2		○			1					兼2	オムニバス	
	生物と職業	1前		2		○			1					兼1	オムニバス	
	科学英語	2後		2		○			1					兼1		
	統計・データ分析法	2前		2		○			1							
	入門生物	1前		1		○								兼1		
	入門化学	1前・後		1		○								兼1		
	入門物理	1前・後		1		○								兼1		
	基礎数学	1前・後		1		○			1					兼1		
	インターンシップ	3休		1				○			1			兼1	集中	
小計(10科目)	—		0	15	0	—			2	3	3	0	0	兼12	—	
学科基幹科目	フレッシュマンゼミナール	1前	2			○			2	2						
	生体物質の化学	1前		4		○					1					
	北海道の野生生物	1休	2			○				1	2			兼8	集中 オムニバス	
	生態系のしくみ	1後		4		○					2				オムニバス	
	細胞の構造と機能	2前		4		○			1							
	北海道の環境と保全	2後		2		○				1				兼4	オムニバス	
	生物システム解析法	3後		2		○			1							
小計(7科目)	—	4	16	0	—			3	3	3	0	0	兼12	—		
区分IV主専攻科目	生命科学系科目	生物化学	1後		2		○								兼1	
		細胞の代謝	2前		2		○								兼1	
		植物の生理学	2前		2		○				1					
		遺伝子とタンパク質の科学	2後		2		○			1						
		微生物学	1後		2		○				1					
		分子生物学	2後		2		○			1						
		動物の生理学	2後		2		○					1			兼1	
		動物細胞科学	3前		2		○					1				
		薬の作用と化学	3前		2		○						1			兼1
		植物成分と植物代謝	2後		2		○						1			
		遺伝子工学	3前		2		○					1				
		植物細胞科学	3後		2		○					1				
		食品の科学	3後		2		○								兼1	
微生物利用学	3後		2		○					1						
小計(14科目)	—	0	28	0	—			1	2	1	0	0	兼4	—		
自然生態系科目	動物の生態	1後		2		○				1						
	動物の進化と分類	2前		2		○					1					
	植物の生態	2前		2		○								兼1		
	植物の進化と多様性	2後		2		○								兼1		
	野生生物調査法	2後		2		○				1	2				オムニバス	
	動物の行動	2後		2		○					1					
	生態情報解析法	2後		2		○			1							
	環境マネジメント	2後		2		○								兼1		
	生態系と生物多様性	3前		2		○				1						
	動物行動解析法	3後		2		○					1					
小計(10科目)	—	0	20	0	—			1	1	2	0	0	兼3	—		

教育課程等の概要

(生物学部 生物学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
区分IV主専攻科目	実験実習科目	生命科学基礎実験	2後	2				○	2	1						
		生命科学実験	3前	2				○	1	2						
		DNA・タンパク質科学実験	3後	2					○	1	1	1				
		環境化学実験	3後	2					○	1		1				
		生態学実習	2前	2					○		1	2				兼1
		野生生物調査実習	3前	2					○		1	2				兼1
		亜寒帯生態系フィールド実習	2休	1					○		1	2				兼1
		亜熱帯生態系フィールド実習	2休	2					○		1	2				兼1
	小計(8科目)	—	0	15	0	—			2	3	2	0	0	兼2	—	
	研究演習科目	生物学基礎演習	3前	2				○		1	1	1				
生物学ゼミナール		3後	2				○		4	3	3					
卒業基盤研究		4前	2				○		4	3	3					
課題研究		4後		2			○		4	3	3					
卒業研究		4後		3					4	3	3					
小計(5科目)	—	6	5	0	—			4	3	3	0	0		—		
理系基盤科目	生物学	1前・後		4			○								兼1	
	化学	1前・後		4			○								兼1	
	物理学	1前・後		4			○								兼1	
	地学	1前・後		4			○								兼1	
	数学	1前・後		4			○		1						兼1	
	生物学実験	1後		2											兼3	
	物理学実験	1前・後		2											兼4	
	化学実験	2前		2											兼4	
小計(8科目)	—	0	26	0	—			1	0	0	0	0	兼13	—		
教職科目	情報リテラシーA	1前・後		2				○	1						兼1	
	情報リテラシーB	1前・後		2				○	1							
	地学実験	2前・後		1											兼1	
	理科教育法1	3前		2			○								兼1	
	理科教育法2	3後		2			○								兼1	
	理科教材論	3後		2			○								兼1	
	理科教育実践論	3後		2			○								兼1	
	小計(7科目)	—	0	13	0	—			1	0	0	0	0	兼2	—	
合計(83科目)		—	32	138	0	—			4	3	3	0	0	兼63	—	
学位又は称号		学士(理学)		学位又は学科の分野			理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
以下の合計で124単位以上修得する。 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅰ 現代文明論：2単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅱ 現代教養科目：12単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅲ 英語科目：8単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳ 主専攻科目：72単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位：30単位 合計：124単位修得						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			14週							
						1時限の授業時間			100分							

教育課程等の概要

(生物学部 海洋生物科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
文現区分 現代分 論 I	現代文明論	2前	2			○					1			兼2	オムニバス	
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	1	0	兼2	—	
区分II 現代教養科目	基礎 教養科目	人文科学	1前・後	2			○								兼2	オムニバス
		社会科学	1前・後	2			○								兼1	
		自然科学	1前・後	2			○								兼2	オムニバス
		小計(3科目)		6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—
	発展 教養科目	シティズンシップ	1前・後	1			○				1		1		兼3	
		ボランティア	1前・後	1			○				1		1		兼2	
		地域理解	1前・後	1			○				1		1		兼1	
		国際理解	1前・後	1			○				1		1		兼3	
		小計(4科目)		4	0	0	—			0	1	0	1	0	兼6	—
	ツ健康 科目 スポー	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1					○						兼4	
		生涯スポーツ理論実習	1前・後	1					○						兼5	
		小計(2科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—
	区分III 英語科目	ンケミ ー シニ コ ヨ	英語リスニング&スピーキング	1前・後	2										兼5	
			英語リーディング&ライティング	1前・後	2										兼5	
小計(2科目)			—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—
成ルグ 人ロー 材ロー 育バ		グローバルスキル	2前・後	2					○						兼5	
		アカデミック英語	2前・後	2					○						兼5	
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	

教育課程等の概要

(生物学部 海洋生物科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部 共通科目	生物と社会	1前		2		○			1	3	1	1		兼7	オムニバス
	生命倫理	1後		2		○								兼3	オムニバス
	生物と職業	1前		2		○								兼2	オムニバス
	科学英語	2後		2		○								兼2	
	統計・データ分析法	2前		2		○								兼1	
	入門生物	1前		1		○								兼1	
	入門化学	1前・後		1		○								兼1	
	入門物理	1前・後		1		○								兼1	
	基礎数学	1前・後		1		○								兼2	
	インターンシップ	3休		1				○	1					兼1	集中
	小計(10科目)	—	0	15	0	—			2	0	0	0	0	兼13	—
区分IV 主専攻科目	フレッシュマンゼミナール	1前・後	2			○			4	3	1	1			オムニバス
	海洋の生態学	1後		2		○				1					
	魚類学基礎	1後		2		○			1						
	海洋生物科学通論	1後・2前	2			○			2						オムニバス
	理系のための文章表現	2前・後	2			○				1					
	海洋生物の調査・分析法	2後		2		○				1					
	海洋の化学	2前		2		○			1						
	海洋の物理	2後		2		○			1						
	河川の生態学	2後		2		○				1					
	海と水産生物	2前		2		○			1						
	大型海洋動物学	2前		2		○				1					
	海洋分子生物学	2前		2		○					1				
	野外調査実習(フィッシング)	2前		1				○		1	1	1		兼1	集中
	野外調査実習(ホエールウォッチング)	2前		1				○	1	1				兼1	集中
	亜熱帯海洋フィールド実習	2休		2				○	2			1		兼2	集中
	亜寒帯海洋フィールド実習	2休		1				○				1			集中
	学外技術実習	2前・後		2				○	1						集中
海洋生物科学フィールド実習	1前・後	2					○	1			1			集中	
卒業研究入門	2後・3前	2			○			4	3	1	1			オムニバス	
水産・海洋の職業	3前・後	2			○			4	3	1	1		兼1	オムニバス	
臨海実習	3休		2				○	1						集中	
小計(21科目)	—	12	27	0	—			4	3	1	1	0	兼4	—	
水産 科学系 科目	水産増殖学	2後		2		○			1						
	資源生物学	2前		2		○					1				
	魚類の進化と体系	3後		2		○					1				
	底生生物学	3後		2		○			1						
	海洋哺乳類学	3前		2		○				1					
	魚類生理・生化学	3前		2		○			1						
	食品流通・管理学	3後		2		○			1						
	水産生物学実験	3前		2				○	1						
	資源生物学実験	3後		2				○			1				
	大型海洋動物学実験	3後		2				○		1					
	魚類生理・生化学実験	3後		2				○	1						
小計(11科目)	—	0	22	0	—			2	1	1	0	0		—	

教育課程等の概要

(生物学部 海洋生物科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
環境生態科学系科目	環境と水産資源	3前		2		○			1							
	海洋堆積学	3後		2		○			1							
	生物海洋学	3前		2		○						1				
	浮遊生物学	3前		2		○						1				
	生物の多様性	2前		2		○				1						
	水族館学	3後		2		○				1						
	河川生態学実験	3前		2				○		1						
	海洋分析化学実験	3前		2				○	1							
	浮遊生物学実験	3前		2				○				1				
	環境と水産資源実験	3後		2				○	1	1						
小計(10科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	2	3	0	1	0	—	—	—
研究演習科目	研究基礎ゼミナール	3後		2			○		4	3	1	1				
	卒業研究基礎	3後		2			○		4	3	1	1				
	ゼミナール1	4前		2			○		4	3	1	1				
	研究ゼミナール1	4前		2			○		4	3	1	1				
	卒業研究1	4前		3			○		4	3	1	1				
	ゼミナール2	4後	2	2			○		4	3	1	1				
	研究ゼミナール2	4後		2			○		4	3	1	1				
	卒業研究2	4後		3			○		4	3	1	1				
小計(8科目)	—	—	2	18	0	—	—	—	4	3	1	1	0	—	—	—
理系基盤科目	生物学	1前・後		4		○										兼1
	化学	1前・後		4		○										兼1
	物理学	1前・後		4		○										兼1
	地学	1前・後		4		○										兼1
	数学	1前・後		4		○										兼1
	生物学実験	1後		2				○								兼3
	化学実験	2前		2				○								兼3
	物理学実験	1後・2前		2				○								兼4
小計(8科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼12	—	
教職科目	情報リテラシーA	1前・後		2		○										兼2
	情報リテラシーB	1前・後		2		○										兼2
	地学実験	2前・後		1				○								兼1
	理科教育法1	3前		2		○										兼1
	理科教育法2	3後		2		○										兼1
	理科教材論	3後		2		○										兼1
	理科教育実践論	3後		2		○										兼1
	小計(7科目)	—	—	0	13	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼3	—
合計(89科目)		—	—	36	141	0	—	—	—	4	3	1	1	0	兼50	—
学位又は称号		学士(理学)			学位又は学科の分野			理学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
以下の合計で124単位以上修得する。 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅰ 現代文明論：2単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅱ 現代教養科目：12単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅲ 英語科目：8単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳ 主専攻科目：72単位 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位：30単位 合計：124単位修得							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		14週							
							1時限の授業時間		100分							

授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目群	総合生物学特論	<p>（概要）生物学の領野を支える生理学と生態学について、それぞれ陸圏および水圏に生息する動物を研究対象とする教員が各々の視点から専門的な解説を行うことにより、生物学を総合的に探究するための考え方を学修する。また、学生は様々な専門的視点から議論を行い、複数分野による知識の体系化によって俯瞰的に物事を判断する方法を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全14回） （3 櫻井 泉/3回） 生態学においては、生活史特性や個体群動態、種間関係、群集構造、環境への応答、生態系の維持といった個体レベル以上の生物現象が扱われる。本講義では、藻場・干潟に生息する海洋生物の成長、繁殖、個体群動態および環境応答の具体的事例を解説することにより、海洋生物研究に対する生態学的アプローチの考え方を育成する。</p> <p>（2 木原 稔/3回） この回では水族が生きていくための戦略を生理学的な面から考察する。具体的には、摂食と消化・吸収、成長、繁殖などについて分子レベルから個体レベルの反応を学び、水圏生物の生体内のしくみについて議論する。</p> <p>（9 河合 久仁子/3回） 本講義では、陸域に生息する生物のうち生活史特性と個体群動態について着目する。具体例を解説することにより、陸域生物の個体群動態に対する素養を身につける。</p> <p>（6 寺尾 晶/3回） 動物が様々な環境変化に対して生体の内部環境を一定に保つための恒常性維持機構を理解することは、動物生理学を学ぶ上で重要なテーマである。本講義では、生理的に生体恒常性を調節する系として重要な内分泌系と神経系の応答を中心に解説することにより、基礎生物学研究を進める上での生理学的アプローチの考え方を育成する。</p> <p>（8 大橋 正臣/2回） 生物の種々の現象は、生物学的な知見をもとに構築された数理モデルを用い、これを数学的手法やコンピュータによる数値計算を利用して解析される。このような数値解析の結果・考察は、種々の現象に対する生物学的な論点の抽出や知見の体系化の手掛かりを与えてくれる。本講義では生物学的な数理モデル、方程式の離散化や数値計算の手法などについての具体的事例を解説することにより、海洋生物研究に対する数値解析の考え方を育成する。</p>	オムニバス方式
	科学英語特論	<p>英語で記述された生物学に関する学術論文や記事を読み取る力を修得するとともに、国際会議での発表、情報交換ができる会話力を身につけることを目標として、リーディング、スピーキング、およびライティングを中心に生物学に特化した英語力を養成する。特に、自分の考えや文化的情報を簡潔な英語で伝える力、および論文アブストラクト作成に必要な基本的表現など、実践的な力の養成に重点を置く。授業終了後も、学び取った学習方略を使いながら自立的に英語力を向上させる継続力を育成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	脊椎動物学特論A	<p>(概要) 陸棲哺乳類と海棲哺乳類を対象として、分類学や系統学、進化学、生態学、行動学等の各研究分野の理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (9 河合 久仁子/7回)</p> <p>本講義では、主に日本列島に生息する陸棲哺乳類を対象として、分類学、系統学、生物地理学および生態学について、より発展した内容を扱う。人間活動との軋轢が問題となっている事例も取り上げながら、保全生態学や野生動物保護管理学に関する内容についても触れる。</p> <p>(10 北 夕紀/7回)</p> <p>鯨類、鰭脚類を主に対象とした海棲哺乳類の分類学、系統学、生物地理学、生態学、行動学を学ぶ。特に、北海道は国内でも鯨類や鰭脚類が多く来遊する場所として知られていることから、北海道に来遊する種を中心に、人間活動と海棲哺乳類との関係についても触れながら自然生態系保全についても扱う。</p>	オムニバス方式
	脊椎動物学特論B	<p>(概要) 鳥類と爬虫両生類を対象として、分類学や系統学、進化学、生態学、行動学等の各研究分野の理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (11 鈴木 大/7回)</p> <p>本講義では、爬虫類と両生類を対象とし、主に分類学、系統学、生物地理学、生態学を軸にした発展した内容を扱う。特に、日本国内に生息する種を中心に扱う。近年、爬虫類や両生類の外来種が問題となっている事例も多く報告されているため、自然生態系保全についても扱う。</p> <p>(12 松井 晋/7回)</p> <p>本講義は、鳥類を主な対象として、分類、進化、生態の各分野についての理解を深め、ユーラシア大陸の東に位置し、南北約3000kmに及ぶ日本列島に分布する鳥類の亜寒帯、温帯、亜熱帯の各生態系での環境適応や保全について総合的に検討する力を養う。</p>	オムニバス方式
	脊椎動物学特論C	<p>魚類は脊椎動物のなかでも種数が多く、生理・生態・行動の多様性も著しい。また、そうした多様性の進化的成立過程もきわめてバリエーションに富む。既存の知識体系に立脚してこれらの諸特性を理解することは、脊椎動物全体の成り立ちを理解するうえで重要だが、あらたな研究や方法論の登場により定説が容易にくつがえされる分野であることも事実である。本科目では、魚類学の諸分野のうち分類・系統・生理・生態・行動・進化およびそれらの融合分野を講究し、既存の研究成果を批判的に検討する能力を身につけるとともに、魚類学の調査分析法を修得することを目的とする。魚類学の基礎研究成果の大部分が英語論文で発表されることに鑑みて、教材は英語文献を主とする。</p>	
	無脊椎動物学特論	<p>浅海域に生息する底生動物を対象として、担当教員による講義および受講者による文献講読や討議等を通じて、分類、生理・生態、生活史特性、個体群動態、種間競争、群集生態、生態系における役割および人間活動との関係（主に水産業）に関する理解を深めるとともに、調査・分析手法を修得する。なお、本特論で取り扱う底生動物は、軟体動物（腹足類・二枚貝類）、環形動物（多毛類）、節足動物（端脚類・等脚類・十脚類）および棘皮動物（ウニ類・ナマコ類）とし、これらの生息基盤となる海藻類も対象に含めることとする。</p>	

基礎 科 目 群	数理生物学特論	<p>(概要) 生物現象に関する科学的問題を考察する場合、確率過程、微分方程式、差分方程式、オートマトンなどの理論を基礎にして構築された数理モデルを利用し、この解析結果をもとに科学的論点を解明することは有効である。本講義では、陸域・海域の生物に対する様々な生物現象に対応した数理モデルについて、目的、方法、結果の解釈など包括的に理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (5 サバウ バシレ ソリン/7回) 生物学的な現象の多くは時間に関する力学系でモデル化されており、その力学系の性質から生物学的に有意と思われる結論を導き出すことができる。本授業では、力学系の基礎や生物学における応用を解説する。</p> <p>(8 大橋 正臣/7回) 海産生物(基礎生産者として植物プランクトンおよび海藻類、消費者として魚類や二枚貝)を対象にした数理モデルについて解説する。</p>	オムニバス方式
	大気海洋環境学特論	<p>地球環境に生じている現象は、物理、生物、化学的過程のさまざまな要因が重なり合った結果である。大気海洋間で起こる相互作用は地球環境や生物活動と密接に関係している。本講義では、大気や海水中の化学物質の環境や生物への影響、分布や濃度を定める要因、移動や循環がどのように起こっているのかを理解する。また、過去の地球環境を読み取る方法を学び、未来の地球環境変化をどのように予測していくかについて学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命科学科目群	動物生理学特論	<p>（概要）動物生理学特論では、動物の主要な臓器の生理的役割を学ぶことで、動物個体の機能が如何に調節・維持されているかを理解する能力を身につけることを目標とする。更に共通の原理に基づきながらも多彩な生き様を示す生物の多様性について理解する。これらの学習に加えて関連する分野の最先端の研究についても学ぶ。</p> <p>オムニバス方式/全14回 (6 寺尾 晶/7回) 生命活動を支えている循環器系（心臓・血管）、呼吸器系（気道と肺）、消化器系（胃腸管・肝臓・唾液腺・膵臓・胆嚢）、内分泌系、神経系の働きと調節機構について解説する。</p> <p>(2 木原 稔/7回) この授業では、動物の消化管機能、とくに腸内細菌と宿主の生理反応、腸内発酵と宿主の生理反応について比較生理学的視点から議論する。消化管研究、腸内細菌研究を支える最新の手法や技術について学び、アブライドバイオロジーとしての動物生産に関わる技術展開を討論する。</p>	オムニバス方式
	栄養生理学特論	<p>この授業では、栄養素が動物の体内で利用されるプロセスや、栄養素が有する生理作用について、それぞれの栄養素の消化と吸収、体内での利用を中心に講義する。この授業を通して、栄養素と個々の器官、個体との関連性を理解するとともに、栄養生理学的実験手法について詳しく学び、総合的に研究をすすめるうえでの基礎知識、実践技術を得ることを目標とする。</p>	
	組織学特論	<p>生体は、細胞、組織、臓器、器官および個体の階層構造となっており、生体固有の機能を発現する。そこで本講義では、細胞、細胞と組織の係わりと特性、組織と臓器・器官の係わりについて学び、生体に固有の機能発現について生理学の理解を深める。また同時に、幹細胞、細胞を組織・臓器化するまで分化・成長させるまでのプロセスとその応用について、英文テキストや英文Review論文を用いて学修する。</p>	
	環境生理学特論	<p>生物が環境をどのように捉えているのかを理解することは生理学における重要なテーマの一つである。環境生理学では、外部環境が人体の内部状態にどのような影響を及ぼし、どのような適応変化を生み出すかを明らかにすることを目的とする。本講義では、生体リズム、体温、睡眠・覚醒、といった基本的な生体調節系が、ストレスや感染などによる外部環境の変化にどのように対応するかについて、実際の研究例を引用しながら解説する。</p>	
	生殖生物学特論	<p>生殖は生物が世代を超えて維持されるために必須の生命現象である。現代生命科学に於ける生殖生物学の持つ意義や概念について学習し、配偶子形成過程や、受精からはじまる個体への初期発生過程を、形態及び分子の言葉で理解することを目指す。生殖機構に於ける生物種間の共通性と多様性について、様々な問題を提起し最新の知見を解説することにより、研究材料や方法論、実験システムの組み立て方などについて学ぶ機会とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生態科学科目群	動物生態学特論	<p>(概要) 生態学においては、生活史特性や個体群動態、種間関係、群集構造、環境への応答、生態系の維持といった個体レベル以上の生物現象が扱われる。前半部では、個体群動態について取り上げ、生命表や成長モデル、密度効果、生活史などとの関係について解説する。後半部では、行動生態学の内容を中心に、動物の行動と適応戦略、動物の環境選好性と生物間相互作用などを学び、生態学に基づいて総合的に探求するための考え方を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (9 河合 久仁子/7回) 個体の空間分布、成長モデルと生命表、密度効果、生活史の進化、小ままとめと理解度の確認テスト。</p> <p>(12 松井 晋/7回) 自然淘汰、性淘汰、進化的軍拡競争、配偶システム、社会行動、小ままとめと理解度の確認テスト。</p>	オムニバス方式
	保全生態学特論	<p>(概要) 自然の摂理であった生物の絶滅は、人類の登場によって大きく変化した。すなわち、過度の狩猟、生息場所の破壊、外来種の持ち込み、環境汚染などである。このため、現存している種の保全は世界的に重要な課題であると認識され始めている。本科目では、「生物多様性の価値」、「生物多様性と種多様性」、「生物間相互作用」という3つの柱を基本として、生物とその環境の相互作用について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (10 北 夕紀/7回) 保全生態学とはなにか、保全生物学と保全生態学、海棲哺乳類の保全、ペンギンの保全、小ままとめ。</p> <p>(11 鈴木 大/7回) 魚類の保全、両生類の保全、爬虫類の保全、小ままとめ、総括。</p>	オムニバス方式
	動物地理学特論	<p>(概要) 本講義では、動物地理学における系統地理学を中心に、近縁種間や種内の地理的分布を決定する原理と過程を総合的に検討する力を養うことを目標とする。前半部では、(1)系統地理学における分子系統学の重要性を理解し、(2)分子系統学の基礎的方法論や概念について具体例を紹介しつつ解説する。後半部では、分子系統学の研究成果から、(3)分断と分散を示すいくつかのパターンを学び、(4)具体的な研究事例を解説することで、動物地理学的視点の導きかたとその意義について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (11 鈴木 大/7回) 動物地理学概論、種分化、生物分類群ごとの事例（主に爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物）、小ままとめと理解度の確認テスト。</p> <p>(9 河合 久仁子/7回) 生物地理区と生物分布、分子系統学、遺伝的変異と地理的変異、生物分類群ごとの事例（主に哺乳類、鳥類）、総括。</p>	オムニバス方式
	多様性生物学特論	<p>(概要) 生物多様性は3つの階層、すなわち「種内の多様性」、「種の多様性」、「生態系の多様性」にわけて捉えることができる。本科目ではまず、3つの階層それぞれの意味と相互のかかわり、ならびに人間活動との関係を概観する。次に、「種内の多様性」と「種の多様性」に焦点をあて、脊椎動物を主な題材としてそれぞれの調査分析方法と最先端の知見を修得する。とりわけ、あらゆる生物の「種内の多様性」と「種の多様性」のもととなる遺伝情報に関する事項を中心にとりあげる。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (13 武藤 望生/7回) 生物多様性とはなにか、生物多様性と人間活動、魚類の種多様性、魚類の種内多様性、小ままとめ。</p> <p>(10 北 夕紀/7回) ペンギンの種多様性、ペンギンの種内多様性、海棲哺乳類の種多様性、海棲哺乳類の種内多様性、総括。</p>	オムニバス方式

<p style="text-align: center;">生態 科学 科目 目 群</p>	<p>生態系モデリング学特論</p>	<p>生態学は生態系の静的な状態だけではなく動的な変化を包含する学問であり、水圏生態系においては構成する主要生物(植物プランクトンや動物プランクトンなど)と非生物(無機態栄養塩や有機物など)の時々刻々の振る舞いを理解する必要がある。観測データを再現している生態系モデルは、モデル内で起こっている現象から観測データを決定づける原因究明や対象域の物質収支などを解析・予測するツールとして有用である。本特論では水圏生態系における構成要素の生物化学的変化、構成要素間の相互作用、これらを取り巻く環境に関するモデル化について学び、多様な水環境を解析するための方法について理解を深める。これとともに各生物と非生物的環境の複雑な関連性を考察する知識を習得する。</p>	
---	--------------------	---	--

授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究ゼミナール	生物学研究ゼミナール1	<p>(概要) 生物学研究ゼミナール1は第1セメスターに履修する科目であり、担当教員のもと生物学に関する選択したテーマについて基礎的な知識を習得するとともに、研究に必要な論理的思考力や論文執筆のために必要な文章表現力を身につける。このため、関連する文献を調べ、研究テーマの目的や背景を良く理解するとともに、2年間の大まかな研究計画を策定し、それに必要な理論や研究手法、実験技術について学ぶ。</p> <p>担当教員が研究指導を行う専門領域や研究テーマの概要は以下の通りである。</p> <p>(1 岡本 英治) ヒトを含めた動物の生体機能の理解を深めることを目的に循環生理と組織再生に関する制御調整機構の解明と、その機能促進・改善とその応用に関する研究。</p> <p>(2 木原 稔) ヒトを含めた動物の疾病予防、健康維持、成長制御を目的とした、水産物消化管由来の生理活性物質および腸内細菌の探索・利用に関する研究。</p> <p>(3 櫻井 泉) 海産底生動物群集の形成および維持機構の解明を目的とした生活史特性、個体群動態、種間関係、群集構造および環境への応答に関する研究。</p> <p>(4 佐藤 陽子) 多様な動物種の雄性生殖器官と精子の形成機構、受精メカニズム、精子保存に関する比較発生学、比較生理学、保全生物学の視点からの生殖生物学に関する研究。</p> <p>(5 サバウ バシレ ソリン) 生物現象の数学的解析手法の確立を念頭に、遺伝子群の検索とその発現解析や、数学モデルを用いたシミュレーションによる細胞内タンパク質生成に関する研究。</p> <p>(6 寺尾 晶) ヒトを含めた動物の健康寿命延伸をテーマに、生理学的あるいは分子生物学的な手法を用いた生活リズム、睡眠、肥満を対象とした環境生理学に関する研究。</p> <p>(7 南 秀樹) 地球環境や海洋環境を理解することを念頭に、海洋生物と密接に関わる化学物質の移動循環過程解明や、生物化学的手法を用いた古環境復元に関する研究。</p> <p>(8 大橋 正臣) 沿岸域における波浪・流動等の物理環境と生息生物の関係性を解明するために、現地観測結果や数値計算を用いた沿岸環境学および数理生態学に関する研究。</p> <p>(9 河合 久仁子) 陸棲哺乳類の野外調査で得られたデータおよび試料に基づく分子生物学的手法を用いた系統地理学、保全遺伝学ならびに哺乳類学に関する研究。</p> <p>(10 北 夕紀) 鯨類、鯨脚類を中心とした海棲哺乳類の生態解明を目的とした、集団遺伝学、行動学、系統地理学に関する研究。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究ゼミナール</p>	<p>生物学研究ゼミナール1</p>	<p>(11 鈴木 大) 爬虫類や両生類を対象とした分類学、系統学、集団遺伝学、生態学および外来種問題を含む在来種や在来生態系の保全に関する研究。</p> <p>(12 松井 晋) 日本列島に広域分布する鳥類を対象とする繁殖生態の長期モニタリングに基づいて、鳥類の生活史形質の緯度変異と環境適応を解明することを目指した研究。</p> <p>(13 武藤 望生) 海産魚類の多様性およびその形成過程の解明を目的とした、分類学・生物地理学・集団遺伝学・系統学に関する研究。</p>	
--	--------------------	--	--

授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究ゼミナール	生物学研究ゼミナール2	<p>（概要）生物学研究ゼミナール1で選択した研究テーマに沿って既往文献の講読や調査・実験の中間発表を通して討論を行い、専門領域に関する高度な知識の習得と研究計画の妥当性を検討するとともに、見直しを行う。 担当教員が研究指導を行う専門領域や研究テーマの概要は以下の通りである。</p> <p>(1 岡本 英治) ヒトを含めた動物の生体機能の理解を深めることを目的に循環生理と組織再生に関する制御調整機構の解明と、その機能促進・改善とその応用に関する研究。</p> <p>(2 木原 稔) ヒトを含めた動物の疾病予防、健康維持、成長制御を目的とした、水産物消化管由来の生理活性物質および腸内細菌の探索・利用に関する研究。</p> <p>(3 櫻井 泉) 海産底生動物群集の形成および維持機構の解明を目的とした生活史特性、個体群動態、種間関係、群集構造および環境への応答に関する研究。</p> <p>(4 佐藤 陽子) 多様な動物種の雄性生殖器官と精子の形成機構、受精メカニズム、精子保存に関する比較発生学、比較生理学、保全生物学の視点からの生殖生物学に関する研究。</p> <p>(5 サバウ バシレ ソリン) 生物現象の数学的解析手法の確立を念頭に、遺伝子群の検索とその発現解析や、数学モデルを用いたシミュレーションによる細胞内タンパク質生成に関する研究。</p> <p>(6 寺尾 晶) ヒトを含めた動物の健康寿命延伸をテーマに、生理学的あるいは分子生物学的な手法を用いた生活リズム、睡眠、肥満を対象とした環境生理学に関する研究。</p> <p>(7 南 秀樹) 地球環境や海洋環境を理解することを念頭に、海洋生物と密接に関わる化学物質の移動循環過程解明や、生物化学的手法を用いた古環境復元に関する研究。</p> <p>(8 大橋 正臣) 沿岸域における波浪・流動等の物理環境と生息生物の関係性を解明するために、現地観測結果や数値計算を用いた沿岸環境学および数理生態学に関する研究。</p> <p>(9 河合 久仁子) 陸棲哺乳類の野外調査で得られたデータおよび試料に基づく分子生物学的手法を用いた系統地理学、保全遺伝学ならびに哺乳類学に関する研究。</p> <p>(10 北 夕紀) 鯨類、鯨脚類を中心とした海棲哺乳類の生態解明を目的とした、集団遺伝学、行動学、系統地理学に関する研究。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究ゼミナール</p>	<p>海洋学研究ゼミナール2</p>	<p>(11 鈴木 大) 爬虫類や両生類を対象とした分類学、系統学、集団遺伝学、生態学および外来種問題を含む在来種や在来生態系の保全に関する研究。</p> <p>(12 松井 晋) 日本列島に広域分布する鳥類を対象とする繁殖生態の長期モニタリングに基づいて、鳥類の生活史形質の緯度変異と環境適応を解明することを目指した研究。</p> <p>(13 武藤 望生) 海産魚類の多様性およびその形成過程の解明を目的とした、分類学・生物地理学・集団遺伝学・系統学に関する研究。</p>	
--	--------------------	--	--

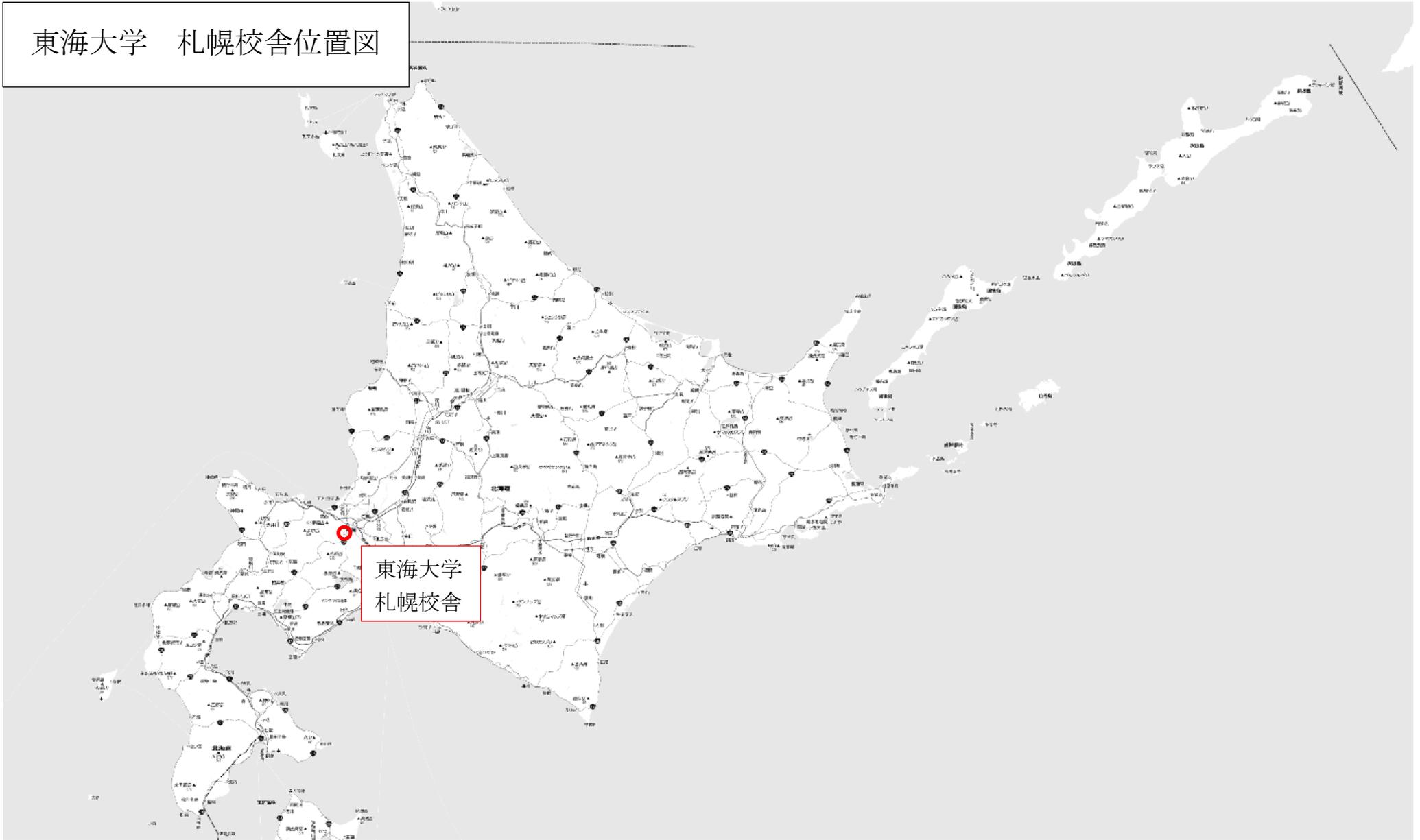
授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究ゼミナール	生物学研究ゼミナール3	<p>（概要）生物学研究ゼミナール2までに立案された研究計画をもとに、必要な調査・実験の実施とデータの整理・分析を行う。学生間もしくは教員と学生の間で結果に関して議論を行うことにより、修士論文の作成を進める。また、研究成果の外部への発表等を通して、研究発表能力や論文作成技術を涵養する。</p> <p>担当教員が研究指導を行う専門領域や研究テーマの概要は以下の通りである。</p> <p>(1 岡本 英治) ヒトを含めた動物の生体機能の理解を深めることを目的に循環生理と組織再生に関する制御調整機構の解明と、その機能促進・改善とその応用に関する研究。</p> <p>(2 木原 稔) ヒトを含めた動物の疾病予防、健康維持、成長制御を目的とした、水産物消化管由来の生理活性物質および腸内細菌の探索・利用に関する研究。</p> <p>(3 櫻井 泉) 海産底生動物群集の形成および維持機構の解明を目的とした生活史特性、個体群動態、種間関係、群集構造および環境への応答に関する研究。</p> <p>(4 佐藤 陽子) 多様な動物種の雄性生殖器官と精子の形成機構、受精メカニズム、精子保存に関する比較発生学、比較生理学、保全生物学の視点からの生殖生物学に関する研究。</p> <p>(5 サバウ バシレ ソリン) 生物現象の数学的解析手法の確立を念頭に、遺伝子群の検索とその発現解析や、数学モデルを用いたシミュレーションによる細胞内タンパク質生成に関する研究。</p> <p>(6 寺尾 晶) ヒトを含めた動物の健康寿命延伸をテーマに、生理学的あるいは分子生物学的な手法を用いた生活リズム、睡眠、肥満を対象とした環境生理学に関する研究。</p> <p>(7 南 秀樹) 地球環境や海洋環境を理解することを念頭に、海洋生物と密接に関わる化学物質の移動循環過程解明や、生物化学的手法を用いた古環境復元に関する研究。</p> <p>(8 大橋 正臣) 沿岸域における波浪・流動等の物理環境と生息生物の関係性を解明するために、現地観測結果や数値計算を用いた沿岸環境学および数理生態学に関する研究。</p> <p>(9 河合 久仁子) 陸棲哺乳類の野外調査で得られたデータおよび試料に基づく分子生物学的手法を用いた系統地理学、保全遺伝学ならびに哺乳類学に関する研究。</p> <p>(10 北 夕紀) 鯨類、鰭脚類を中心とした海棲哺乳類の生態解明を目的とした、集団遺伝学、行動学、系統地理学に関する研究。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究ゼミナール</p>	<p>生物学研究ゼミナール3</p>	<p>(11 鈴木 大) 爬虫類や両生類を対象とした分類学、系統学、集団遺伝学、生態学および外来種問題を含む在来種や在来生態系の保全に関する研究。</p> <p>(12 松井 晋) 日本列島に広域分布する鳥類を対象とする繁殖生態の長期モニタリングに基づいて、鳥類の生活史形質の緯度変異と環境適応を解明することを目指した研究。</p> <p>(13 武藤 望生) 海産魚類の多様性およびその形成過程の解明を目的とした、分類学・生物地理学・集団遺伝学・系統学に関する研究。</p>	
--	--------------------	--	--

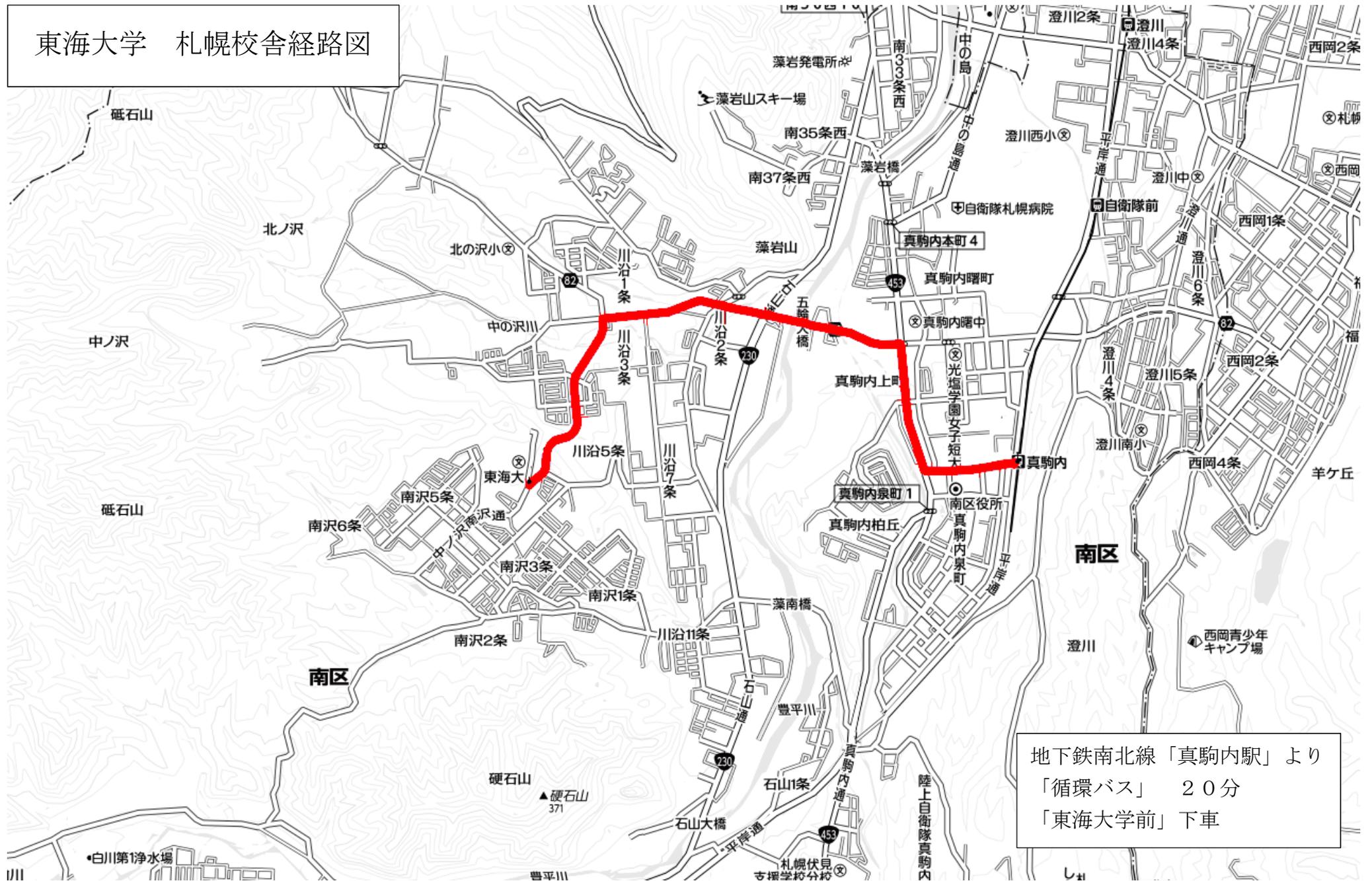
授 業 科 目 の 概 要			
(生物学研究科 生物学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究ゼミナール	生物学研究ゼミナール4	<p>(概要) 研究計画に沿って進められてきた調査や実験、およびデータの整理結果やそこから得られた考察をもとに、自身の考えをまとめて修士論文を作成する。 担当教員が研究指導を行う専門領域や研究テーマの概要は以下の通りである。</p> <p>(1 岡本 英治) ヒトを含めた動物の生体機能の理解を深めることを目的に循環生理と組織再生に関する制御調整機構の解明と、その機能促進・改善とその応用に関する研究。</p> <p>(2 木原 稔) ヒトを含めた動物の疾病予防、健康維持、成長制御を目的とした、水産物消化管由来の生理活性物質および腸内細菌の探索・利用に関する研究。</p> <p>(3 櫻井 泉) 海産底生動物群集の形成および維持機構の解明を目的とした生活史特性、個体群動態、種間関係、群集構造および環境への応答に関する研究。</p> <p>(4 佐藤 陽子) 多様な動物種の雄性生殖器官と精子の形成機構、受精メカニズム、精子保存に関する比較発生学、比較生理学、保全生物学の視点からの生殖生物学に関する研究。</p> <p>(5 サバウ バシレ ソリン) 生物現象の数学的解析手法の確立を念頭に、遺伝子群の検索とその発現解析や、数学モデルを用いたシミュレーションによる細胞内タンパク質生成に関する研究。</p> <p>(6 寺尾 晶) ヒトを含めた動物の健康寿命延伸をテーマに、生理学的あるいは分子生物学的手法を用いた生活リズム、睡眠、肥満を対象とした環境生理学に関する研究。</p> <p>(7 南 秀樹) 地球環境や海洋環境を理解することを念頭に、海洋生物と密接に関わる化学物質の移動循環過程解明や、生物化学的手法を用いた古環境復元に関する研究。</p> <p>(8 大橋 正臣) 沿岸域における波浪・流動等の物理環境と生息生物の関係性を解明するために、現地観測結果や数値計算を用いた沿岸環境学および数理生態学に関する研究。</p> <p>(9 河合 久仁子) 陸棲哺乳類の野外調査で得られたデータおよび試料に基づく分子生物学的手法を用いた系統地理学、保全遺伝学ならびに哺乳類学に関する研究。</p> <p>(10 北 夕紀) 鯨類、鯨脚類を中心とした海棲哺乳類の生態解明を目的とした、集団遺伝学、行動学、系統地理学に関する研究。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究ゼミナール</p>	<p>生物学研究ゼミナール4</p>	<p>(11 鈴木 大) 爬虫類や両生類を対象とした分類学、系統学、集団遺伝学、生態学および外来種問題を含む在来種や在来生態系の保全に関する研究。</p> <p>(12 松井 晋) 日本列島に広域分布する鳥類を対象とする繁殖生態の長期モニタリングに基づいて、鳥類の生活史形質の緯度変異と環境適応を解明することを目指した研究。</p> <p>(13 武藤 望生) 海産魚類の多様性およびその形成過程の解明を目的とした、分類学・生物地理学・集団遺伝学・系統学に関する研究。</p>	
--	--------------------	--	--

東海大学 札幌校舎位置図

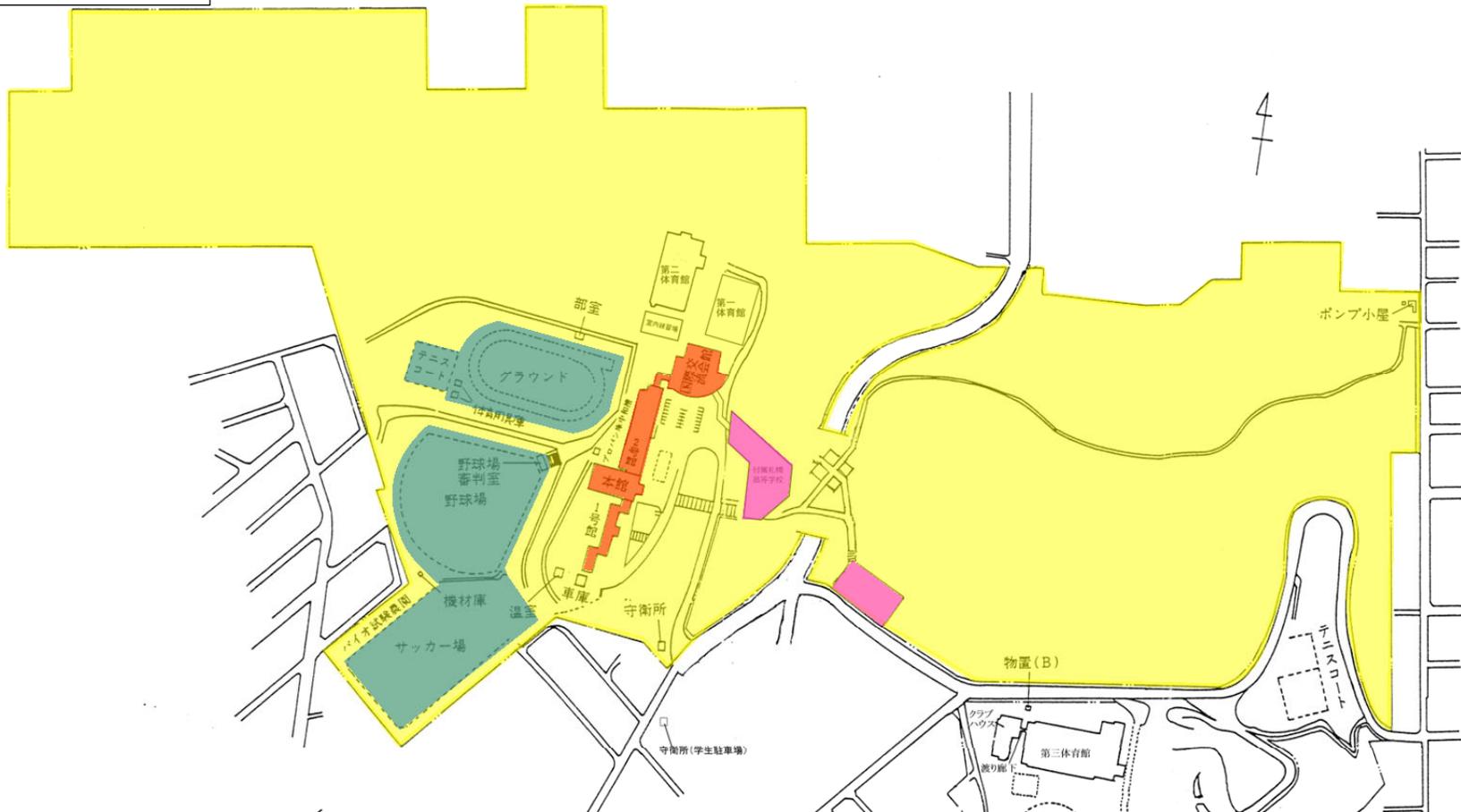


東海大学 札幌校舎経路図



地下鉄南北線「真駒内駅」より
「循環バス」 20分
「東海大学前」下車

札幌校舎 配置図



校 地 等	区分	専用	共用	共用する他 学校の専用	計
	校舎敷地	416,781.60㎡	0.00㎡	0.00㎡	416,781.60㎡
	運動場用地	62,240.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	62,240.00㎡
	小計	479,021.60㎡	0.00㎡	0.00㎡	479,021.60㎡
	その他	4,187.83㎡	0.00㎡	0.00㎡	4,187.83㎡
合計	483,209.43㎡	0.00㎡	0.00㎡	483,209.43㎡	
校舎		専用	共用	共用する他 学校の専用	計
		25,465.13㎡	0.00㎡	0.00㎡	25,465.13㎡

- 校舎等敷地 (校地面積)
- 運動場用地 (校地面積)
- その他 (校地面積外)
- 生物学研究科が使用する校舎

東海大学大学院学則の変更事項を記載した書類

1. 変更の事由

令和2年度、東海大学大学院に生物学研究科生物学専攻を設置するため。

2. 変更点

①生物学研究科生物学専攻（修士課程）を設置し、修士（理学）を授与する。

②生物学研究科生物学専攻（修士課程）の入学定員は8名、収容定員は16名とする。

以 上

新	旧	備 考																																																										
<p style="text-align: center;">○東海大学大学院学則</p> <p style="text-align: right;">(制定 昭和38年4月1日) 改訂 昭和39年4月1日 昭和40年4月1日 中略 平成30年4月1日 平成31年4月1日 <u>令和2年4月1日</u></p> <p>[第1条～第5条まで略]</p> <p style="text-align: center;">第2章 研究科，専攻等</p> <p>第6条 本学大学院に，次の研究科・専攻及び課程を置く。 大学院</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">研 究 科 名</th> <th style="width: 30%;">専 攻 名</th> <th style="width: 40%;">修士課程・博士課程の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合理工学研究科</td> <td>総合理工学専攻</td> <td>博士課程</td> </tr> <tr> <td>地球環境科学研究科</td> <td>地球環境科学専攻</td> <td>博士課程</td> </tr> <tr> <td>生物科学研究科</td> <td>生物科学専攻</td> <td>博士課程</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">文学研究科</td> <td>文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>観光学専攻</td> <td>修士課程</td> </tr> <tr> <td>政治学研究科</td> <td>政治学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>経済学研究科</td> <td>応用経済学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>法学研究科</td> <td>法律学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>人間環境学研究科</td> <td>人間環境学専攻</td> <td>修士課程</td> </tr> </tbody> </table>	研 究 科 名	専 攻 名	修士課程・博士課程の別	総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程	地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	博士課程	生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程	文学研究科	文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻	博士課程（前期・後期）	観光学専攻	修士課程	政治学研究科	政治学専攻	博士課程（前期・後期）	経済学研究科	応用経済学専攻	博士課程（前期・後期）	法学研究科	法律学専攻	博士課程（前期・後期）	人間環境学研究科	人間環境学専攻	修士課程	<p style="text-align: center;">○東海大学大学院学則</p> <p style="text-align: right;">(制定 昭和38年4月1日) 改訂 昭和39年4月1日 昭和40年4月1日 中略 平成30年4月1日 平成31年4月1日</p> <p>[[第1条～第5条まで略]]</p> <p style="text-align: center;">第2章 研究科，専攻等</p> <p>第6条 本学大学院に，次の研究科・専攻及び課程を置く。 大学院</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">研 究 科 名</th> <th style="width: 30%;">専 攻 名</th> <th style="width: 40%;">修士課程・博士課程の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合理工学研究科</td> <td>総合理工学専攻</td> <td>博士課程</td> </tr> <tr> <td>地球環境科学研究科</td> <td>地球環境科学専攻</td> <td>博士課程</td> </tr> <tr> <td>生物科学研究科</td> <td>生物科学専攻</td> <td>博士課程</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">文学研究科</td> <td>文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>観光学専攻</td> <td>修士課程</td> </tr> <tr> <td>政治学研究科</td> <td>政治学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>経済学研究科</td> <td>応用経済学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>法学研究科</td> <td>法律学専攻</td> <td>博士課程（前期・後期）</td> </tr> <tr> <td>人間環境学研究科</td> <td>人間環境学専攻</td> <td>修士課程</td> </tr> </tbody> </table>	研 究 科 名	専 攻 名	修士課程・博士課程の別	総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程	地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	博士課程	生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程	文学研究科	文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻	博士課程（前期・後期）	観光学専攻	修士課程	政治学研究科	政治学専攻	博士課程（前期・後期）	経済学研究科	応用経済学専攻	博士課程（前期・後期）	法学研究科	法律学専攻	博士課程（前期・後期）	人間環境学研究科	人間環境学専攻	修士課程	<p style="text-align: center;">改訂日追加</p>
研 究 科 名	専 攻 名	修士課程・博士課程の別																																																										
総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程																																																										
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	博士課程																																																										
生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程																																																										
文学研究科	文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
	観光学専攻	修士課程																																																										
政治学研究科	政治学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
経済学研究科	応用経済学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
法学研究科	法律学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
人間環境学研究科	人間環境学専攻	修士課程																																																										
研 究 科 名	専 攻 名	修士課程・博士課程の別																																																										
総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程																																																										
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	博士課程																																																										
生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程																																																										
文学研究科	文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
	観光学専攻	修士課程																																																										
政治学研究科	政治学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
経済学研究科	応用経済学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
法学研究科	法律学専攻	博士課程（前期・後期）																																																										
人間環境学研究科	人間環境学専攻	修士課程																																																										

新			旧			備考
芸術学研究科	音響芸術専攻 造型芸術専攻	修士課程	芸術学研究科	音響芸術専攻 造型芸術専攻	修士課程	追加
体育学研究科	体育学専攻	修士課程	体育学研究科	体育学専攻	修士課程	
理学研究科	数理科学専攻 物理学専攻 化学専攻	修士課程	理学研究科	数理科学専攻 物理学専攻 化学専攻	修士課程	
工学研究科	電気電子工学専攻 応用理化学専攻 建築土木工学専攻 機械工学専攻 医用生体工学専攻	修士課程	工学研究科	電気電子工学専攻 応用理化学専攻 建築土木工学専攻 機械工学専攻 医用生体工学専攻	修士課程	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	修士課程	情報通信学研究科	情報通信学専攻	修士課程	
海洋学研究科	海洋学専攻	修士課程	海洋学研究科	海洋学専攻	修士課程	
医学研究科	先端医科学専攻	博士課程	医学研究科	先端医科学専攻	博士課程	
	医科学専攻	修士課程		医科学専攻	修士課程	
健康科学研究科	看護学専攻 保健福祉学専攻	修士課程	健康科学研究科	看護学専攻 保健福祉学専攻	修士課程	
農学研究科	農学専攻	修士課程	農学研究科	農学専攻	修士課程	
生物学研究科	生物学専攻	修士課程				
〔第7条～第18条まで略〕			〔第7条～第18条まで略〕			
<p>第19条 修士課程及び博士課程前期については、2年以上在学し、専攻する専門課程の科目につき、必修・選択科目を通じて次の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上修士論文又はこれに代わる研究成果を指導教員を通じて研究科長に提出し、その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし、優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば</p>			<p>第19条 修士課程及び博士課程前期については、2年以上在学し、専攻する専門課程の科目につき、必修・選択科目を通じて次の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上修士論文又はこれに代わる研究成果を指導教員を通じて研究科長に提出し、その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし、優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば</p>			

新									旧									備考	
足りるものとする。									足りるものとする。									追加	
研 究 科	文 学	政治学	経済学	法 学	人間 環境学	芸術学	体育学	理 学	研 究 科	文 学	政治学	経済学	法 学	人間 環境学	芸術学	体育学	理 学		
単 位 数	30	32	30	32	32	30	30	30	単 位 数	30	32	30	32	32	30	30	30		
工 学	情報 通信学	海洋学	医 学	健康科学	農 学	生 物			工 学	情報 通信学	海洋学	医 学	健康科学	農 学					
36	30	32	30	30	30	32			36	30	32	30	30	30					
<p>2 前項について修士課程及び博士課程前期の目的に応じ当該研究科教授会が適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p> <p>3 入学後に第15条第2項、第16条の2及び第16条の3による履修によって修得した単位については、合わせて10単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て、これを第1項の単位に含めることができる。</p>									<p>2 前項について修士課程及び博士課程前期の目的に応じ当該研究科教授会が適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p> <p>3 入学後に第15条第2項、第16条の2及び第16条の3による履修によって修得した単位については、合わせて10単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て、これを第1項の単位に含めることができる。</p>										
〔第20条～第21条まで略〕									〔第20条～第21条まで略〕										
<p>第22条 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第19条に定める修了の所要単位のほか、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める単位を修得しなければならない。</p> <p>2 大学院において免許状授与の所要資格を得ることができる教育職員免許状の種類及び免許教科の種類は、次のとおりとする。</p>									<p>第22条 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第19条に定める修了の所要単位のほか、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める単位を修得しなければならない。</p> <p>2 大学院において免許状授与の所要資格を得ることができる教育職員免許状の種類及び免許教科の種類は、次のとおりとする。</p>										
研究科・専攻		免許状の種類		中学校教諭専修免許状 免許教科	高等学校教諭専修免許状 免許教科					研究科・専攻	免許状の種類		中学校教諭専修免許状 免許教科	高等学校教諭専修免許状 免許教科					
文学研究科		文明研究専攻 史学専攻		社 会	地理歴史					文学研究科		文明研究専攻 史学専攻		社 会	地理歴史				
		日本文学専攻		国 語	国 語														
		英文学専攻		外国語（英語）	外国語（英語）														
		コミュニケーション学専攻		社 会	公 民														

新				旧				備考
政治学研究科	政治学専攻	社 会	公 民	政治学研究科	政治学専攻	社 会	公 民	
経済学研究科	応用経済学専攻	社 会	公 民	経済学研究科	応用経済学専攻	社 会	公 民	
法学研究科	法律学専攻	社 会	公 民	法学研究科	法律学専攻	社 会	公 民	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	理 科 社 会	理 科 公 民	人間環境学研究科	人間環境学専攻	理 科 社 会	理 科 公 民	
芸術学研究科	音響芸術専攻	音 楽	音 楽	芸術学研究科	音響芸術専攻	音 楽	音 楽	
	造型芸術専攻	美 術	美 術		造型芸術専攻	美 術	美 術	
体育学研究科	体育学専攻	保健体育	保健体育	体育学研究科	体育学専攻	保健体育	保健体育	
理学研究科	数理科学専攻	数 学	数 学	理学研究科	数理科学専攻	数 学	数 学	
	物理学専攻 化学専攻	理 科	理 科		物理学専攻 化学専攻	理 科	理 科	
工学研究科	電気電子工学専攻		情 報 工 業	工学研究科	電気電子工学専攻		情 報 工 業	
	応用理化学専攻	理 科	理 科 工 業		応用理化学専攻	理 科	理 科 工 業	
	建築土木工学専攻		工 業		建築土木工学専攻		工 業	
	機械工学専攻		工 業		機械工学専攻		工 業	
海洋学研究科	海洋学専攻	理 科	理 科	海洋学研究科	海洋学専攻	理 科	理 科	

新				旧				備考		
農学研究科	農学専攻	生物資源科学 コース 生命科学 コース	/	農 業	農学研究科	農学専攻	生物資源科学 コース 生命科学 コース	/	農 業	追加
				理 科					理 科	
<u>生物学研究科</u>	<u>生物学専攻</u>		<u>理 科</u>	<u>理 科</u>						
<p>第8章 学位の授与</p> <p>第23条 本学大学院の学位の種類は、その修了した研究科・専攻に応じて次のとおりとする。</p> <p>大学院</p> <p>総合理工学研究科 博士（理学）・博士（工学）</p> <p>地球環境科学研究科 博士（理学）・博士（工学）</p> <p>生物科学研究科 博士（理学）・博士（農学）・博士（水産学）</p> <p>文学研究科</p> <p>文明研究専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>史学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>日本文学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>英文学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>コミュニケーション学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>観光学専攻 修士（観光学）</p> <p>政治学研究科 修士（政治学）・博士（政治学）</p> <p>経済学研究科 修士（経済学）・博士（経済学）</p> <p>法学研究科 修士（法学）・博士（法学）</p> <p>人間環境学研究科 修士（学術）</p> <p>芸術学研究科 修士（芸術学）</p> <p>体育学研究科 修士（体育学）</p> <p>理学研究科 修士（理学）</p> <p>工学研究科 修士（工学）</p> <p>情報通信学研究科 修士（情報通信学）</p> <p>海洋学研究科 修士（海洋学）</p> <p>医学研究科 修士（医科学）・博士（医学）</p> <p>健康科学研究科</p> <p>看護学専攻 修士（看護学）</p> <p>保健福祉学専攻 修士（保健福祉学）</p> <p>農学研究科 修士（農学）</p> <p><u>生物学研究科</u> <u>修士（理学）</u></p> <p>[第24条～第50条まで略]</p> <p>付 則</p> <p>[付則1～付則11まで略]</p> <p>付 則 <u>(令和2年4月1日)</u></p> <p>この学則は、<u>令和2年4月1日</u>から施行する。</p>				<p>第8章 学位の授与</p> <p>第23条 本学大学院の学位の種類は、その修了した研究科・専攻に応じて次のとおりとする。</p> <p>大学院</p> <p>総合理工学研究科 博士（理学）・博士（工学）</p> <p>地球環境科学研究科 博士（理学）・博士（工学）</p> <p>生物科学研究科 博士（理学）・博士（農学）・博士（水産学）</p> <p>文学研究科</p> <p>文明研究専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>史学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>日本文学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>英文学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>コミュニケーション学専攻 修士（文学）・博士（文学）</p> <p>観光学専攻 修士（観光学）</p> <p>政治学研究科 修士（政治学）・博士（政治学）</p> <p>経済学研究科 修士（経済学）・博士（経済学）</p> <p>法学研究科 修士（法学）・博士（法学）</p> <p>人間環境学研究科 修士（学術）</p> <p>芸術学研究科 修士（芸術学）</p> <p>体育学研究科 修士（体育学）</p> <p>理学研究科 修士（理学）</p> <p>工学研究科 修士（工学）</p> <p>情報通信学研究科 修士（情報通信学）</p> <p>海洋学研究科 修士（海洋学）</p> <p>医学研究科 修士（医科学）・博士（医学）</p> <p>健康科学研究科</p> <p>看護学専攻 修士（看護学）</p> <p>保健福祉学専攻 修士（保健福祉学）</p> <p>農学研究科 修士（農学）</p> <p>[第24条～第50条まで略]</p> <p>付 則</p> <p>[付則1～付則11まで略]</p> <p>付 則 <u>(平成31年4月1日)</u></p> <p>この学則は、<u>平成31年4月1日</u>から施行する。</p>				追加		
								追加		
								変更 変更		

新旧対照表

【新】

別表1 教育研究上の目的及び養成する人材像

研究科名	専攻名	研究科・専攻の教育研究上の目的及び養成する人材像
略	略	
農学研究科	農学専攻	生命科学の急速な進展により、開発された先端技術を理解し、応用できる幅広い知識と高度な技術とを習得した人材が求められている。このような要請に鑑み、農学研究科農学専攻では、生物の多様な機能を理解し、生物生産及び生命科学領域に貢献しうる高度な専門性と総合性を併せ持つ学際融合的な研究者・技術者の育成を目標として、生物がもつ多彩な生命現象の仕組みや原理を解明するとともに、生物生産を中心に環境保全や食の安全性など、人類の福祉向上に寄与できる、基礎から応用まで密接に連携させる教育・研究を実践する。
生物学研究科	生物学専攻	生物学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせて、生物学に関する専門的知識、特に生物の生理的機構に関する知識、生物多様性に関する解析やその保全、生物資源の維持・開発に関する知識を修得し、実践的に活用できる人材を養成することである。

追加

【旧】

別表1 教育研究上の目的及び養成する人材像

研究科名	専攻名	研究科・専攻の教育研究上の目的及び養成する人材像
略	略	
農学研究科	農学専攻	生命科学の急速な進展により、開発された先端技術を理解し、応用できる幅広い知識と高度な技術とを習得した人材が求められている。このような要請に鑑み、農学研究科農学専攻では、生物の多様な機能を理解し、生物生産及び生命科学領域に貢献しうる高度な専門性と総合性を併せ持つ学際融合的な研究者・技術者の育成を目標として、生物がもつ多彩な生命現象の仕組みや原理を解明するとともに、生物生産を中心に環境保全や食の安全性など、人類の福祉向上に寄与できる、基礎から応用まで密接に連携させる教育・研究を実践する。

新

旧

備考

別表2 入学定員及び収容定員

研究科	専攻	入学定員		収容定員	
		博士課程前期 及び修士課程	博士課程後期 及び博士課程	博士課程前期 及び修士課程	博士課程後期 及び博士課程
総合理工学研究科	総合理工学専攻	—	35	—	105
	計	—	35	—	105
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	—	10	—	30
	計	—	10	—	30
生物科学研究科	生物科学専攻	—	10	—	30
	計	—	10	—	30
文学研究科	文明研究専攻	8	4	16	12
	史学専攻	8	4	16	12
	日本文学専攻	8	4	16	12
	英文学専攻	4	2	8	6
	コミュニケーション学専攻	8	4	16	12
	観光学専攻	8	—	16	—
	計	44	18	88	54
政治学研究科	政治学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
経済学研究科	応用経済学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
法学研究科	法学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
人間環境学研究科	人間環境学専攻	10	—	20	—
	計	10	—	20	—
芸術学研究科	音響芸術専攻	4	—	8	—
	造型芸術専攻	4	—	8	—
	計	8	—	16	—
体育学研究科	体育学専攻	15	—	30	—
	計	15	—	30	—
理学研究科	数理科学専攻	8	—	16	—
	物理学専攻	12	—	24	—
	化学専攻	12	—	24	—
	計	32	—	64	—

別表2 入学定員及び収容定員

研究科	専攻	入学定員		収容定員	
		博士課程前期 及び修士課程	博士課程後期 及び博士課程	博士課程前期 及び修士課程	博士課程後期 及び博士課程
総合理工学研究科	総合理工学専攻	—	35	—	105
	計	—	35	—	105
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	—	10	—	30
	計	—	10	—	30
生物科学研究科	生物科学専攻	—	10	—	30
	計	—	10	—	30
文学研究科	文明研究専攻	8	4	16	12
	史学専攻	8	4	16	12
	日本文学専攻	8	4	16	12
	英文学専攻	4	2	8	6
	コミュニケーション学専攻	8	4	16	12
	観光学専攻	8	—	16	—
	計	44	18	88	54
政治学研究科	政治学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
経済学研究科	応用経済学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
法学研究科	法学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
人間環境学研究科	人間環境学専攻	10	—	20	—
	計	10	—	20	—
芸術学研究科	音響芸術専攻	4	—	8	—
	造型芸術専攻	4	—	8	—
	計	8	—	16	—
体育学研究科	体育学専攻	15	—	30	—
	計	15	—	30	—
理学研究科	数理科学専攻	8	—	16	—
	物理学専攻	12	—	24	—
	化学専攻	12	—	24	—
	計	32	—	64	—

新						旧						備考
工学研究科	電気電子工学専攻	50	—	100	—	工学研究科	電気電子工学専攻	50	—	100	—	追加 追加 変更
	応用理化学専攻	45	—	90	—		応用理化学専攻	45	—	90	—	
	建築土木工学専攻	25	—	50	—		建築土木工学専攻	25	—	50	—	
	機械工学専攻	75	—	150	—		機械工学専攻	75	—	150	—	
	医用生体工学専攻	8	—	16	—		医用生体工学専攻	8	—	16	—	
	計	203	—	406	—		計	203	—	406	—	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	30	—	60	—	情報通信学研究科	情報通信学専攻	30	—	60	—	
	計	30	—	60	—		計	30	—	60	—	
海洋学研究科	海洋学専攻	20	—	40	—	海洋学研究科	海洋学専攻	20	—	40	—	
	計	20	—	40	—		計	20	—	40	—	
医学研究科	医科学専攻	10	—	20	—	医学研究科	医科学専攻	10	—	20	—	
	先端医科学専攻	—	35	—	140		先端医科学専攻	—	35	—	140	
	計	10	35	20	140		計	10	35	20	140	
健康科学研究科	看護学専攻	10	—	20	—	健康科学研究科	看護学専攻	10	—	20	—	
	保健福祉学専攻	10	—	20	—		保健福祉学専攻	10	—	20	—	
	計	20	—	40	—		計	20	—	40	—	
農学研究科	農学専攻	12	—	24	—	農学研究科	農学専攻	12	—	24	—	
	計	12	—	24	—		計	12	—	24	—	
生物学研究科	生物学専攻	8	二	16	二	合計	434	123	868	404		
	計	8	二	16	二							
合計		442	123	884	404							

新旧対照表

以下の新旧対照表は、該当科目のみ記載

【新】

別表3 授業科目および単位数

I. 工学研究科

医用生体工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
生体機械工学特論	2
放射線医科学特論	2
生体制御工学特論	2
呼吸循環系医工学特論	2

O. 生物学研究科

生物学専攻・修士課程

授業科目	単位数
総合生物学特論	2
科学英語特論	2
脊椎動物学特論A	2
脊椎動物学特論B	2
脊椎動物学特論C	2
無脊椎動物学特論	2
数理生物学特論	2
大気海洋環境学特論	2
動物生理学特論	2
栄養生理学特論	2
組織学特論	2
環境生理学特論	2
生殖生物学特論	2
動物生態学特論	2
保全生態学特論	2
動物地理学特論	2
多様性生物学特論	2
生態系モデリング学特論	2
生物学研究ゼミナール1	2
生物学研究ゼミナール2	2
生物学研究ゼミナール3	2
生物学研究ゼミナール4	2

【旧】

別表3 授業科目および単位数

I. 工学研究科

医用生体工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
生理流体力学特論	2
放射線物理学特論	2
臨床透析学特論	2
呼吸循環力学特論	2

変更
変更
新設
消滅
変更

新設
新設

【新】

(別表5)

東海大学大学院 学費一覧表 (令和2年度)

【旧】

(別表5)

東海大学大学院 学費一覧表 (平成31年度)

単位:円

	学年	生物学 研究科
入学金	1年	250,000
授業料	1年	735,000
	2年	
	3年	
	4年	
教育運営費	1年	211,000
	2年	
	3年	
	4年	
実習実技費	1年	
	2年	
	3年	
	4年	
施設設備費	1年	200,000
	2年	
	3年	
	4年	
合計	1年	1,396,000
	2年	
	3年	
	4年	

○東海大学大学院学則

(制定 昭和38年4月1日)

改訂	昭和39年4月1日	昭和40年4月1日
	昭和41年4月1日	昭和42年4月1日
	昭和43年4月1日	昭和44年4月1日
	昭和45年4月1日	昭和46年4月1日
	昭和47年4月1日	昭和48年4月1日
	昭和49年4月1日	昭和50年4月1日
	昭和51年4月1日	昭和52年4月1日
	昭和53年4月1日	昭和54年4月1日
	昭和55年4月1日	昭和56年4月1日
	昭和57年4月1日	昭和58年4月1日
	昭和59年4月1日	昭和60年4月1日
	昭和61年4月1日	昭和62年4月1日
	昭和63年4月1日	平成元年4月1日
	平成2年4月1日	平成3年4月1日
	平成3年9月1日	平成4年4月1日
	平成5年4月1日	平成6年4月1日
	平成7年4月1日	平成8年4月1日
	平成9年4月1日	平成10年4月1日
	平成11年4月1日	平成12年4月1日
	平成13年4月1日	平成14年4月1日
	平成15年4月1日	平成16年4月1日
	平成17年4月1日	平成18年4月1日
	平成19年4月1日	平成20年4月1日
	平成20年10月1日	平成21年4月1日
	平成22年4月1日	平成23年4月1日
	平成24年4月1日	平成25年4月1日
	平成26年4月1日	平成27年4月1日
	平成28年4月1日	平成29年4月1日
	平成30年4月1日	平成31年4月1日
	令和2年4月1日	

第1章 総則

第1条 東海大学大学院（以下「本学大学院」という。）は、東海大学建学の精神にのっとり、専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

第1条の2 本学大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の研

究教育上の目的を別表1に定め、公表する。

第2条 本学大学院は、第1条、第1条の2の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検及び評価を行うに当たっては、適切な項目及び体制を別に定める。

第3条 本学大学院には、修士課程及び博士課程を置く。

2 博士課程（総合理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科、医学研究科を除く。）は、これを前期2年（以下「博士課程前期」という。）及び後期3年（以下「博士課程後期」という。）の課程に区分する。

3 前項の前期2年の課程は、これを修士課程として取り扱う。

第3条の2 削除

2 削除

3 削除

4 削除

第4条 修士課程及び博士課程前期は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

第5条 博士課程及び博士課程後期は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

第2章 研究科、専攻等

第6条 本学大学院に、次の研究科・専攻及び課程を置く。

大学院

研究科名	専攻名	修士課程・博士課程の別
総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	博士課程
生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程
文学研究科	文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻	博士課程（前期・後期）
	観光学専攻	修士課程

政治学研究科	政治学専攻	博士課程（前期・後期）
経済学研究科	応用経済学専攻	博士課程（前期・後期）
法学研究科	法律学専攻	博士課程（前期・後期）
人間環境学研究科	人間環境学専攻	修士課程
芸術学研究科	音響芸術専攻 造型芸術専攻	修士課程
体育学研究科	体育学専攻	修士課程
理学研究科	数理科学専攻 物理学専攻 化学専攻	修士課程
工学研究科	電気電子工学専攻 応用理化学専攻 建築土木工学専攻 機械工学専攻 医用生体工学専攻	修士課程
情報通信学研究科	情報通信学専攻	修士課程
海洋学研究科	海洋学専攻	修士課程
医学研究科	先端医科学専攻	博士課程
	医科学専攻	修士課程
健康科学研究科	看護学専攻 保健福祉学専攻	修士課程
農学研究科	農学専攻	修士課程

生物学研究科	生物学専攻	修士課程
--------	-------	------

第3章 修業年限、年度、学期及び休業日等

第7条 修士課程及び博士課程前期の修業年限は2年、博士課程及び博士課程後期の標準修業年限は3年、医学研究科博士課程にあつては4年とする。

2 修士課程及び博士課程前期にあつては4年、博士課程及び博士課程後期にあつては6年、医学研究科博士課程にあつては8年を超えて在学することはできない。

第8条 年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2 前項において規定する年度の途中においても、学期の区分に従い、学生を入学させ及び修了させることができる。

第9条 1年度は、2学期に分け、原則として、春学期は4月1日より9月30日まで、秋学期は10月1日より3月31日までとする。ただし、学長は授業の開始終了について、変更することができる。

第10条 学生の休業日は、日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日のほか、大学が定める期間とする。

春期休暇 2月15日より3月31日まで

夏期休暇 8月1日より9月20日まで

建学記念日 11月1日

冬期休暇 12月26日より翌年1月6日まで

2 前項における休業日について、学長は、臨時に変更及び臨時の休業日を定めることができる。

第4章 定員

第11条 本学大学院の入学定員及び収容定員は、別表2のとおりとする。

第5章 授業科目及び単位数

第12条 各研究科の専攻別授業科目及び単位数は、別表3のとおりとする。ただし、総合理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科の授業は、時間制を適用する。

第6章 履修方法及び単位算定基準

第13条 通常の授業については、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位の授業とすることを標準とし、原則として次の基準によって単位計算するものとする。

(1) 講義・演習科目は、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 外国語科目は、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習、実技科目は、30時間の授業をもって1単位とする。

(4) 修士論文・博士論文作成等の科目は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

第13条の2 本学大学院が実施する遠隔授業科目については、前条に従い単位を与えることができる。

第13条の3 本学大学院は、教育上特別の必要があると認めた場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第14条 学生は、大学の指定した期間に指導教員の指導のもとで当該学年における履修授業科目を選定し、受講を申請しなければならない。

第15条 指導教員は、その学生の本学大学院における修学研究一般及び論文の作成を指導する。

2 研究科長が必要であると認めるとき、その所属学生に対し、所定の授業科目のほか、当該研究科内の他専攻若しくは本学大学院他研究科又は本学学部に配置された授業科目を指定し、これを履修させることができる。

3 前項による履修のうち、他研究科に配置された授業科目を履修させようとするときは、学生の所属する研究科長は、当該授業科目が配置されている研究科長の承諾を得なければならない。

第7章 成績の評価及び課程修了の認定

第16条 授業科目履修の認定は、試験によって行う。

2 試験は、学期末に授業担当教員が行う。

3 試験を受けることができる授業科目は、本学大学院において正規に受講した授業科目に限る。

第16条の2 本学大学院が教育上有益と認めるときは、原則として別表4に定める本学大学院と協定を結ぶ他の大学院における学修を、本学大学院における授業科目の履修とみなし、10単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て認定することができる。

第16条の3 本学大学院が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを研究科教授会の議を経て認めることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

第16条の4 本学大学院が教育上有益と認めるときは、本学大学院に入学する前に本学大学院又は他の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目について修得した単位を、本学大学院に入学した後の本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなし、10単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て認定することができる。

第17条 最終試験は、修士課程又は博士課程を修了するに必要な単位（総合理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科においては必要な受講時間）の全部を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出した者について行う。

第18条 学位論文の審査及び最終試験については、東海大学学位規程に定める。

第19条 修士課程及び博士課程前期については、2年以上在学し、専攻する専門課程の科目につき、必修・選択科目を通じて次の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上修士論文又はこれに代わる研究成果を指導教員を通じて研究科長に提出し、その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし、優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

研究科	文学	政治学	経済学	法学	人間環境学	芸術学	体育学	理学
単位数	30	32	30	32	32	30	30	30

工 学	情報 通信学	海洋学	医 学	健康科学	農 学	生 物
36	30	32	30	30	30	32

2 前項について修士課程及び博士課程前期の目的に応じ当該研究科教授会が適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 入学後に第15条第2項、第16条の2及び第16条の3による履修によって修得した単位については、合わせて10単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て、これを第1項の単位に含めることができる。

第20条 大学院博士課程については、5年（医学研究科にあっては4年）以上在学し、専攻する専門課程の科目につき、必修・選択科目を通じて次の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を研究科長に提出し、その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし、優れた研究業績をあげた者については、大学院に3年以上在学すれば足りるものとする。

研 究 科	文 学	政治学	経済学	法 学	医 学
単 位 数	40	46	48	48	30

2 修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年を在学期間に含めることができる。

3 修士課程を修了した者にあつては、当該課程において修得した単位のうち、博士課程における研究に必要と認められたものについて、第1項の単位に含ませることができる。

4 入学後に第15条第2項、第16条の2及び第16条の3による履修によって修得した単位については、合わせて10単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て、これを第1項の単位に含ませることができる。ただし、第19条第3項により認められた単位数と本項により認められた単位数の合計は、10単位を超えないものとする。

5 第1項から前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院に3年（専門職大学院設置基準第18条第1項の法科大学院の課程を修了した者にあつては、2年）以上在学し、研究科が必要と認めた授業科目について、次の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科長に博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、大学院に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

研究科	文学	政治学	経済学	法学
単位数	10 以上	8 以上	8 以上 (ただし、指導教員が指定する科目の単位数を含む)	16 以上 (ただし、法科大学院修了者は 8 以上とする)

第 20 条の 2 総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科については，3 年(専門職大学院設置基準第 18 条第 1 項の法科大学院の課程を修了した者にあつては，2 年) 以上在学し，共同ゼミナール，専修ゼミナール各 30 時間を受講し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文を研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，優れた研究業績をあげた者については，大学院に 1 年(修士課程及び博士課程前期の修了者にあつては，修士課程及び博士課程前期を含めて 3 年) 以上在学し，各ゼミナールについては 15 時間以上受講すれば足りるものとする。

第 21 条 試験成績の評価及び合否は，次のとおりとする。

- (1) 授業科目についての評価は合，S，A，B，C，Eとし，合，S，A，B，Cを合格，Eを不合格とする。
- (2) 学位論文・研究成果及び最終試験については，合格，不合格とする。
- (3) 大学院に入学する前，及び入学後の本学における授業科目の認定に関する表記は，原則として「認」とする。

第 22 条 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は，第 19 条に定める修了の所要単位のほか，教育職員免許法(昭和 24 年法律第 147 号)及び教育職員免許法施行規則(昭和 29 年文部省令第 26 号)に定める単位を修得しなければならない。

2 大学院において免許状授与の所要資格を得ることができる教育職員免許状の種類及び免許教科の種類は，次のとおりとする。

研究科・専攻		免許状の種類	
		中学校教諭専修免許状 免許教科	高等学校教諭専修免許状 免許教科
文学研究科	文明研究専攻 史学専攻	社 会	地理歴史
	日本文学専攻	国 語	国 語
	英文学専攻	外国語(英語)	外国語(英語)
	コミュニケーション学専攻	社 会	公 民
政治学研究科	政治学専攻	社 会	公 民

経済学研究科	応用経済学専攻		社 会	公 民
法学研究科	法律学専攻		社 会	公 民
人間環境学研究科	人間環境学専攻		理 科 社 会	理 科 公 民
芸術学研究科	音響芸術専攻		音 楽	音 楽
	造型芸術専攻		美 術	美 術
体育学研究科	体育学専攻		保健体育	保健体育
理学研究科	数理科学専攻		数 学	数 学
	物理学専攻 化学専攻		理 科	理 科
工学研究科	電気電子工学専攻			情 報 工 業
	応用理化学専攻		理 科	理 科 工 業
	建築土木工学専攻			工 業
	機械工学専攻			工 業
海洋学研究科	海洋学専攻		理 科	理 科
農学研究科	農学専攻	生物資源科学 コース		農 業
		生命科学 コース		理 科
生物学研究科	生物学専攻		理 科	理 科

第8章 学位の授与

第23条 本学大学院の学位の種類は、その修了した研究科・専攻に応じて次のとおりとする。

大学院

総合理工学研究科	博士（理学）・博士（工学）
地球環境科学研究科	博士（理学）・博士（工学）
生物科学研究科	博士（理学）・博士（農学）・博士（水産学）
文学研究科	
文明研究専攻	修士（文学）・博士（文学）
史学専攻	修士（文学）・博士（文学）
日本文学専攻	修士（文学）・博士（文学）
英文学専攻	修士（文学）・博士（文学）
コミュニケーション学専攻	修士（文学）・博士（文学）
観光学専攻	修士（観光学）
政治学研究科	修士（政治学）・博士（政治学）
経済学研究科	修士（経済学）・博士（経済学）
法学研究科	修士（法学）・博士（法学）
人間環境学研究科	修士（学術）
芸術学研究科	修士（芸術学）
体育学研究科	修士（体育学）
理学研究科	修士（理学）
工学研究科	修士（工学）
情報通信学研究科	修士（情報通信学）
海洋学研究科	修士（海洋学）
医学研究科	修士（医科学）・博士（医学）
健康科学研究科	
看護学専攻	修士（看護学）
保健福祉学専攻	修士（保健福祉学）
農学研究科	修士（農学）
生物学研究科	修士（理学）

2 前項に定めるもの（人間環境学研究科を除く）のほか、専攻分野が学際領域等に係わるもので、当該研究科教授会が適当と認めたときは、「学術」と付記することができる。

第24条 学位の授与については、別に定める東海大学学位規程による。

第9章 入学、退学、休学、再入学、復学、留学、転学

第25条 削除

第26条 修士課程及び博士課程前期に入学することができる者は、学校教育法第102条の規定により、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法施行規則第155条の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者のうち、次の各号の一に該当する者

- イ 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- ロ 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- ハ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- ニ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ホ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価をうけたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ヘ 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ト 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
- チ 大学に 3 年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本学大学院が認めた者
- リ 本学大学院が、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で 22 歳に達した者

第 27 条 博士課程及び博士課程後期に入学することができる者は、学校教育法第 102 条ただし書きの規定により、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 専門職学位を有する者
- (3) 学校教育法施行規則第 156 条の規定により修士の学位を有する者若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者のうち、次の各号の一に該当する者
 - イ 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ロ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ハ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ニ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

ホ 外国の学校，第3号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

へ 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

ト 本学大学院が個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達した者

第28条 医学研究科博士課程に入学することができる者は，学校教育法第102条の規定により，次の各号の一に該当する者とする。

(1) 学校教育法第83条に定める大学の医学，歯学又は修業年限6年の獣医学，薬学を履修する課程を卒業した者

(2) 修士の学位を有する者

(3) 学校教育法施行規則第155条の規定により，前号に定める者と同等以上の学力があると認められる者のうち，次の各号の一に該当する者

イ 外国において，学校教育における18年の課程を修了した者

ロ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者

ハ 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

ニ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価をうけたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が5年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者

ホ 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）

へ 本学大学院が，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達した者

第29条 本学大学院の入学志願者は，所定の書類に受験料を添えて，これを所定の期日までに提出しなければならない。

第30条 本学大学院の入学試験に関することは，別に定める。

第31条 入学を許可された者は，指定の期日までに保証人連署の誓約書に，別に定める入学金を添えて提出しなければならない。

2 前項に定める手続を期間内に終了しない者は，入学を許可しない。

第32条 前条第1項の保証人は，確実に保証人としての責任を果たし得る者でなければならない。

2 保証人が死亡その他の理由でその責務を果たし得なくなった場合には，直ちに新たな

保証人を届け出なければならない。改姓又は転居した場合も同様とする。

第33条 退学又は休学をしようとする者は、保証人連署で願い出なければならない。

2 引き続いて休学できる期間は、原則として1年以内とし、休学期間は在学期間に算入しない。

3 退学又は休学した者は、願により再入学又は復学を許可することがある。

4 休学した者が休学期間終了後2か月以内に復学願を提出しないときは除籍する。

第34条 本学大学院が教育上有益と認めたときは、学生が国内外の大学院に留学することを認めることがある。

2 留学に関する規程は、別にこれを定める。

第35条 本学大学院の学生で、他の大学院に転学を志望する者は、保証人連署の上で願い出なければならない。

第36条 研究科における転科・専攻の変更は、当該学生の所属研究科及び受入研究科の研究科教授会が認めた場合、許可することがある。

第37条 他の大学院の学生が所属の大学学長又は研究科長の承認を得て、本学大学院に転学を志願するときは、年度の始めに限り大学院運営委員会で選考の上、その入学を許可することがある。

第10章 学費

第38条 授業料、入学金その他の学費は、別表5のとおりとする。

第39条 休学中の学費は、休学の期間が全学期にわたっている場合に限り、当該学期の授業料のみの半額とする。

第40条 授業料その他の学費は、所定の期日までにこれを納入しなければならない。

2 いったん納付した授業料及びその他の納付金は、事由のいかんにかかわらず返却しない。

3 授業料その他の学費を所定の期日までに納付しない者は、除籍する。ただし、正当な事由により授業料及びその他の納付金の一部若しくは全額を延納しなければならないときは、保証人連署でその旨を願い出て許可を得なければならない。

4 除籍された者は、願により復籍を許可されることがある。

第11章 賞罰

第41条 本学大学院在学中、学業・人物共に特に優れた者又は教科外活動でその活動が顕著な者に対して、別に定めるところにより表彰する。

第42条 本学大学院学生として特に善行のあった者に対して表彰する。

第43条 学則及び学生諸規則に違反し、学生の本分に反する者に対しては、懲戒委員会の議を経て学長はこれを懲戒する。

2 懲戒は、戒告、停学、退学の3種とする。

3 次の各号の一に該当する者に対しては、退学を命ずる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者

(3) 正当な理由なしに出席が常でない者

(4) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 懲戒委員会の規程は、別にこれを定める。

第12章 教員組織

第44条 本学大学院における授業及び研究指導の担当教員は、学部所属の教授をこれに当てる。ただし、必要に応じ、研究科教授会の議を経て、准教授、講師及び付置研究所所属の教授、准教授を当てることがある。

第13章 運営組織

第45条 本学大学院に運営委員会及び研究科教授会を置き、その規程は、別にこれを定める。

第14章 研究指導施設

第46条 本学大学院に学生研究室を設ける。

2 学部及び研究所の施設は、必要に応じ、学生の研究及び指導のため用いることがある。

第15章 厚生保健施設

第47条 本学大学院学生は、大学の厚生施設を利用することができる。

第48条 本学大学院学生は、大学の保健施設を利用することができる。

第49条 本学大学院学生は、大学が行う定期健康診断を受けなければならない。

第16章 委託生、聴講生、科目等履修生、研究生

第50条 本学大学院に委託生、聴講生、科目等履修生、研究生及び法務研究生を置き、その規程は、別に定める。

付 則

- 1 この学則は、昭和38年4月1日から施行する。
- 2 この学則に特別の規定のないことについては、東海大学学則を準用する。
- 3 第22条第2項に定める高等学校教諭専修免許状の免許教科のうち地理歴史及び公民については、平成6年4月入学者よりこれを適用する。
- 4 平成18年度以前に入学した学生については、旧学則（平成18年4月1日付改訂）を適用する。
- 5 学則第20条の第5項については、旧学則（平成15年4月1日付改訂）により平成15年度に入学した学生についても適用する。
- 6 平成23年度以前に入学した工学研究科情報通信制御システム工学専攻、経営工学専攻の学生については、修了するまで旧学則（平成23年4月1日付改訂）を適用する。
- 7 芸術工学研究科については、平成25年4月より学生募集を停止し、在学生の修了をもって廃止する。平成24年度以前に入学した芸術工学研究科の学生については、修了するまで旧学則（平成24年4月1日付改訂）を適用する。
- 8 開発工学研究科、理工学研究科電子情報工学専攻については、平成26年4月より学生募集を停止し、在学生の修了をもって廃止する。平成25年度以前に入学した開発工学研究科、理工学研究科電子情報工学専攻の学生については、修了するまで旧学則（平成25年4月1日付改訂）を適用する。
- 9 海洋学研究科海洋工学専攻、水産学専攻、海洋科学専攻、海洋生物科学専攻については、平成27年4月より学生募集を停止し、在学生の修了をもって廃止する。平成26年度以前に入学した海洋学研究科海洋工学専攻、水産学専攻、海洋科学専攻、海洋生物科学専攻の学生については、修了するまで旧学則（平成26年4月1日付改訂）を適用する。
- 10 工学研究科情報理工学専攻、電気電子システム工学専攻、応用理学専攻、光工学専攻、

工業化学専攻，金属材料工学専攻，建築学専攻，土木工学専攻，機械工学専攻，航空宇宙学専攻については，平成 28 年 4 月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 27 年度以前に入学した工学研究科情報理工学専攻，電気電子システム工学専攻，応用理学専攻，光工学専攻，工業化学専攻，金属材料工学専攻，建築学専攻，土木工学専攻，機械工学専攻，航空宇宙学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 27 年 4 月 1 日付改訂）を適用する。

11 国際地域学研究科国際地域学専攻，理工学研究科環境生物科学専攻については，平成 28 年 4 月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 27 年度以前に入学した国際地域学研究科国際地域学専攻，理工学研究科環境生物科学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 27 年 4 月 1 日付改訂）を適用する。

12 産業工学研究科生産工学専攻，情報工学専攻，社会開発工学専攻については，平成 29 年 4 月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 28 年度以前に入学した産業工学研究科生産工学専攻，情報工学専攻，社会開発工学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 28 年 4 月 1 日付改訂）を適用する。

付 則（令和 2 年 4 月 1 日）

この学則は，令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別表1

教育研究上の目的及び養成する人材像

研究科名	専攻名	研究科・専攻の教育研究上の目的及び養成する人材像
総合理工学研究科	総合理工学専攻	総合理工学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、世界に向けて情報発信できる高度な研究能力を備え、かつ国際的な広い視野と見識を合わせ持った人間味豊かな研究者、技術者、国際機関職員など各方面でリーダーとして活躍し得る人材を養成することである。
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	地球環境科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、幅広い視野に立った国際的、学祭的かつ学融的な考究力と豊かな創造性を備えた人材を養成することである。また、法令遵守の精神を尊び、厳正は研究倫理を培い、研究を通じて生み出された全ての知的財産を尊重すると共に、社会の期待に応える人材を育成する。
生物科学研究科	生物科学専攻	生物科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、国内外の学術交流を深めて国際感覚を有し、人類及び社会が今後遭遇し得る諸問題を発見する高い能力を持つとともに、その問題を生物科学的アプローチで倫理的かつ自律的に解決できる人材を養成することである。
文学研究科		文学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、専門分野における高度な知識とそれを活用する能力を修得するとともに、近年の社会の多様な価値意識、人文・社会科学の複合的動向をふまえ、より学際的な視点から地球規模でのグローバル社会に対応できる人材を養成することである。本研究科は、伝統的な文学研究の学問領域を超える研究領域を包括することを特長とし、その特長を活かしながら学問の進展と社会の要求にこたえることを存在の立脚点としている。本研究科が目指すのは、専攻相互さらには外部諸機関との積極的な研究・教育交流によって学問の細分化、専門化に陥ることなく、視野の広い開放的な研究環境のなかで、確固たる基礎力と柔軟な思考の上に立ち、国際的にも活躍できる人材、同時に、高度な科学技術社会において人間性や倫理観を尊重し、批判的姿勢をもってそれに向かう精神を備えた人材を養成することである。
	文明研究専攻	文明研究専攻の教育研究上の目的は、個々の学問領域をふまえながらも同時に狭い専門領域に閉じこもることなく、地球上に存在するさまざまな文明・文化の多様性を尊重し、確固たる歴史観と世界観を基礎とした複眼的視野から人類の文明を捉えることのできる人材を育成することである。本専攻は、科学技術の急速な発展、流動的な内外の政治・社会情勢など、かつてない速度で変化を遂げつつある現代社会において、その変化に対応し同時に揺らぎのない視点を有する人材育成を目指す。本専攻が目指すのは、教育内容の水準を堅持しつつ視野の広がりをも促すカリキュラムを設定し、確固とした研究方法と知識を身につけさせることにより研究者としての主体性を持たせることを教育の立脚点とし、専門領域を超えた文明論的視座を備え、優れた社会人として現代社会のなかで自己の能力を十二分に生かすことのできる人材を育成することである。
	史学専攻	史学専攻の教育研究上の目的は、伝統的な史学研究を継承すると同時に、単なる個別な歴史研究ではなく総合的な人類史を追究する視点を有し、より広い研究対象に対してグローバルで柔軟な思考ができる人材を養成することである。本専攻では、史学研究の実践を通して、今日の社会に適応しかつ社会に対して新たな提言のできる人材の育成を教育の立脚点とする。本専攻が目指すのは、文献史学に偏らずに考古学も加えて総合的な人類史を追及できるカリキュラムと、専攻内や他大学の大学院との積極的交流制度を活用して、伝統的な史学研究法だけではなく広い視野を持ってグローバルで柔軟な思考のできる人材を養成することである。
	日本文学専攻	日本文学専攻では、以下の2コースにおいてそれぞれ教育研究上の目的を設定している。日本文学研究コースでは日本文学・日本語学に指導的役割を果たせる教養人もしくは専門研究者や教育者の育成、日本語教育学コースでは日本語教育の研究者や実践家の育成を、それぞれの教育の立脚点としている。 日本文学研究コースの教育研究上の目的は、日本文学および日本語について専門的な深い知識と理解を有し、それらの研究分野で自発的能力を備えて社会的普及に積極的に寄与しうる人材、同時に、将来を通じて国際的に貢献しうる深い知識と実践的能力とを併せ有する人材育成である。本コースが目指すのは、日本文学・日本語研究の専門研究者、日本文学・日本語研究の社会的普及に寄与できる人材、国語教育分野の優れた教員、国際的に貢献できる知識と実践力を持った人材を育成することである。 日本語教育学コース教育の研究上の目的は、日本語教育の社会的ニーズに応えるべく、日本語教育学について専門的な研究能力と実践力を培い、次代を担う優れた日本語教育の専門研究者及び実践者となる人材を養成することである。本コースが目指すのは、優れた日本語教育の研究者・実践家であり、同時に深い知識をもって国際的に貢献できる人材を育成することである。
	英文学専攻	英文学専攻の教育研究上の目的は、新たな知の開拓とともに変革が急速に進みつつある現代社会において、時代に即した高度な知識と実践性を備えた人材、とくに言語学・英米文学については高度な専門知識を有し、英語教育学とコミュニケーション学ではスペシャリストとして実践的知識と豊かで幅広い学識を身につけた人材を養成することである。本専攻は、時代の要求に応じて、英語・英米文学についての高度な専門性と教育やコミュニケーション分野での理論と実践的知識を涵養することを教育の立脚点とする。本専攻が目指すのは、英米文学・英語学・英語教育学・コミュニケーション学いずれかの分野で高い専門性を有するとともに、他国の文学や言語に対する深い理解に裏打ちされた豊かで幅広い教養を備え、教育など実践面でも活躍できる人材を育成することである。

文学研究科	コミュニケーション学専攻	コミュニケーション学専攻の教育研究上の目的は、メディア学系、社会学系、臨床心理学系の3つの学問系列の有機的連関をふまえ、コミュニケーションに関する専門職業人および研究者としての人材を養成することである。具体的には、メディア学系ではコミュニケーションを行う際の媒体の機能とその結果を把握しえる専門家、社会学系ではコミュニケーションを行う人間の集合である社会の諸問題を対象とする専門家、臨床心理学系ではコミュニケーションを行う個人の心の働きに注目する臨床心理学の専門家となるべき人材を養成することである。本専攻は、メディア学系・社会学系・臨床心理学系の3つの学問系列を備え、相互の有機的連関によって、コミュニケーションに関する専門職業人・研究者を養成することを教育の立脚点とする。これらの3つの系列をもつ専攻として目指すのは、メディア学系ではコミュニケーション媒体の機能や情報発信についての専門家、社会学系ではコミュニケーションを行う人間の集団である社会の諸問題についての専門家、臨床心理学系ではコミュニケーションを行う個人の心に注目する臨床心理学の専門家として活躍できる人材を育成することである。
	観光学専攻	観光学専攻の教育研究上の目的は、複合的な知と思考力に基づく問題発見解決力、グローバルな環境で活躍できる発信力・コミュニケーション力、学術的知見を産業界に生かすことができる発想力・応用力を身につけ、観光・地域振興に関する国や地方公共団体等の専門職、民間のシンクタンク等の研究職員、あるいは学問研究分野で基礎的研究者として活躍できる人材を養成することである。本専攻では、社会科学を基盤としつつ、人文科学や自然科学にも及ぶ複合的な知と思考力を形成するカリキュラムに基づき、問題発見解決力、グローバルな環境で活躍できる多言語による発信力・コミュニケーション力、学術的知見を多面的に生かすことができる発想力・応用力を修得させることによって、総合知としての観光学を学術的に展開できる人材を育成することを教育の立脚点とする。本専攻が目指すのは、観光・サービスに関わる研究と産業界におけるその応用を先導することができる、基礎的研究者と高度専門的職業人となる人材を育成することである。
政治学研究科	政治学専攻	政治学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、グローバル化とローカル化、多様性と統一性、分権化と集権化の衝突の中で、わが国及び世界の経済的、社会的、環境的な持続可能性を実現する新しい政治理論とその応用を探究することである。この目的を達成するため、博士課程前期では、広く社会科学を包含する学際的視野をもち、複雑な政治現象を解明してその諸課題を合理的に解決するために必要な政治学的学識を身につけ、知的生産の高い研究能力または高度の専門性を要する職業に必要な能力と、この能力に裏打ちされたリーダーシップを備えた人材を養成する。博士課程後期では、博士課程前期での学修を基礎として、政治学分野における研究者としての自立した研究能力またはその他の高度に専門的な業務に必要な能力と、この能力に裏打ちされた高度なリーダーシップを備えた人材を養成する。
経済学研究科	応用経済学専攻	経済学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、グローバル化・複雑化し、かつ変化のスピードが速い現代の社会において、経済学と経営学の分野を有機的に連携させ市場と組織に関わる諸問題を解明することを志向し、経済・経営現象を究明できる多角的で学際的な知識・視野と科学的な情報収集技能と分析手法を身につけ、問題を発見してその解決を図る力を発揮できる人材を養成することである。
法学研究科	法律学専攻	法学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、法律学の専門知識と学識によって社会に生じるさまざまな法的問題に対応することができる能力、必要であれば自らの専門分野について研究を深化させるだけでなく隣接諸分野の専門知識との統合をはかることによって新たな法的問題に対応することができる能力をそなえ、研究者または専門職業人として、積極的に社会を支えることのできる人材を養成することである。
人間環境学研究科	人間環境学専攻	人間環境学研究科の教育研究上の目的は、違いを対立軸としない新たな価値観に基づく「持続可能な共生社会」を、「環境保全を重視した人間活動と良好な自然環境が両立する自然共生社会、並びに人間と人間が種々の違いを認めつつ文化・習慣・世代などの壁を越えて協同する人間共生社会」と定義し、その基盤となる「真に豊かな人間環境」の実現を目指して、「人間の生き方を再考し、豊かさの本質を問い直す」ことを教育・研究上の理念とする。この理念に基づき、人文・社会・自然科学の枠を超えた学際的な視野で、地域社会との連携を重視した実践的な教育と研究を行うことにより、「従来の固定観念にとらわれることなく人間環境を広い視野で考え、共生社会構築に向けて行動できる人材」を養成する。
芸術学研究科	芸術学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、芸術の今日的課題を究明し、芸術の理論及び表現技術を追求するとともに、自ら問題解決のできる、実践力のある創造的人材を養成することである。その目的を実現するため、芸術学研究科に音響芸術専攻と造型芸術専攻の2専攻を設け、音楽及び美術・デザインにおける学問と実技・実践の両面から教育・研究を行う。	
	音響芸術専攻	音響芸術専攻の教育研究上の目的は、音響芸術(すなわち音楽)の理論的研究とその現代的課題の究明、演奏・歌唱などに関わる表現技術の研究などを通して専門性を深めると共に、多様化、グローバル化した現代の状況に即応し、音響芸術領域さらには他の専門分野も含めた、横断的で柔軟な人材を養成することである。
	造型芸術専攻	造型芸術専攻の教育研究上の目的は、美術やデザインに関わる理論的研究とその現代的課題の究明、制作・創作などに関わる表現技術の研究などを通して専門性を深めると共に、多様化、グローバル化した現代の状況に即応し、造型芸術領域さらには他の専門分野も含めた、横断的で柔軟な人材を養成することである。
体育学研究科	体育学専攻	体育学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、本学の建学の精神である人道主義、人格主義に立脚し、体育学の専門分野について高度にして専門的な理論と応用を教授研究し、豊かな教養と学識そして技能を有する平和で豊かな人類文化の発展に貢献できるような人材を養成することである。

理学研究科	理学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、「専門に対応できる基礎力」「総合的な判断力」「プレゼンテーション能力」を身につけた人材を養成することである。	
	数理学専攻	数理学専攻の教育研究上の目的は、数学的思考や数理センスあるいは高度なITスキルをもとに社会に貢献できる人材を養成することである。
	物理学専攻	物理学専攻の教育研究上の目的は、新しい科学技術を創造して21世紀の社会を背負って立つ能力をもつ人材を養成することである。
	化学専攻	化学専攻の教育研究上の目的は、21世紀の化学を担うスペシャリストとして専門に対応でき、総合的な判断力と論理的な表現力をもつ人材を養成することである。
工学研究科	工学研究科の教育研究上の目的は、専門分野における精深な学識を身につけ、近年の社会変動に適切に対応する能力と、正しい歴史観、世界観に基づく人間性に加えて国際的視野を兼ね備えた人材を育成することである。修得した高度な技術に基づく社会貢献への強い熱意と共に、高い技術者倫理を持った人材を養成する。	
	電気電子工学専攻	電気電子工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と電気電子工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	応用理化学専攻	応用理化学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。応用理化学分野に共通する知識と機械工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	建築土木工学専攻	建築土木工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と建築・土木工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	機械工学専攻	機械工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と機械工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	医用生体工学専攻	医用生体工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と医用生体工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
情報通信学研究科	情報通信学専攻	情報通信学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、情報通信学及び情報通信技術に関する高度な知識及び技術をバランスよく修得し、困難な課題に対して問題を抽象化し問題解決手法を導き出せる応用力と、身につけた能力を社会において実学として活かせる実行力を有し、これらを通じて国際社会の発展に積極的に貢献できる広い視野を持った人材を養成することである。
海洋学研究科	海洋学専攻	海洋学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、海洋に関わる幅広い視野と専門分野の高度な知識・技能を修得し、それらを有機的に応用して海洋に関する諸問題を発見・解決できる能力を育成することにある。さらに、これらの知識・技能・能力を社会問題の解決へとつなぎ、持続可能な社会の実現に貢献できる高度な専門的職業人を育成することを目指す。
医学研究科	医学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、医学及び生命科学分野で国際的に活躍できる研究能力と、良識を兼ね備えた人材を養成することである。	
	先端医科学専攻	先端医科学専攻の教育研究上の目的は、医学及び生命科学分野で活躍できる良識を備えた研究者、及び研究マインドを持った専門医を養成することである。
	医科学専攻	医科学専攻の教育研究上の目的は、医学・生命科学の研究に必要な境界領域の知識を兼ね備えた医学研究者を養成することである。

健康科学研究科	健康科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、看護・保健・医療・福祉の領域における従来の専門性の枠を越え、より総合的・国際的な視野に立った保健医療福祉サービスの統合化を志向する高度な専門知識と研究・実践能力を備えた人材を養成することである。本研究科は、社会的要請に対応した高度な専門知識・技能とともに、チーム連携調整能力、国際的視野を兼ね備えた指導的専門職業人を育て、看護・保健・医療・福祉の発展に寄与する。	
	看護学専攻	看護学専攻の教育研究上の目的は、科学とヒューマンイズムの融和を目指して、高い倫理観を培い、創造的な看護実践ならびにその基盤となる研究を遂行できる人材を養成することである。
	保健福祉学専攻	保健福祉学専攻の教育研究上の目的は、保健福祉領域における最先端の理論や研究方法を習得することにより、実践課題を分析する手法と問題解決スキルを備えた人材を養成することである。
農学研究科	農学専攻	農学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、生物の多様な機能を理解し、生物生産及び生命科学領域に貢献しうる高度な専門性と総合性を併せ持つ学際融合的な人材を養成することである。
生物学研究科	生物学専攻	生物学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、生物学に関する専門的知識、特に生物の生理的機構に関する知識、生物多様性に関する解析やその保全、生物資源の維持・開発に関する知識を修得し、実践的に活用できる人材を養成することである。

別表2 入学定員及び収容定員

研究科	専攻	入学定員		収容定員	
		博士課程前期 及び修士課程	博士課程後期 及び博士課程	博士課程前期 及び修士課程	博士課程後期 及び博士課程
総合理工学研究科	総合理工学専攻	—	35	—	105
	計	—	35	—	105
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	—	10	—	30
	計	—	10	—	30
生物科学研究科	生物科学専攻	—	10	—	30
	計	—	10	—	30
文学研究科	文明研究専攻	8	4	16	12
	史学専攻	8	4	16	12
	日本文学専攻	8	4	16	12
	英文学専攻	4	2	8	6
	コミュニケーション学専攻	8	4	16	12
	観光学専攻	8	—	16	—
	計	44	18	88	54
政治学研究科	政治学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
経済学研究科	応用経済学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
法学研究科	法律学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
人間環境学研究科	人間環境学専攻	10	—	20	—
	計	10	—	20	—
芸術学研究科	音響芸術専攻	4	—	8	—
	造型芸術専攻	4	—	8	—
	計	8	—	16	—
体育学研究科	体育学専攻	15	—	30	—
	計	15	—	30	—
理学研究科	数理科学専攻	8	—	16	—
	物理学専攻	12	—	24	—
	化学専攻	12	—	24	—
	計	32	—	64	—
工学研究科	電気電子工学専攻	50	—	100	—
	応用理化学専攻	45	—	90	—
	建築土木工学専攻	25	—	50	—
	機械工学専攻	75	—	150	—
	医用生体工学専攻	8	—	16	—
	計	203	—	406	—
情報通信学研究科	情報通信学専攻	30	—	60	—
	計	30	—	60	—
海洋学研究科	海洋学専攻	20	—	40	—
	計	20	—	40	—
医学研究科	医科学専攻	10	—	20	—
	先端医科学専攻	—	35	—	140
	計	10	35	20	140
健康科学研究科	看護学専攻	10	—	20	—
	保健福祉学専攻	10	—	20	—
	計	20	—	40	—
農学研究科	農学専攻	12	—	24	—
	計	12	—	24	—
生物学研究科	生物学専攻	8	—	16	—
	計	8	—	16	—
合計		442	123	884	404

別表3 授業科目および単位数

I. 総合理工学研究科

総合理工学専攻・博士課程

授業科目	時間数
共同ゼミナール	30
専修ゼミナール	30

II. 地球環境科学研究科

地球環境科学専攻・博士課程

授業科目	時間数
共同ゼミナール	30
専修ゼミナール	30

III. 生物科学研究科

生物科学専攻・博士課程

授業科目	時間数
共同ゼミナール	30
専修ゼミナール	30

A. 文学研究科

文明研究専攻・博士課程前期

文明研究専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	授業科目	単位数
文明理論研究1-1	2	文明理論研究3-1	2
文明理論研究1-2	2	文明理論研究3-2	2
文明理論研究2-1	2	文明理論演習3-1	2
文明理論研究2-2	2	文明理論演習3-2	2
文明理論演習1-1	2	文明研究1-1	2
文明理論演習1-2	2	文明研究1-2	2
文明理論演習2-1	2	文明研究2-1	2
文明理論演習2-2	2	文明研究2-2	2
比較文明学研究-1	2	文明研究3-1	2
比較文明学研究-2	2	文明研究3-2	2
比較文明学演習-1	2	文明演習1-1	2
比較文明学演習-2	2	文明演習1-2	2
現代文明論研究1-1	2	文明演習2-1	2
現代文明論研究1-2	2	文明演習2-2	2
現代文明論演習1-1	2	文明演習3-1	2
現代文明論演習1-2	2	文明演習3-2	2
科学論・技術論研究-1	2	現代文明論研究2-1	2
科学論・技術論研究-2	2	現代文明論研究2-2	2
科学論・技術論演習-1	2	現代文明論演習2-1	2
科学論・技術論演習-2	2	現代文明論演習2-2	2
科学史・技術史研究-1	2	文明研究法2-1	1
科学史・技術史研究-2	2	文明研究法2-2	1
科学史・技術史演習-1	2		
科学史・技術史演習-2	2		
アジア文明研究1-1	2		
アジア文明研究1-2	2		
アジア文明研究2-1	2		
アジア文明研究2-2	2		
アジア文明研究3-1	2		
アジア文明研究3-2	2		
アジア文明演習1-1	2		
アジア文明演習1-2	2		
アジア文明演習2-1	2		
アジア文明演習2-2	2		

アジア文明演習3-1	2
アジア文明演習3-2	2
ヨーロッパ文明研究1-1	2
ヨーロッパ文明研究1-2	2
ヨーロッパ文明研究2-1	2
ヨーロッパ文明研究2-2	2
ヨーロッパ文明研究3-1	2
ヨーロッパ文明研究3-2	2
ヨーロッパ文明演習1-1	2
ヨーロッパ文明演習1-2	2
ヨーロッパ文明演習2-1	2
ヨーロッパ文明演習2-2	2
ヨーロッパ文明演習3-1	2
ヨーロッパ文明演習3-2	2
日本文明研究1-1	2
日本文明研究1-2	2
日本文明研究2-1	2
日本文明研究2-2	2
日本文明研究3-1	2
日本文明研究3-2	2
日本文明演習1-1	2
日本文明演習1-2	2
日本文明演習2-1	2
日本文明演習2-2	2
日本文明演習3-1	2
日本文明演習3-2	2
アメリカ文明研究1-1	2
アメリカ文明研究1-2	2
アメリカ文明研究2-1	2
アメリカ文明研究2-2	2
アメリカ文明研究3-1	2
アメリカ文明研究3-2	2
アメリカ文明演習1-1	2
アメリカ文明演習1-2	2
アメリカ文明演習2-1	2
アメリカ文明演習2-2	2
アメリカ文明演習3-1	2
アメリカ文明演習3-2	2
文明研究法A	1
文明研究法B	1
文明研究法C	1
文明研究法D	1

史学専攻・博士課程前期

史学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	授業科目	単位数
史学理論研究1	2	日本史学特殊研究1	2
史学理論研究2	2	日本史学特殊研究2	2
日本史学特殊研究A-1	2	日本史学文献研究1	2
日本史学特殊研究A-2	2	日本史学文献研究2	2
日本史学特殊研究B-1	2	東洋史学特殊研究1	2
日本史学特殊研究B-2	2	東洋史学特殊研究2	2
日本史学特殊研究C-1	2	東洋史学文献研究1	2
日本史学特殊研究C-2	2	東洋史学文献研究2	2
日本史学特殊研究D-1	2	西洋史学特殊研究1	2
日本史学特殊研究D-2	2	西洋史学特殊研究2	2
日本史学特殊研究E-1	2	西洋史学文献研究1	2
日本史学特殊研究E-2	2	西洋史学文献研究2	2

日本史学文献研究A-1	2	考古学特殊研究1	2
日本史学文献研究A-2	2	考古学特殊研究2	2
日本史学文献研究B-1	2	考古学研究(演習)1	2
日本史学文献研究B-2	2	考古学研究(演習)2	2
日本史学文献研究C-1	2	史学研究法2-1	1
日本史学文献研究C-2	2	史学研究法2-2	1
日本史学文献研究D-1	2		
日本史学文献研究D-2	2		
日本史学文献研究E-1	2		
日本史学文献研究E-2	2		
東洋史学特殊研究A-1	2		
東洋史学特殊研究A-2	2		
東洋史学特殊研究B-1	2		
東洋史学特殊研究B-2	2		
東洋史学特殊研究C-1	2		
東洋史学特殊研究C-2	2		
東洋史学特殊研究D-1	2		
東洋史学特殊研究D-2	2		
東洋史学文献研究A-1	2		
東洋史学文献研究A-2	2		
東洋史学文献研究B-1	2		
東洋史学文献研究B-2	2		
東洋史学文献研究C-1	2		
東洋史学文献研究C-2	2		
東洋史学文献研究D-1	2		
東洋史学文献研究D-2	2		
西洋史学特殊研究A-1	2		
西洋史学特殊研究A-2	2		
西洋史学特殊研究B-1	2		
西洋史学特殊研究B-2	2		
西洋史学特殊研究C-1	2		
西洋史学特殊研究C-2	2		
西洋史学特殊研究D-1	2		
西洋史学特殊研究D-2	2		
西洋史学文献研究A-1	2		
西洋史学文献研究A-2	2		
西洋史学文献研究B-1	2		
西洋史学文献研究B-2	2		
西洋史学文献研究C-1	2		
西洋史学文献研究C-2	2		
西洋史学文献研究D-1	2		
西洋史学文献研究D-2	2		
考古学特殊研究A-1	2		
考古学特殊研究A-2	2		
考古学特殊研究B-1	2		
考古学特殊研究B-2	2		
考古学特殊研究C-1	2		
考古学特殊研究C-2	2		
考古学特殊研究D-1	2		
考古学特殊研究D-2	2		
考古学研究(演習)A-1	2		
考古学研究(演習)A-2	2		
考古学研究(演習)B-1	2		
考古学研究(演習)B-2	2		
考古学研究(演習)C-1	2		
考古学研究(演習)C-2	2		
考古学研究(演習)D-1	2		

考古学研究(演習)D-2	2
史学研究法A	1
史学研究法B	1
史学研究法C	1
史学研究法D	1

日本文学専攻・博士課程前期

日本文学専攻・博士課程後期

日本文学専攻・博士課程前期		日本文学専攻・博士課程後期	
授業科目	単位数	授業科目	単位数
日本文学演習-1	2	上代文学特殊講義D-1	2
日本文学演習-2	2	上代文学特殊講義D-2	2
日本語学特殊演習-1	2	上代文学特殊講義E-1	2
日本語学特殊演習-2	2	上代文学特殊講義E-2	2
上代文学特殊講義A-1	2	中古文学特殊講義D-1	2
上代文学特殊講義A-2	2	中古文学特殊講義D-2	2
上代文学特殊講義B-1	2	中古文学特殊講義E-1	2
上代文学特殊講義B-2	2	中古文学特殊講義E-2	2
上代文学特殊講義C-1	2	中世文学特殊講義D-1	2
上代文学特殊講義C-2	2	中世文学特殊講義D-2	2
中古文学特殊講義A-1	2	中世文学特殊講義E-1	2
中古文学特殊講義A-2	2	中世文学特殊講義E-2	2
中古文学特殊講義B-1	2	近世文学特殊講義D-1	2
中古文学特殊講義B-2	2	近世文学特殊講義D-2	2
中古文学特殊講義C-1	2	近世文学特殊講義E-1	2
中古文学特殊講義C-2	2	近世文学特殊講義E-2	2
中世文学特殊講義A-1	2	近代文学特殊講義D-1	2
中世文学特殊講義A-2	2	近代文学特殊講義D-2	2
中世文学特殊講義B-1	2	近代文学特殊講義E-1	2
中世文学特殊講義B-2	2	近代文学特殊講義E-2	2
中世文学特殊講義C-1	2	日本語学特殊講義D-1	2
中世文学特殊講義C-2	2	日本語学特殊講義D-2	2
近世文学特殊講義A-1	2	日本語学特殊講義E-1	2
近世文学特殊講義A-2	2	日本語学特殊講義E-2	2
近世文学特殊講義B-1	2	上代文学文献研究2-1	2
近世文学特殊講義B-2	2	上代文学文献研究2-2	2
近世文学特殊講義C-1	2	中古文学文献研究2-1	2
近世文学特殊講義C-2	2	中古文学文献研究2-2	2
近代文学特殊講義A-1	2	中世文学文献研究2-1	2
近代文学特殊講義A-2	2	中世文学文献研究2-2	2
近代文学特殊講義B-1	2	近世文学文献研究2-1	2
近代文学特殊講義B-2	2	近世文学文献研究2-2	2
近代文学特殊講義C-1	2	近代文学文献研究2-1	2
近代文学特殊講義C-2	2	近代文学文献研究2-2	2
日本語学特殊講義A-1	2	日本語学文献研究2-1	2
日本語学特殊講義A-2	2	日本語学文献研究2-2	2
日本語学特殊講義B-1	2	日本文学研究法2-1	1
日本語学特殊講義B-2	2	日本文学研究法2-2	1
日本語学特殊講義C-1	2		
日本語学特殊講義C-2	2		
漢文学特殊講義A-1	2		
漢文学特殊講義A-2	2		
漢文学特殊講義B-1	2		
漢文学特殊講義B-2	2		
上代文学文献研究1-1	2		
上代文学文献研究1-2	2		
中古文学文献研究1-1	2		
中古文学文献研究1-2	2		
中世文学文献研究1-1	2		

中世文学文献研究1-2	2
近世文学文献研究1-1	2
近世文学文献研究1-2	2
近代文学文献研究1-1	2
近代文学文献研究1-2	2
日本語学文献研究1-1	2
日本語学文献研究1-2	2
日本文学研究法A	1
日本文学研究法B	1
日本文学研究法C	1
日本文学研究法D	1
日本語学1-1	2
日本語学1-2	2
日本語学2-1	2
日本語学2-2	2
日本語学3-1	2
日本語学3-2	2
日本語教授法研究1-1	2
日本語教授法研究1-2	2
日本語教授法研究2-1	2
日本語教授法研究2-2	2
日本語教授法演習-1	2
日本語教授法演習-2	2
国際関係特論-1	2
国際関係特論-2	2
社会言語学特論	2
日本語研究特論-1	2
日本語研究特論-2	2
日本語教育研究特論	2
日本語教育学研究法A	1
日本語教育学研究法B	1
日本語教育学研究法C	1
日本語教育学研究法D	1

英文学専攻・博士課程前期

英文学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	授業科目	単位数
近代英文学研究1-1	2	近代英文学研究2-1	2
近代英文学研究1-2	2	近代英文学研究2-2	2
近代英文学演習1-1	2	近代英文学演習2-1	2
近代英文学演習1-2	2	近代英文学演習2-2	2
現代英文学研究1-1	2	現代英文学研究2-1	2
現代英文学研究1-2	2	現代英文学研究2-2	2
現代英文学演習1-1	2	現代英文学演習2-1	2
現代英文学演習1-2	2	現代英文学演習2-2	2
中世英文学研究1-1	2	中世英文学研究2-1	2
中世英文学研究1-2	2	中世英文学研究2-2	2
中世英文学演習1-1	2	中世英文学演習2-1	2
中世英文学演習1-2	2	中世英文学演習2-2	2
アメリカ文学研究1-1	2	アメリカ文学研究2-1	2
アメリカ文学研究1-2	2	アメリカ文学研究2-2	2
アメリカ文学演習1-1	2	アメリカ文学演習2-1	2
アメリカ文学演習1-2	2	アメリカ文学演習2-2	2
英語学研究1A-1	2	英語学研究2A-1	2
英語学研究1A-2	2	英語学研究2A-2	2
英語学演習1A-1	2	英語学演習2A-1	2
英語学演習1A-2	2	英語学演習2A-2	2
英語学研究1B-1	2	英語学研究2B-1	2

英語学研究1B-2	2	英語学研究2B-2	2
英語学演習1B-1	2	英語学演習2B-1	2
英語学演習1B-2	2	英語学演習2B-2	2
応用言語学1-1	2	応用言語学2-1	2
応用言語学1-2	2	応用言語学2-2	2
英語教育学研究1-1	2	古典文学研究-1	2
英語教育学研究1-2	2	古典文学研究-2	2
英語教育学演習1-1	2	古典文学演習-1	2
英語教育学演習1-2	2	古典文学演習-2	2
コミュニケーション学研究1-1	2	英文学表現論-1	2
コミュニケーション学研究1-2	2	英文学表現論-2	2
コミュニケーション学演習1-1	2	英語教育学研究2-1	2
コミュニケーション学演習1-2	2	英語教育学研究2-2	2
英文学研究法A	1	英語教育学演習2-1	2
英文学研究法B	1	英語教育学演習2-2	2
英文学研究法C	1	コミュニケーション学研究2-1	2
英文学研究法D	1	コミュニケーション学研究2-2	2
		コミュニケーション学演習2-1	2
		コミュニケーション学演習2-2	2
		英文学研究法2-1	1
		英文学研究法2-2	1

コミュニケーション学専攻・博士課程前期

コミュニケーション学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	授業科目	単位数
コミュニケーション研究法A	1	コミュニケーション研究法2-1	2
コミュニケーション研究法B	1	コミュニケーション研究法2-2	2
コミュニケーション研究法C	1	コミュニケーション論特殊研究G	4
コミュニケーション研究法D	1	コミュニケーション論研究演習D	4
コミュニケーション論特殊研究A	4	コミュニケーション論研究演習E	4
コミュニケーション論特殊研究B	4	マスコミュニケーション論研究演習3	4
コミュニケーション論特殊研究C	4	マスコミュニケーション論研究演習4	4
コミュニケーション論特殊研究D	4	社会学研究演習3	4
コミュニケーション論特殊研究E	4	社会学研究演習4	4
コミュニケーション論特殊研究F	4	社会心理学研究演習C	4
コミュニケーション論研究演習A	4	社会心理学研究演習D	4
コミュニケーション論研究演習B	4	心理臨床研究演習	4
コミュニケーション論研究演習C	4	心理臨床特殊課題研究	4
広報媒体論特殊講義1	4		
広報媒体論特殊講義2	4		
広告論特殊講義1	4		
広告論特殊講義2	4		
国際コミュニケーション論特殊講義1	4		
国際コミュニケーション論特殊講義2	4		
マスコミュニケーション論研究演習1	4		
マスコミュニケーション論研究演習2	4		
社会変動論特殊講義1	4		
社会変動論特殊講義2	4		
政治コミュニケーション論特殊講義1	4		
政治コミュニケーション論特殊講義2	4		
社会学研究演習1	4		
社会学研究演習2	4		
社会心理学特殊講義A	2		
社会心理学特殊講義B	2		
社会心理学研究演習A	2		
社会心理学研究演習B	2		
臨床心理学特論1	2		
臨床心理学特論2	2		

心理支援に関する理論と実践(臨床心理面接特論1)	2
臨床心理面接特論2	2
心理的アセスメントに関する理論と実践(臨床心理査定演習1)	2
臨床心理査定演習2	2
臨床心理基礎実習1	2
臨床心理基礎実習2	2
心理実践実習	16
臨床心理実習1	2
臨床心理実習2	2
心理統計法特論	2
心理学研究法特論	2
教育分野に関する理論と支援の展開(教育心理学特論)	2
発達心理学特論	2
人格心理学特論	2
神経心理学特論	2
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践(家族心理学特論)	2
産業・労働分野に関する理論と支援の展開(社会心理学特論)	2
心身医学特論	2
保健医療分野に関する理論と支援の展開(精神医学特論)	2
福祉分野に関する理論と支援の展開(障害児者心理学特論)	2
投影法特論	2
グループ・アプローチ特論	2
コミュニティ・アプローチ特論	2
学校臨床心理学特論	2
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開(犯罪心理学特論)	2
臨床心理地域支援実習1	2
臨床心理地域支援実習2	2
心の健康教育に関する理論と実践	2

観光学専攻・修士課程

観光総合理論研究1-1	2
観光総合理論研究1-2	2
観光総合理論研究2-1	2
観光総合理論研究2-2	2
観光総合理論研究3-1	2
観光総合理論研究3-2	2
観光総合理論演習1-1	2
観光総合理論演習1-2	2
観光総合理論演習2-1	2
観光総合理論演習2-2	2
観光総合理論演習3-1	2
観光総合理論演習3-2	2
観光社会理論研究1-1	2
観光社会理論研究1-2	2
観光社会理論研究2-1	2
観光社会理論研究2-2	2
観光社会理論演習1-1	2
観光社会理論演習1-2	2
観光社会理論演習2-1	2
観光社会理論演習2-2	2
観光経済社会理論研究1-1	2
観光経済社会理論研究1-2	2
観光経済社会理論研究2-1	2
観光経済社会理論研究2-2	2
観光経済社会理論演習1-1	2
観光経済社会理論演習1-2	2
観光経済社会理論演習2-1	2

観光経済社会理論演習2-2	2
観光経営社会理論研究1-1	2
観光経営社会理論研究1-2	2
観光経営社会理論研究2-1	2
観光経営社会理論研究2-2	2
観光経営社会理論演習1-1	2
観光経営社会理論演習1-2	2
観光経営社会理論演習2-1	2
観光経営社会理論演習2-2	2
観光システム理論研究1	2
観光システム理論研究2	2
観光システム理論演習1	2
観光システム理論演習2	2
観光学研究法A	1
観光学研究法B	1
観光学研究法C	1
観光学研究法D	1

B. 政治学研究科

政治学専攻・博士課程前期

政治学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	授業科目	単位数
政治学研究演習1	1	政治学研究演習5	1
政治学研究演習2	1	政治学研究演習6	1
政治学研究演習3	1	政治学研究演習7	1
政治学研究演習4	1	政治学研究演習8	1
政治学研究講義1	2	政治学研究演習9	1
政治学研究講義2	2	政治学研究演習10	1
日本政治史研究講義1	2	政治学研究講義3	2
日本政治史研究講義2	2	政治学研究講義4	2
西洋政治史研究講義1	2	西洋政治史研究講義3	2
西洋政治史研究講義2	2	西洋政治史研究講義4	2
西洋政治思想史研究講義1	2	西洋政治思想史研究講義3	2
西洋政治思想史研究講義2	2	西洋政治思想史研究講義4	2
政治過程研究講義1	2	政治過程研究講義3	2
政治過程研究講義2	2	政治過程研究講義4	2
地方行政研究演習1	1	地方行政研究演習5	1
地方行政研究演習2	1	地方行政研究演習6	1
地方行政研究演習3	1	地方行政研究演習7	1
地方行政研究演習4	1	地方行政研究演習8	1
地方行政研究講義1	2	地方行政研究演習9	1
地方行政研究講義2	2	地方行政研究演習10	1
行政学研究講義1	2	地方行政研究講義3	2
行政学研究講義2	2	地方行政研究講義4	2
都市政策研究講義1	2	行政学研究講義3	2
都市政策研究講義2	2	行政学研究講義4	2
公共経営特論1	2	都市政策研究講義3	2
公共経営特論2	2	都市政策研究講義4	2
情報政策特論1	2	国際政治学研究演習5	1
情報政策特論2	2	国際政治学研究演習6	1
国際政治学研究演習1	1	国際政治学研究演習7	1
国際政治学研究演習2	1	国際政治学研究演習8	1
国際政治学研究演習3	1	国際政治学研究演習9	1
国際政治学研究演習4	1	国際政治学研究演習10	1
国際政治学研究講義1	2	国際政治学研究講義3	2
国際政治学研究講義2	2	国際政治学研究講義4	2
国際政治史研究講義1	2	国際政治経済研究講義3	2
国際政治史研究講義2	2	国際政治経済研究講義4	2

国際政治経済研究講義1	2	国際政治史研究講義3	2
国際政治経済研究講義2	2	国際政治史研究講義4	2
現代地域研究(イギリス)講義1	2	現代地域研究(イギリス)講義3	2
現代地域研究(イギリス)講義2	2	現代地域研究(イギリス)講義4	2
現代地域研究(EU)講義1	2	現代地域研究(EU)講義3	2
現代地域研究(EU)講義2	2	現代地域研究(EU)講義4	2
国際関係理論特論1	2		
国際関係理論特論2	2		
英書政治学研究1	1		
英書政治学研究2	1		

C. 経済学研究科

応用経済学専攻・博士課程前期

応用経済学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	授業科目	単位数
経済学基礎研究A	2	経済理論先端研究1	2
経済学基礎研究B	2	経済理論先端研究2	2
経営学基礎研究A	2	経営理論先端研究1	2
経営学基礎研究B	2	経営理論先端研究2	2
研究方法基礎論A(論文)	2	経済・経営情報先端研究1	2
研究方法基礎論B(実証)	2	経済・経営情報先端研究2	2
経済・経営情報研究1	2	経済政策先端研究1	2
経済・経営情報研究2	2	経済政策先端研究2	2
経済理論研究1	2	経済システム先端研究1	2
経済理論研究2	2	経済システム先端研究2	2
経済政策研究1	2	応用経済学先端研究1	2
経済政策研究2	2	応用経済学先端研究2	2
経済システム研究A1	2	経営システム先端研究1	2
経済システム研究A2	2	経営システム先端研究2	2
経済システム研究B1	2	現代企業先端研究1	2
経済システム研究B2	2	現代企業先端研究2	2
応用経済学研究A1	2	会計・財務先端研究1	2
応用経済学研究A2	2	会計・財務先端研究2	2
応用経済学研究B1	2	国際経済・経営先端研究1	2
応用経済学研究B2	2	国際経済・経営先端研究2	2
経営理論研究1	2	応用経済学先端演習1(1)	2
経営理論研究2	2	応用経済学先端演習1(2)	2
経営システム研究A1	2	応用経済学先端演習2(1)	2
経営システム研究A2	2	応用経済学先端演習2(2)	2
経営システム研究B1	2		
経営システム研究B2	2		
現代企業研究A1	2		
現代企業研究A2	2		
現代企業研究B1	2		
現代企業研究B2	2		
会計・財務研究A1	2		
会計・財務研究A2	2		
会計・財務研究B1	2		
会計・財務研究B2	2		
国際経済・経営研究A1	2		
国際経済・経営研究A2	2		
国際経済・経営研究B1	2		
国際経済・経営研究B2	2		
応用経済学演習1	2		
応用経済学演習2	2		

D. 法学研究科

法律学専攻・博士課程前期

法律学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	授業科目	単位数
法学特殊講義1	2	法哲学特殊研究1	2
法学特殊講義2	2	法哲学特殊研究2	2
基礎法学第一特講1	2	憲法第一特殊研究1	2
基礎法学第一特講2	2	憲法第一特殊研究2	2
基礎法学第二特講1	2	憲法第二特殊研究1	2
基礎法学第二特講2	2	憲法第二特殊研究2	2
憲法第一特講1	2	行政法特殊研究1	2
憲法第一特講2	2	行政法特殊研究2	2
憲法第二特講1	2	税法特殊研究1	2
憲法第二特講2	2	税法特殊研究2	2
行政法第一特講1	2	刑事法第一特殊研究1	2
行政法第一特講2	2	刑事法第一特殊研究2	2
行政法第二特講1	2	刑事法第二特殊研究1	2
行政法第二特講2	2	刑事法第二特殊研究2	2
税法第一特講1	2	刑事法第三特殊研究1	2
税法第一特講2	2	刑事法第三特殊研究2	2
税法第二特講1	2	民法特殊研究1	2
税法第二特講2	2	民法特殊研究2	2
刑事法第一特講1	2	民事訴訟法第一特殊研究1	2
刑事法第一特講2	2	民事訴訟法第一特殊研究2	2
刑事法第二特講1	2	民事訴訟法第二特殊研究1	2
刑事法第二特講2	2	民事訴訟法第二特殊研究2	2
刑事法第三特講1	2	商法第一特殊研究1	2
刑事法第三特講2	2	商法第一特殊研究2	2
民法第一特講1	2	商法第二特殊研究1	2
民法第一特講2	2	商法第二特殊研究2	2
民法第二特講1	2	知的財産権法特殊研究1	2
民法第二特講2	2	知的財産権法特殊研究2	2
民法第三特講1	2	労働法特殊研究1	2
民法第三特講2	2	労働法特殊研究2	2
商法第一特講1	2	国際法第一特殊研究1	2
商法第一特講2	2	国際法第一特殊研究2	2
商法第二特講1	2	国際法第二特殊研究1	2
商法第二特講2	2	国際法第二特殊研究2	2
民事訴訟法第一特講1	2	法社会学特殊研究1	2
民事訴訟法第一特講2	2	法社会学特殊研究2	2
民事訴訟法第二特講1	2	法学研究演習1A	2
民事訴訟法第二特講2	2	法学研究演習1B	2
知的財産権法第一特講1	2	法学研究演習2A	2
知的財産権法第一特講2	2	法学研究演習2B	2
知的財産権法第二特講1	2	法学研究演習3	2
知的財産権法第二特講2	2	法学研究演習4	2
社会法第一特講1	2	法学研究演習5	2
社会法第一特講2	2	法学研究演習6	2
社会法第二特講1	2		
社会法第二特講2	2		
医事法特講1	2		
医事法特講2	2		
国際法第一特講1	2		
国際法第一特講2	2		
国際法第二特講1	2		
国際法第二特講2	2		
外国法特講1	2		
外国法特講2	2		
法学演習1A	2		
法学演習1B	2		

法学演習2A	2
法学演習2B	2
法学演習3	2
法学演習4	2

E. 人間環境学研究科

人間環境学専攻・修士課程

授業科目	単位数
共生社会基礎論	2
共生社会基礎実習	2
人間環境論文研究1	1
人間環境論文研究2	1
人間環境論文研究3	1
人間環境論文研究4	1
人間環境学特講1	1
人間環境学特講2	1
人間環境学特講3	1
人間環境学特講4	1
自然環境論	2
共生社会倫理論	2
近代環境史	2
保全生態学	2
地域文化論	2
地域環境経済論	2
地域環境政策論	2
共生社会史	2
環境教育特論A	2
環境教育特論B	2
環境教育方法論A	2
環境教育方法論B	2
自然環境評価研究	2
環境負荷影響研究	2
地域環境保全研究	2
資源循環システム研究	2
自然環境保全研究	2
地域農業システム研究	2
地元学研究	2
地域環境デザイン研究	2
世代共生研究	2
環境保全政策研究	2
いごち研究	2
ライフデザイン研究	2
環境教育フィールド研究	2
環境教育実践研究	2

F. 芸術学研究科

音響芸術専攻・修士課程

授業科目	単位数
音楽研究1	2
音楽研究2	2
音楽研究3	2
音楽研究4	2
音楽研究演習1	1
音楽研究演習2	1
音楽研究演習3	1
音楽研究演習4	1
芸術学総合研究	2

西洋音楽史特講	2
音楽資料論特講	2
日本音楽史特講	2
日本芸能論特講	2
実験美学特講	2
音楽美学特講	2
世界音楽論特講	2
舞踊学特講	2
音楽療法理論特講	2
音楽療法治療構造論特講	2
劇場学特講	2
詩と音楽の理論特講	2
演奏表現法特講	2
楽曲分析特講	2
古楽研究特講	2
演奏法1	1
演奏法2	1
演奏法3	1
演奏法4	1

造型芸術専攻・修士課程

授業科目	単位数
美術学研究1	2
美術学研究2	2
美術学研究3	2
美術学研究4	2
美術学研究演習1	1
美術学研究演習2	1
美術学研究演習3	1
美術学研究演習4	1
デザイン学研究1	2
デザイン学研究2	2
デザイン学研究3	2
デザイン学研究4	2
デザイン学研究演習1	1
デザイン学研究演習2	1
デザイン学研究演習3	1
デザイン学研究演習4	1
芸術学総合研究	2
造形芸術特講(絵画系A)	2
造形芸術特講(絵画系B)	2
造形芸術特講(彫刻系)	2
造形芸術特講(美術史系)	2
造形芸術特講(現代美術系)	2
造形芸術特講(画像系)	2
造形芸術特講(情報系)	2
造形芸術特講(製品系)	2
造形芸術特講(環境系)	2
造形芸術特講(社会系)	2
造形芸術理論特講(美学・哲学系)	2
造形芸術理論特講(材料系)	2
造形芸術理論特講(美術史系A)	2
造形芸術理論特講(美術史系B)	2
造形芸術理論特講(工芸系)	2
造形芸術理論特講(現代芸術系)	2
造形芸術理論特講(国際系)	2
造形芸術理論特講(情報系)	2

造形芸術理論特講(視覚表現系)	2
造形芸術理論特講(色彩系)	2
造形芸術理論特講(図像系)	2
造形芸術理論特講(アートマネジメント系)	2
造形芸術理論特講(メディアアート系)	2
造形芸術理論特講(社会系)	2

G. 体育学研究科

体育学専攻・修士課程

授業科目	単位数
体育学研究総論	2
体育学研究法A	2
体育学研究法B	2
体育学文献講読	2
体育哲学特論	2
体育哲学演習	2
スポーツ社会学特論	2
スポーツ社会学演習	2
スポーツ史特論	2
スポーツ史演習	2
スポーツ心理学特論	2
スポーツ心理学特別実習	2
運動生理学特論	2
運動生理学特別実習	2
スポーツバイオメカニクス特論	2
スポーツバイオメカニクス特別実習	2
スポーツ医学特論	2
スポーツ医学特別実習	2
武道学特論	2
武道学特別実習	2
スポーツ方法学特論	2
スポーツ方法学特別実習	2
生涯スポーツ特論	2
生涯スポーツ演習	2
スポーツ&レジャー特論	2
スポーツ&レジャー演習	2
スポーツマネジメント特論	2
スポーツマネジメント演習	2
体力学特論	2
体力学特別実習	2
健康教育学特論	2
健康教育学演習	2
スポーツ運動学特論	2
スポーツ運動学演習	2
コーチング特論	2
コーチング特別実習	2
トレーニング特論	2
トレーニング特別実習	2
応用スポーツ心理学特論	2
応用スポーツ心理学特別実習	2
保健体育科教育学特論	2
保健体育科教育学演習	2
体育学研究1	2
体育学研究2	2
体育学研究3	2
体育学研究4	2
体育学特論A	2

体育学特論B	2
体育学特論C	2
体育学特論D	2

H. 理学研究科

数理科学専攻・修士課程

授業科目	単位数
代数学A	2
代数学B	2
代数学C	2
代数学D	2
幾何学A	2
幾何学B	2
幾何学C	2
幾何学D	2
解析学A	2
解析学B	2
解析学C	2
解析学D	2
統計数学A	2
統計数学B	2
統計数学C	2
統計数学D	2
応用数理学A	2
応用数理学B	2
応用数理学C	2
応用数理学D	2
数理研究ゼミナール1	4
数理研究ゼミナール2	4
代数学通論	2
幾何学通論	2
解析学通論	2
統計数学通論	2
情報数理学通論	2
応用数理学通論	2
代数学特論A	2
代数学特論B	2
代数学特論C	2
代数学特論D	2
幾何学特論A	2
幾何学特論B	2
幾何学特論C	2
幾何学特論D	2
解析学特論A	2
解析学特論B	2
解析学特論C	2
解析学特論D	2
統計数学特論A	2
統計数学特論B	2
統計数学特論C	2
統計数学特論D	2
応用数理学特論A	2
応用数理学特論B	2
応用数理学特論C	2
応用数理学特論D	2
教育数学特論A	2
教育数学特論B	2

教育数学特論C	2
教育数学特論D	2
情報代数学A	2
情報代数学B	2
情報代数学C	2
情報代数学D	2
幾何とそのアルゴリズムA	2
幾何とそのアルゴリズムB	2
幾何とそのアルゴリズムC	2
幾何とそのアルゴリズムD	2
応用解析学A	2
応用解析学B	2
応用解析学C	2
応用解析学D	2
応用確立・統計学A	2
応用確立・統計学B	2
応用確立・統計学C	2
応用確立・統計学D	2
情報数理学A	2
情報数理学B	2
情報数理学C	2
情報数理学D	2
離散数学A	2
離散数学B	2
離散数学C	2
離散数学D	2
情報代数学特論A	2
情報代数学特論B	2
情報代数学特論C	2
情報代数学特論D	2
幾何とそのアルゴリズム特論A	2
幾何とそのアルゴリズム特論B	2
幾何とそのアルゴリズム特論C	2
幾何とそのアルゴリズム特論D	2
応用解析学特論A	2
応用解析学特論B	2
応用解析学特論C	2
応用解析学特論D	2
応用確立・統計学特論A	2
応用確立・統計学特論B	2
応用確立・統計学特論C	2
応用確立・統計学特論D	2
情報数理学特論A	2
情報数理学特論B	2
情報数理学特論C	2
情報数理学特論D	2
離散数学特論A	2
離散数学特論B	2
離散数学特論C	2
離散数学特論D	2

物理学専攻・修士課程

授業科目	単位数
相対論的量子論1	2
相対論的量子論2	2
相対論特論1	2
相対論特論2	2

素粒子論特論1	2
素粒子論特論2	2
統計力学特論1	2
統計力学特論2	2
原子分光物理学特論1	2
原子分光物理学特論2	2
電磁エネルギー物理学特論1	2
電磁エネルギー物理学特論2	2
電磁気学特論1	2
電磁気学特論2	2
レーザー物理学特論1	2
レーザー物理学特論2	2
高分子物理学特論1	2
高分子物理学特論2	2
生命の分子物理学特論1	2
生命の分子物理学特論2	2
複雑液体のダイナミクス1	2
複雑液体のダイナミクス2	2
宇宙放射線計測学特論1	2
宇宙放射線計測学特論2	2
ガンマ線天文学特論1	2
ガンマ線天文学特論2	2
高エネルギー宇宙物理学特論1	2
高エネルギー宇宙物理学特論2	2
地球気候力学特論1	2
地球気候力学特論2	2
惑星流体力学特論1	2
惑星流体力学特論2	2
知的財産権法特論1	2
知的財産権法特論2	2
物理学研究ゼミナールA	4
物理学研究ゼミナールB	4
物理学研究ゼミナールC	4
物理学研究ゼミナールD	4

化学専攻・修士課程

授業科目	単位数
化学研究ゼミナールA-1	2
化学研究ゼミナールA-2	2
化学研究ゼミナールB-1	2
化学研究ゼミナールB-2	2
化学研究ゼミナールC-1	2
化学研究ゼミナールC-2	2
物理化学特論1	2
物理化学特論2	2
物理化学特論3	2
物理化学特論4	2
分析化学特論1	2
分析化学特論2	2
分析化学特論3	2
分析化学特論4	2
無機化学特論1	2
無機化学特論2	2
無機化学特論3	2
無機化学特論4	2
有機化学特論1	2
有機化学特論2	2

有機化学特論3	2
有機化学特論4	2
教育化学特論1	2
教育化学特論2	2
教育化学特論3	2
教育化学特論4	2
自然化学特論1	2
自然化学特論2	2
高分子化学特論1	2
高分子化学特論2	2

I. 工学研究科

電気電子工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
電気電子工学特別演習1	2
電気電子工学特別演習2	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
電気磁気学基礎論	2
電気磁気学特論	2
画像工学特論	2
基礎物理学特論	2
情報通信ネットワーク特論	2
制御工学特論	2
デジタル情報処理特論	2
電気回路学特論	2
電子回路学特論	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
生命情報学習特論	2
バーチャルリアリティ特論	2
協調型情報システム工学特論	2
情報数理応用特論	2
アルゴリズムとデータ構造特論	2
神経情報科学特論	2
画像解析特論	2
リモートセンシング特論	2
環境情報特論	2
波動光学特論	2
光化学特論	2
非線形光学特論	2
光計測工学特論	2
電磁波工学特論	2
通信工学特論	2
固体物性基礎特論	2
結晶解析学特論	2
コンピュータシステム設計特論	2
半導体工学特論	2
電力システム工学特論	2
電気機器システム特論	2
電気電子材料工学特論	2
環境エネルギー工学特論	2
ロボットシミュレーション特論	2
ロボットビジョン特論	2
システムモデリング特論	2
電力変換工学特論	2
電気電子工学研究ゼミナール1	2
電気電子工学研究ゼミナール2	2

電気電子工学研究ゼミナール3	2
電気電子工学研究ゼミナール4	2

応用理化学専攻・修士課程

授業科目	単位数
理化学基礎特論1	2
理化学基礎特論2	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
量子物理学特論	2
プラズマエネルギー科学特論	2
エネルギー変換科学特論	2
コンピュータ化学演習	2
環境工学特論	2
有機化学特論	2
無機化学特論	2
物理化学特論	2
化学工学特論	2
生命化学特論	2
資源・エネルギー特論	2
機器分析特論	2
材料物性基礎特論	2
材料学基礎特論	2
材料加工学基礎特論	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
原子力熱化学工学特論	2
環境解析科学特論	2
放射線計測学特論	2
新エネルギー特論	2
応用放射線科学特論	2
原子力エネルギー特論	2
原子力インターンシップ	2
原子炉物理学特論	2
核放射化学特論	2
放射線生物科学特論	2
エネルギー材料物理学特論	2
原子力工学専門講義	2
糖鎖工学特論	2
細胞工学特論	2
免疫生化学特論	2
生体物質生化学特論	2
分子生物学特論	2
遺伝子工学特論	2
生命有機化学特論	2
医薬品化学特論	2
物質化学特論	2
元素化学特論	2
電子化学特論	2
化学熱力学特論	2
反応工学特論	2
有機反応化学特論	2
天然物化学特論	2
物性化学特論	2
高分子化学特論	2
無機合成化学特論	2
材料物理化学特論	2
材料物性応用特論	2

材料プロセス工学特論	2
接合科学特論	2
材料強度学特論	2
機能材料学特論	2
電気材料学特論	2
鉄鋼材料学特論	2
材料加工学応用特論	2
セラミックス材料学特論	2
応用理化学研究ゼミナール1	2
応用理化学研究ゼミナール2	2
応用理化学研究ゼミナール3	2
応用理化学研究ゼミナール4	2

建築土木工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
建設マネジメント特論	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
建築非構造材料特論・同演習	4
建築構造材料特別演習	2
建築基礎設計特論・同演習	4
建築空間計画特論	2
建築家職能特論	2
材料科学特論	2
コンクリート工学特論	2
土質工学特論・同演習	4
水環境学特論	2
都市および地域計画特論	2
都市開発システム特論	2
都市マスタープラン特論	2
シェル・空間構造計画特論	2
シェル・空間構造設計特論	2
建築構造設計特論・同演習	4
建築構造解析特論・同演習	4
先端建築構造技術	2
建築構造材料特論	2
建築温熱環境計画特論	2
建築視環境計画特論	2
建築設備システム設計特論・同演習	4
建築パッシブシステム計画特論	2
空調システム計画特論	2
建築室内環境計画特論・同演習	4
居住環境計画特論	2
建築計画特論1・同演習	4
建築計画特論2・同演習	4
史的空間計画特論	2
建築保存・修復計画特論	2
建築施設計画特論	2
建築設計スタジオ1	4
建築設計スタジオ2	4
建築設計スタジオ3	4
建築インターンシップ1	4
建築インターンシップ2	4
建築インターンシップ3	4
建築インターンシップ4	4
建築インターンシップ5	2

建築インターンシップ6	2
応用力学特論・同演習	4
計算工学特論	2
連続体力学特論	2
応用水理学特論・同演習	4
衛生工学特論	2
施工技術特論	2
統計学特論	2
構造工学特論	2
構造振動学特論	2
コンクリート構造工学特論	2
維持・補修工学特論	2
地下水工学特論	2
環境地盤工学特論	2
海岸水理学特論	2
建築土木工学研究ゼミナール1	2
建築土木工学研究ゼミナール2	2
建築土木工学研究ゼミナール3	2
建築土木工学研究ゼミナール4	2

機械工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
機械工学特論A	2
機械工学特論B	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
流体力学特論	2
熱工学特論	2
機械材料学特論	2
機械加工学特論	2
統計学特論	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
材料力学特論	2
機械力学特論	2
システム制御工学特論	2
宇宙計測学特論	2
航空宇宙先端科学技術特論	2
有限要素法特論	2
プラズマ理工学特論	2
応用数学特論	2
エネルギーシステム工学特論	2
燃料電池工学特論	2
燃焼工学特論	2
エンジンシステム特論	2
圧縮性流体力学特論	2
非圧縮性流体の数値解析特論	2
圧縮性流体の数値解析特論	2
エアロダイナミクス特論	2
精密加工学特論	2
マイクロマシン特論	2
塑性力学特論	2
生体医工学特論	2
設計工学特論	2
構造力学特論	2
車両工学特論	2
トライボロジー特論	2
モーションコントロール特論	2

メカトロニクス特論	2
マルチボディダイナミクス特論	2
ロボット工学特論	2
機械音響学特論	2
機械振動学特論	2
地球磁気圏科学特論	2
宇宙電磁力学特論	2
電気推進工学特論	2
ロケット推進工学特論	2
飛行力学特論	2
宇宙探査工学特論	2
宇宙システム工学特論	2
宇宙構造物工学	2
航空飛行工学特論	2
機械工学研究ゼミナール1	2
機械工学研究ゼミナール2	2
機械工学研究ゼミナール3	2
機械工学研究ゼミナール4	2

医用生体工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
生体工学特論	2
生体システム特論	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
臨床工学特論	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
臨床工学インターンシップ1	2
臨床工学インターンシップ2	2
生体情報科学特論	2
医用電子工学特論	2
生体材料科学特論	2
生体計測科学特論	2
生体機械工学特論	2
医用画像工学特論	2
放射線医科学特論	2
生体制御工学特論	2
呼吸循環系医工学特論	2
臨床薬理学特論	2
リハビリテーション科学特論	2
医用生体工学研究ゼミナール1	2
医用生体工学研究ゼミナール2	2
医用生体工学研究ゼミナール3	2
医用生体工学研究ゼミナール4	2

J. 情報通信学研究科

情報通信学専攻・修士課程

授業科目	単位数
情報通信学ゼミナール1	1
情報通信学ゼミナール2	1
情報通信学特別研究1	2
情報通信学特別研究2	2
情報通信学特別講義A	2
情報通信学特別講義B	2
技術英語特論	2
知的財産権技術特論	2
情報システム設計特論	2

視覚制御機構特論	2
情報メディア特論	2
認知科学特論	2
音響工学特論	2
信頼性システム特論	2
コンピュータビジョン特論	2
画像工学特論	2
計算機工学特論	2
システム工学特論	2
組込みシステム技術特論	2
ソフトウェア工学特論	2
組込みシステム設計特論	2
制御工学特論	2
モデリング特論	2
基本ソフトウェア特論	2
人間工学特論	2
ビジネス情報システム特論	2
ロジスティクス特論	2
品質管理特論	2
オペレーションズ・リサーチ特論	2
マーケティング特論	2
人的資源管理特論	2
環境マネジメント特論	2
金融工学特論	2
デジタル信号処理特論	2
通信ネットワーク特論	2
ネットワーク情報検索特論	2
情報セキュリティ特論	2
通信工学特論	2
ネットワークコンピューティング特論	2
符号理論特論	2
通信ネットワーク応用特論	2

K. 海洋学研究科

海洋学専攻・修士課程

授業科目	単位数
総合海洋学特論	2
沿岸環境特論	2
気候変動特論	2
海洋生態学特論	2
海洋総合管理特論	2
水産学特論	2
海洋資源特論	2
海洋科学技術研究特論	2
環境生命科学研究特論	1
アカデミックイングリッシュ	2
海洋学特論A	1
海洋学特論B	1
海洋学特論C	1
海洋学特論D	1
海洋人類学特論	2
海洋ガバナンス特論	2
海洋資源管理特論	2
環境・開発経済特論	2
ロジスティクス特論	2
沿岸域管理特論	2
水産社会特論	2

分子細胞生物学特論	2
海洋生物化学特論	2
水族生理学特論	2
浮遊生物学特論	2
底生生物学特論	2
海棲哺乳類学特論	2
魚類学特論	2
資源生物学特論	2
水産増殖学特論	2
水産食品科学特論	2
大気・海洋物理学特論	2
地球化学特論	2
低次生産環境特論	2
固体地球物理学特論	2
海底資源開発工学特論	2
海洋エネルギー工学特論	2
沿岸域工学特論	2
海洋学研究ゼミナール1	2
海洋学研究ゼミナール2	2
海洋学研究ゼミナール3	2
海洋学研究ゼミナール4	2

L. 医学研究科

医科学専攻・修士課程

先端医科学専攻・博士課程

授業科目	単位数	授業科目	単位数
医科学研究ゼミナール1	4	最新医学研究各論	1
医科学研究ゼミナール2	4	医学研究と倫理	1
医科学研究序論特講	2	データ解析論	1
分子細胞生物学特講	2	研究プランニング論	1
分子細胞生物学特講実習	2	研究ゼミナール1	2
免疫学特講	2	研究ゼミナール2	2
免疫学特講実習	2	研究ゼミナール3	2
医学情報学特講	2	医学教育学1	2
医学情報学特講実習	2	医学教育学演習1	2
社会医学特講	2	医学教育学2	2
社会医学特講実習	2	医学教育学演習2	2
国際医療学特講	2	ゲノム医学1	2
国際医療学特講実習	2	ゲノム医学実習1	2
人体構造機能学特講	2	ゲノム医学2	2
人体構造機能学特講実習	2	ゲノム医学実習2	2
病理病態学特講	2	分子細胞医学1	2
病理病態学特講実習	2	分子細胞医学実習1	2
感染症学特講	2	分子細胞医学2	2
感染症学特講実習	2	分子細胞医学実習2	2
臨床医学特講	2	発生工学1	2
臨床医学特講実習	2	発生工学実習1	2
分子生体制御学特講	2	発生工学2	2
分子生体制御学特講実習	2	発生工学実習2	2
精神保健学特講	2	人体構造機能学1	2
精神保健学特講実習	2	人体構造機能学実習1	2
生物統計学	1	人体構造機能学2	2
バイオインフォマティクス・リテラシーの基礎	1	人体構造機能学実習2	2
臨床試験の基礎	1	免疫学1	2
医学研究のためのデータ管理	1	免疫学実習1	2
放射線物理学特論	2	免疫学2	2
保健物理防護学	2	免疫学実習2	2
放射線診断物理学	2	感染防御学1	2

放射線治療物理学	2	感染防御学実習1	2
放射線計測学	2	感染防御学2	2
放射線診断画像学	2	感染防御学実習2	2
放射線生物腫瘍学	2	診断学1	2
放射線関連法規・医療倫理	2	診断学実習1	2
放射線治療実習	2	診断学2	2
		診断学実習2	2
		治療学1	2
		治療学実習1	2
		治療学2	2
		治療学実習2	2
		再生医学1	2
		再生医学実習1	2
		再生医学2	2
		再生医学実習2	2
		薬物代謝学	2
		薬と医療機器の開発	2
		国際地域・環境学1	2
		国際地域・環境学実習1	2
		国際地域・環境学2	2
		国際地域・環境学実習2	2
		実践科学英語	1
		実践科学英語演習	1
		老年医学総論1	2
		老年医学総論2	2
		栄養学	2
		栄養学実習	2
		運動生理学	2
		運動生理学実習	2
		人間ドック・健康ドック学	2
		健康ドック面談法実習	2
		比較文化論	2
		臨床腫瘍学1	2
		臨床腫瘍学実習1	2
		臨床腫瘍学2	2
		臨床腫瘍学実習2	2
		臨床薬理学特講	2
		臨床薬理学特講実習	2
		放射線治療学	2
		放射線治療学実習	2
		がん薬物療法学	2
		がん薬物療法学実習	2
		緩和ケア学	2
		緩和ケア学実習	2
		内視鏡治療学	2
		内視鏡治療学実習	2
		医療統計学	1
		バイオインフォマティクス・リテラシー	1
		臨床試験方法論	1
		医学研究のためのデータマネジメント	1

M. 健康科学研究科
看護学専攻・修士課程

授業科目	単位数
看護理論	2
研究方法概論	2
臨床薬理学特論	2

フィジカルアセスメント特論	2
臨床病態生理学特論	2
看護研究1	2
看護研究2	2
看護教育論	2
看護管理論	2
コンサルテーション論	2
看護倫理	2
家族看護学特論	2
家族健康論1	2
家族健康論2	2
家族援助論1	2
家族援助論2	2
家族援助特論	2
家族看護学演習	2
家族看護学実習1	2
家族看護学実習2	6
家族看護学実習3	2
遺伝看護学特論	2
遺伝看護援助特論	2
遺伝基礎科学1	2
遺伝基礎科学2	2
遺伝看護援助論A	2
遺伝看護援助論B	2
遺伝カウンセリング特論	2
遺伝看護学実習1	2
遺伝看護学実習2	4
遺伝看護学実習3	4
クリティカルケア看護学特論	2
クリティカルケア看護援助論A	2
クリティカルケア看護援助論B	2
クリティカルケア看護援助演習A	2
クリティカルケア看護援助演習B	2
クリティカルケア看護学アセスメント・援助論	2
クリティカル緩和ケア論	2
クリティカルケア看護学実習1	3
クリティカルケア看護学実習2	3
クリティカルケア看護学実習3	4
がん病態生理学特論	2
がん看護学特論	2
がん看護援助論	2
がん看護学演習1	2
がん看護学演習2	2
がん緩和ケア論	2
がん緩和ケア演習	2
がん看護学実習1	2
がん看護学実習2	4
がん看護学実習3	4
精神看護学特論	2
国際看護論	2
質的研究方法論	2
量的研究方法論	2
研究ゼミナール1	2
研究ゼミナール2	2
研究ゼミナール3	2
基礎看護学特論1	2
基礎看護学特論2	2

生命科学特論	2
生命科学演習	2
老年看護学特論	2
在宅看護論特論	2
母性看護学特論	2
小児看護学特論	2
看護管理学特論	2
産業・地域保健看護学特論1	2
産業・地域保健看護学特論2	2
保健科学特論	2
健康環境学特論	2
国際看護演習	2
遺伝生命科学	2
感染看護学	2

保健福祉学専攻・修士課程

授業科目	単位数
保健福祉研究概論1	2
保健福祉研究概論2	2
量的研究方法論	2
質的研究方法論	2
ソーシャルワーク特論	2
保健医療ソーシャルワーク特論	2
家族支援特論	2
障害者心理学特論	2
精神保健福祉特論	2
高齢者福祉特論	2
介護福祉特論	2
社会老年学特論	2
生命倫理・死生学特論	2
地域福祉特論	2
コミュニティ・ソーシャルワーク特論	2
子ども家庭福祉特論	2
公的扶助特論	2
貧困研究特論	2
保健福祉研究ゼミナール1	2
保健福祉研究ゼミナール2	2
保健福祉研究ゼミナール3	4
フィールドワーク実習1	2
フィールドワーク実習2	2
フィールドワーク実習3	2

N. 農学研究科

農学専攻・修士課程

授業科目	単位数
農学特別研究1	2
農学特別研究2	2
農学特別研究3	2
農学特別研究4	2
農学演習1	2
農学演習2	2
応用農学演習1	2
応用農学演習2	2
ゲノム科学特論1	2
ゲノム科学特論2	2
植物保護学特論1	2
植物保護学特論2	2

動物生産環境学特論1	2
動物生産環境学特論2	2
熱帯農学特論	2
農薬学特論	2
植物制御学特論	2
動物生理学特論	2
農学特別講義A	2
農学特別講義B	2
園芸学特論1	2
園芸学特論2	2
植物遺伝育種学特論1	2
植物遺伝育種学特論2	2
資源作物学特論1	2
資源作物学特論2	2
動物生体機能調節学特論1	2
動物生体機能調節学特論2	2
動物遺伝繁殖学特論1	2
動物遺伝繁殖学特論2	2
家畜飼養管理学特論1	2
家畜飼養管理学特論2	2
植物栄養学特論	2
動物習性学特論	2
動物疾病学特論	2
生化学特論1	2
生化学特論2	2
食品機能化学特論1	2
食品機能化学特論2	2
有機機能分子化学特論1	2
有機機能分子化学特論2	2
プロテオミクス特論1	2
プロテオミクス特論2	2
食品衛生学特論	2
分子動態学特論	2
微生物工学特論	2

○. 生物学研究科

生物学専攻・修士課程

授業科目	単位数
総合生物学特論	2
科学英語特論	2
脊椎動物学特論A	2
脊椎動物学特論B	2
脊椎動物学特論C	2
無脊椎動物学特論	2
数理生物学特論	2
大気海洋環境学特論	2
動物生理学特論	2
栄養生理学特論	2
組織学特論	2
環境生理学特論	2
生殖生物学特論	2
動物生態学特論	2
保全生態学特論	2
動物地理学特論	2
多様性生物学特論	2
生態系モデリング学特論	2
生物学研究ゼミナール1	2

生物学研究ゼミナール2	2
生物学研究ゼミナール3	2
生物学研究ゼミナール4	2

別表4 第16条の2に規定する大学院

大 学 院	備 考
モンクット王ラカバン工科大学大学院	遠隔授業による履修(第13条の2)
麻布大学大学院 神奈川大学大学院 神奈川工科大学大学院 関東学院大学大学院 北里大学大学院 湘南工科大学大学院 専修大学大学院 鶴見大学大学院 桐蔭横浜大学大学院 東京工芸大学大学院 日本大学大学院 日本女子大学大学院 横浜市立大学大学院 横浜国立大学大学院 東京工業大学大学院 明治大学大学院 フェリス女学院大学大学院 情報セキュリティ大学院大学 東京都市大学大学院 総合研究大学院大学 相模女子大学大学院 松蔭大学大学院 青山学院大学大学院 文教大学大学院 神奈川歯科大学大学院 鎌倉女子大学大学院 聖マリアンナ医科大学大学院 昭和大学大学院 女子美術大学大学院	神奈川県内大学間における大学院学術交流協定に基づく学生に限る
青山学院大学大学院 中央大学大学院 上智大学大学院 明治大学大学院 立教大学大学院 専修大学大学院 國學院大學大学院 国土館大学大学院 駒澤大学大学院 東洋大学大学院	11大学大学院特別聴講生(史学専攻)に関する協定に基づく学生に限る
静岡大学大学院 静岡県立大学大学院	静岡大学, 静岡県立大学との単位互換に関する協定に基づく学生に限る
海外の大学院	本学の海外派遣留学制度に基づく大学院に限る

(別表5)

東海大学大学院 学費一覧表 (令和2年度)

単位:円

	学年	総合 理工学 研究科	地球環 境科学 研究科	生物 科学 研究科	文学研究科		政治学 研究科	経済学 研究科
					コミュニケーショ ン学専攻	コミュニケーショ ン学専攻以 外		
入学金	1年	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
授業料	1年	735,000	735,000	735,000	650,000	650,000	650,000	650,000
	2年	735,000	735,000	735,000	650,000	650,000	650,000	650,000
	3年	735,000	735,000	735,000	650,000	650,000	650,000	650,000
	4年							
教育運営費	1年	211,000	211,000	211,000	168,000	159,000	168,000	168,000
	2年	211,000	211,000	211,000	168,000	159,000	168,000	168,000
	3年	211,000	211,000	211,000	168,000	159,000	168,000	168,000
	4年							
実習実技費	1年							
	2年							
	3年							
	4年							
施設設備費	1年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	2年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	3年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	4年							
合計	1年	1,446,000	1,446,000	1,446,000	1,318,000	1,309,000	1,318,000	1,318,000
	2年	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,018,000	1,009,000	1,018,000	1,018,000
	3年	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,018,000	1,009,000	1,018,000	1,018,000
	4年							

単位:円

	学年	法学 研究科	人間 環境学 研究科	芸術学研究科		体育学 研究科	理学研究科		工学 研究科
				音響芸術 専攻	造型芸術 専攻		数理科学 専攻	数理科学 専攻以外	
入学金	1年	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
授業料	1年	650,000	650,000	735,000	735,000	701,000	735,000	735,000	735,000
	2年	650,000	650,000	735,000	735,000	701,000	735,000	735,000	735,000
	3年	650,000							
	4年								
教育運営費	1年	159,000	168,000	233,000	233,000	168,000	193,000	211,000	211,000
	2年	159,000	168,000	233,000	233,000	168,000	193,000	211,000	211,000
	3年	159,000							
	4年								
実習実技費	1年			50,000					
	2年			50,000					
	3年								
	4年								
施設設備費	1年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	2年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	3年	200,000							
	4年								
合計	1年	1,309,000	1,318,000	1,518,000	1,468,000	1,369,000	1,428,000	1,446,000	1,446,000
	2年	1,009,000	1,018,000	1,218,000	1,168,000	1,069,000	1,128,000	1,146,000	1,146,000
	3年	1,009,000							
	4年								

単位:円

	学年	情報 通信学 研究科	海洋学 研究科	医学研究科		健康 科学 研究科	農学 研究科	生物学 研究科
				医科学専 攻	先端医科 学専攻			
入学金	1年	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	250,000	250,000
授業料	1年	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000
	2年	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	
	3年				735,000			
	4年				735,000			
教育運営費	1年	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000
	2年	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	
	3年				211,000			
	4年				211,000			
実習実技費	1年							
	2年							
	3年							
	4年							
施設設備費	1年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	2年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	
	3年				200,000			
	4年				200,000			
合計	1年	1,446,000	1,446,000	1,446,000	1,446,000	1,446,000	1,396,000	1,396,000
	2年	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,146,000	
	3年				1,146,000			
	4年				1,146,000			

○東海大学大学院研究科教授会規程

(制定 昭和38年4月1日)

改訂 昭和42年4月1日 昭和43年4月1日
昭和44年4月1日 昭和46年4月1日
2008年4月1日 2014年6月1日
2015年4月1日

第1条 本学大学院の各研究科に研究科教授会（以下「本教授会」という。）を置く。

第2条 本教授会は、その研究科の基礎となる学部の学部長及び研究科専攻主任並びに研究指導資格を有する教員をもつてこれを組織する。

2 研究指導補助資格を有する教員も教授会構成員とすることができる。

第3条 本教授会は、研究科長が招集してその議長となる。ただし、研究科長が必要と認められた場合は、議長を他の本教授会構成員に代行させることができる。

第4条 本教授会に若干名の幹事を置くことができる。

第5条 本教授会は、全構成員の3分の2以上の出席がなければ、これを開くことができない。

第6条 本教授会は、次の事項について審議する。

- (1) 学生の研究及び教育，その他学事に関する事項
- (2) 学生の指導に関する事項
- (3) 学生の入学，課程の修了，学位の授与に関する事項
- (4) 学籍異動に関する事項
- (5) 学位論文審査に関する事項
- (6) 教員の資格審査に関する事項
- (7) 大学院運営委員長及び大学院研究科長の諮問に関する事項

2 次の事項については、学長が決定を行うにあたって教授会が意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学，課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前項に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

第7条 研究科長は、必要に応じて、本教授会に関係教職員の出席を求めることができる。

第8条 本教授会が審議し、決定した事項は、学長の承認を得て、これを施行する。

第9条 研究科長は、必要に応じて、主任教授会その他の委員会を開くことができる。

付 則

この規程は、昭和38年4月1日から施行する。

付 則 (2015年4月1日)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類
生物学研究科生物学専攻（修士課程）

【本文目次】

- ① 設置の趣旨及び必要性…p. 2
- ② 修士課程までの構想か，又は，博士課程の設置を目指した構想か。…p. 3
- ③ 研究科，専攻等の名称及び学位の名称…p. 3
- ④ 教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野）の説明も含む）…p. 4
- ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色…p. 5
- ⑥ 教育方法，履修指導，研究指導の方法及び修了要件…p. 6
- ⑦ 施設・設備等の整備計画…p. 8
- ⑧ 基礎となる学部との関係…p. 10
- ⑨ 入学者選抜の概要…p. 10
- ⑩ 取得可能な資格…p. 12
- ⑪ 管理運営…p. 12
- ⑫ 自己点検・評価…p. 13
- ⑬ 情報の公表…p. 14
- ⑭ 教育内容等の改善のための組織的な研修等…p. 18

① 設置の趣旨及び必要性

生物学は、生物の持つ共通性と多様性に関する探求を通して、生命体としての生物の理解と、生物と地球環境の関係解明を学術的目標の一つとしている。一方、生物学には、人類の文化・社会活動において生物の持つ資源的及び精神的価値を解明し、その活用も求められてきた。特に、20 世紀終盤から今世紀にかけては、分子生物学の進展に伴って遺伝子技術を始めとする生物学とその学際領域の果たす役割が急速に重要性を増し、さらには近年、温暖化による気候変動に起因した生息環境の変化、環境破壊に伴う生物多様性の喪失、世界人口の増加に伴う食料需給の逼迫、生物資源を巡る国際間競争といった問題が顕在化し、これらの地球規模での課題に対して持続可能な社会の構築も求められている。

こうした中、本学においては2012年度に生物学部を設置し、北海道の自然を生かしたフィールドワークを重視した生物学の教育・研究を展開してきた。この間、設備投資に加えてラボワークの充実を図ってきたこともあり、完成年度を迎えた2015年度以降、学部生には生物学に対する研究志向が高まっている。そこで、学部での教育・研究を発展させ、学生の志向に応えるとともに、より高度な知識・技能と課題解決能力を身につけた専門性の高い人材を養成するため、大学院修士課程を設置する。

(1) 教育上の理念・目的

1) 背景

上述のように、20 世紀終盤から今世紀にかけては、分子生物学の進展に伴って遺伝子技術を始めとする生物学とその学際領域の果たす役割が急速に重要性を増しており、こうした分野の知識・技術を有する人材の育成が課題となっている。また、温暖化による気候変動に起因した生息環境の変化、環境破壊に伴う生物多様性の喪失、世界人口の増加に伴う食料需給の逼迫、生物資源を巡る国際間競争といった地球規模での問題を解決に導くことのできるコーディネート能力を持つ人材の育成が強く求められている。

2) 理念・目的

本学の建学の精神や人材育成の理念に基づき、人類が培ってきた文化・文明と自然・地球環境を一体とする文理融合的な視野を有しながら、生物多様性の保全や生物資源の持続可能な利用を目指すとともに、生命・自然に関する幅広い見識を基礎として専門分野における高度な知識と技術を活用できる人材育成が目的である。

(2) どのような人材を育成するのか

陸圏と水圏の多様な生物種を対象に、学部において生物学の対象となる分子から生態系に至る全ての階層をバランス良く学修した基礎を発展させる。生物、特に動物種に関して DNA を用いた分子系統学的解析を含む生物多様性と生理学的機構の理解を基盤とし、生物資源の開発やその持続的利用のために習得した知識と技術を活用できる人材を養成する。具体的には、生物の生態モデルの構築、分子系統地理学的解析、水産増養殖等に関する知識・技術や研究活動の経験をもとに、生物多様性の保全や生物資源の維持・開発に主体的に取り組める人材を育成する。

こうした人材育成に際しては、生物学の現在や技術者・研究者への道筋や科学英語

に関する学び、動物学を中心とした分類体系とそれを取り巻く環境学、生命現象の数学的アプローチ法に関する学び、個々の動物の生理学的機構や繁殖に関する学び、生態学的な視点から動物群の分布や動態に関する学びにより得られた知識を、研究ゼミナールによる応用的・発展的教育を通して実行力・実践力へと昇華させることにより、生物多様性や生物資源の保全・利用に関する課題に対して知識・技術を応用できる能力を涵養する。また、データの数値的処理や英語の使用を学修の各場面において展開することにより、ビッグデータの活用やグローバルな視点の習得も併せて行う。

以上の教育を通じて、修了後には生物系・環境系・農業系・水産系などの国家・地方公務員や、農業・水産研究所など国公立試験研究機関の研究員、中学校・高等学校の理科教員として活躍できる人材を育成する。また、生物学に関する幅広い専門知識を生かし、環境調査会社のコンサルタントや食品・製薬関連企業の技術職・研究職となる人材を育成する。

② 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か。

生物学研究科生物学専攻の設置は、修士課程までの構想である。博士課程については、既設の本学大学院地球環境科学研究科及び生物科学研究科への進学を想定している。

③ 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

(1) 名称と設置の趣旨、教育課程との関係

基礎となる生物学部が、学部名称として日本で唯一の「生物学部」であることから、その学部名称を踏襲し、「生物学研究科」とする。また、生物学は生命科学から生態科学に至るまで非常に幅広い分野を含んでいるものの、それぞれが密接に関連した学問体系を構築していることから、1専攻体制の「生物学専攻」とする。さらに、生物学部の学位が学士(理学)であることから、その連続性を考慮し、学位を「修士(理学)、英訳名称：Master of Science」とする。

研究科名称 : 生物学研究科

専攻名称 : 生物学専攻

学位名称 : 修士(理学)

(2) 専攻名、学位の英訳名称

専攻名、学位の英訳名称を次のように定める。

研究科名称 : Graduate School of Biology

専攻名称 : Course of Biology

学位名称 : Master of Science

(3) 設置場所、開設予定時期

設置場所 : 東海大学札幌校舎

開設予定時期 : 2020年4月

課程 : 修士課程
修業年限 : 2年
入学定員 : 8名 (収容定員 16名)

④ 教育課程の編成の考え方及び特色 (教育研究の柱となる領域 (分野) の説明も含む)

(1) 教育課程の編成の考え方と特色

生物学研究科生物学専攻の教育研究の柱となる領域は、陸上及び海洋生物の分類学、生態学、行動学、遺伝学、数理生物学、生理学、栄養学及び繁殖学であり、これを踏まえ、生物学専攻では、生物学に関する専門的知識、特に生物多様性や生物資源の保全・開発に関する課題に活用できる知識の修得に主眼を置いてカリキュラムを編成することとした。その特色は、以下のとおりである。

- 1) 生物学の現在や技術者・研究者への道筋、科学英語などを学ぶ「共通科目群」、及び動物学を中心とした分類体系やそれを取り巻く環境、生命現象の数学的アプローチ法を学ぶ「基礎科目群」を基盤的に学修し、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を養う。
- 2) 個々の動物の生理学的機構や繁殖を扱う「生命科学科目群」、及び生態学的視点から動物群の分布や動態を扱う「生態科学科目群」を発展的に学修し、生物学に関する専門知識と応用能力を涵養する。
- 3) 「研究ゼミナール」の学修により、生物学に関する諸問題を客観的に捉え、その解決に向けた分析や提案ができる能力を育む。

(2) 講義科目の編成と特色

1) 共通科目群

本科目群には、必修科目の「総合生物学特論」と「科学英語特論」を置く。これら2科目の学修を通して、生物学を総合的に理解するとともに、生物学を生理学・生態学の両側面から探究する道筋や複数分野の専門知識に基づいて生物現象を俯瞰的に捉える能力を涵養する。加えて、数学的手法やコンピュータによる数値解析・考察を行う能力、英語による研究発表や情報交換を行う能力を養い、ビッグデータの活用やグローバルな視点の習得につなげる。

2) 基礎科目群

生物学を幅広く理解するためには、分類体系に沿った生物の特徴やそれを取り巻く環境、生命現象を定量的かつ包括的に捉えるための数学的アプローチの理解が必要である。このため、本科目群には、分類学、系統学、進化学、生態学及び行動学などを動物群ごとに学修する「脊椎動物学特論A」(哺乳類)、「脊椎動物学特論B」(鳥・爬虫・両棲類)、「脊椎動物学特論C」(魚類)及び「無脊椎動物学特論」、環境中の物質循環と生物の関係を学ぶ「大気海洋環境学特論」、様々な生物現象に対応した数理モデルを扱う「数理生物学特論」を配置している。

3) 生命科学科目群

生命科学は、生命現象を個体、細胞、分子及び遺伝子の各レベルにおいて理解

することを目的としており、生理学・生化学といった基礎的分野から医学・工学・農学に至る応用的分野まで幅広い範囲に跨がっている。このため、本科目群では、基礎的分野の素養を身に付けることにより、応用的分野への展開を図る能力を涵養するとともに、体系的なコースワークを充実させるため、動物の主要な臓器の生理的役割を学ぶ「動物生理学特論」、消化・吸収・代謝機構を学ぶ「栄養生理学特論」、細胞や組織の機能を学ぶ「組織学特論」、生体調節系の生理学的応答や病態生理を学ぶ「環境生理学特論」及び配偶子形成から初期発生過程を学ぶ「生殖生物学特論」の5科目を配置している。

4) 生態科学科目群

生態科学は、生命現象を個体、個体群、群集及び生態系の各レベルにおいて理解することを目的としており、生態学をベースに、工学・農学・環境学から社会科学に至る守備範囲の広い学問分野で構成されている。このため、本科目群では、生態学を中心に基礎的素養を身に付けることにより、応用的分野への展開を図る能力を涵養するとともに、体系的なコースワークを充実させるため、個体群動態や行動生態学を学ぶ「動物生態学特論」、生物と環境の相互作用を学ぶ「保全生態学特論」、近縁種間や種内の地理的分布の決定過程を学ぶ「動物地理学特論」、遺伝学的側面から種内及び種の多様性を学ぶ「多様性生物学特論」及び生態系や循環システムのモデリング手法を学ぶ「生態系モデリング学特論」の5科目を配置している。

5) 研究ゼミナール

個々の学生の研究指導教員は、入学時の学生の申告のもとに、生物学研究科会議において適任者を決定する。個々の学生は上記の講義科目を受講する一方、研究指導教員のもとで「生物学研究ゼミナール1、2、3、4」を入学時より課程修了まで一貫して履修し、修士論文の完成を目指す。適宜指導をサポートする教員を配置することにより、複数教員による研究指導体制の構築と高い学位水準の確保を図り、狭い学問分野に偏ることなく生物学全体を俯瞰できる能力を涵養する。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員配置

生物学研究科生物学専攻の専任教員は、陸域から海域に至る様々な生物を対象に、生命科学から生態科学に及ぶ生物学を横断的に教授するため、生物学部の専任教員である教授5名、准教授3名、講師3名、東海大学札幌教養教育センターの専任教員である教授2名で構成され、すべての教員が大学院研究指導教員資格を満たしている。

なお、「学校法人東海大学教職員定年規程」(資料1)に示す通り、本学の教授の定年は65歳、准教授及び講師の定年は62歳であり、生物学研究科生物学専攻に就任予定の専任教員は、全員完成年度時点で定年規程の範囲内となっている。

- (2) 教員の研究対象分野、その分野に対応する中核的な科目や必修科目への適切な教員配置について

生物学研究科生物学専攻の必修科目である「総合生物学特論」は、教授3名、准教授2名を配置し、生物学全体にわたる幅広い教育と各分野の有機的連携を可能としている。また、「科学英語特論」は、数理生物学分野の外国籍教員の教授1名を配置し、英語での発表・質疑応答能力を養成するだけでなく、英語で生物学を思考する能力の涵養にも配慮している。さらに、「生物学研究ゼミナール1、2、3、4」は、生命科学分野及び生態科学分野においてそれぞれ陸域及び海域の生物を研究対象とする教員を配置することにより、生物学の幅広い学問領域をカバーできるようになっている。

⑥ 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

- (1) 学期の区分

2学期制を採用し、前期を春学期、後期を秋学期と称する。

- (2) 標準修業年限

修士課程の標準修業年限を2年とする。

- (3) 修了要件

共通学科目群より「総合生物学特論」と「科学英語特論」の4単位、および「生物学研究ゼミナール1」～「生物学研究ゼミナール4」の8単位を含む32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

- (4) 授業の実施方法

生物学研究科生物学専攻で開講される科目は、「④ 教育課程の編成の考え方及び特色」で記したように、教育研究の2本柱である「生命科学科目群」と「生態科学科目群」に加えて、これらを有機的に結びつける基礎的な科目群である「共通科目群」と「基礎科目群」に整理されている。これらの科目群は、すべて専任教員が担当する。また、これら科目群に含まれる18科目中9科目はオムニバス形式で開講する。これは、1つの専門分野においても複数の教員が教授することにより、当該分野を複眼的な視点で捉える能力を育むためである。

生物学研究科生物学専攻の各講義科目では、従来行われてきた知識偏重型の教育ではなく、問題抽出能力や課題解決能力、論理的考察能力、コミュニケーション能力といった総合的な知の運用能力の涵養を目指している。このため、複数分野の知識を体系化し、問題解決の方法を学ぶ「共通科目群」の「総合生物学特論」を1年次春学期に必修とすることで、この考え方の浸透を図る。

- (5) 履修指導体制

学生に対する生物学研究科生物学専攻全体の履修指導は、毎学期はじめに行われる「大学院ガイダンス」における「履修指導」の時間を利用して、専攻長及び教務委員を中心に行う。同時に、研究指導教員が当該学生に対して適宜指導にあたる。

(6) 履修モデル

すでに述べたように、生物学研究科生物学専攻は基盤的科目の「共通科目群」と「基礎科目群」を土台に、発展的科目の「生命科学科目群」と「生態科学科目群」を配置することにより、生命及び生態科学の各分野で活躍する研究者・技術者のほか、両分野の知識を幅広く必要とする技術系公務員・教員を養成する。また、陸上及び海洋生物を専門的に扱う研究者・技術者の育成も図る。このような見地から、個々の学生の専門分野に重点を置きつつ、各科目が扱う生物の特徴を考慮し、修了後の進路を見据えた最小限の履修単位における履修モデルについて、修了までのスケジュール表とともに提示する（資料2）。

なお、この履修モデルはあくまで標準的なものであって、学生は個人の関心や進路に応じて個別的な履修モデルを作ることになる。

1) 生命科学科目群を中心に履修するモデル (1a)

生命科学分野を専門とする国公立試験研究機関や食品・製薬関連企業の研究職・技術職を想定した履修モデルである。生物学における生命科学の位置付けや学問体系を理解するとともに、生命科学が社会に果たす役割や生命科学が人間社会にもたらす功罪を考察できる専門職の養成を目指している。

2) 生態科学科目群を中心に履修するモデル (1b)

生態科学分野を専門とする国公立試験研究機関の研究職や環境調査会社のコンサルタントを想定した履修モデルである。生物学における生態科学の位置付けや学問体系を理解するとともに、生態科学が社会に果たす役割や生態科学が人間社会にもたらす功罪を考察できる専門職の養成を目指している。

3) 生命科学・生態科学科目群の両者を履修するモデル (1c)

生命及び生態科学の両知識を幅広く必要とする生物・環境系の公務員、中学校・高等学校の理科教員を想定した履修モデルである。生命及び生態科学の関係と相互の必要性を理解するとともに、生物学が社会に果たす役割や生物学が人間社会にもたらす功罪を考察できる専門職の養成を目指している。

4) 陸上生物を中心に履修するモデル (2a)

陸上生物に関する専門知識を必要とする農業系の公務員、陸上生物を対象とした国公立試験研究機関や企業の技術職・研究職を想定した履修モデルである。陸上生物の特性を理解するとともに、陸上生物の役割と人間活動との関係や陸上生物の保全や利活用に向けた方策を提案できる専門職の養成を目指している。

5) 海洋生物を中心に履修するモデル (2b)

海洋生物に関する専門知識を必要とする水産系の公務員、海洋生物を対象とした国公立試験研究機関や企業の技術職・研究職を想定した履修モデルである。海洋生物の特性を理解するとともに、海洋生物の役割と人間活動との関係や海洋生物の保全や利活用に向けた方策を提案できる専門職の養成を目指している。

(7) 研究指導体制

生物学研究科生物学専攻は、先述のように、生命及び生態科学科目群の履修を通して生物学に関する各専門分野の研究を推し進めながら、共通及び基礎科目群を履修することにより生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を養うことを最大の特色としている。学生は、入学時より修士課程修了時まで一貫して一人の研究指導教員のもとで修士論文の指導を受けるが、適宜指導をサポートする補助教員を設定し、中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」に即して、研究室内における一教員に依存した教育から、学位課程を担当する複数教員による組織的な教育体制を目指す。

(8) 学位論文の審査

学位論文が提出された場合、指導教員を主査、指導のサポートにあたった教員を副査として論文の第1次審査を行う。この第1次審査において予備的な合否判定を行った上で、専攻の専任教員全員により公開の場で第2次審査（口頭試問）を実施し、生物学研究科生物学専攻としての合否判定を行う。この合否判定の結果を生物学研究科教授会に報告し、同教授会の審議に付す。さらには、大学院の全研究科全専攻を対象とする大学院運営委員会での審議に付し、正式な合否が決定される。このような3段階に及ぶ審査と専攻による第2次審査の公開によって学位論文の厳正性と透明性を確保する。

(9) 研究の倫理審査体制

生物学研究科生物学専攻は、キャンパス所有の自然林や生物学部付属の臨海実験所を活用したフィールドワークから、実験室によるラボワーク、コンピュータによる数値解析、人を対象とした実験、動物実験及び遺伝子組換え実験に至るまで様々な研究活動に取り組むことから、多様な研究に対する倫理審査体制が整っていることが重要となる。東海大学には、「東海大学教育および研究に携わる者の行動指針」が設けられており、「学問の自由と学術研究の重要性に鑑み、社会に対する重い責任と自己の行動に対する厳しい倫理規範」が示されている（資料3）。この規範から逸脱した場合には、法令や本学規定に法って審査される。また、動物実験に関しては、「東海大学動物実験指針」がある（資料4）。したがって、研究の倫理審査体制には問題がないものと判断する。

⑦ 施設・設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

生物学研究科生物学専攻は、札幌市南区に所在する札幌校舎に設置される。札幌校舎は、市内中心部から南方約10kmの場所に位置し、観光名所として名高い藻岩山南麓の小高い丘の上に立地した生物学の勉学に相応しい環境にある。札幌校舎では生物学部のほか国際文化学部が教育・研究活動を行っており、校舎内には、既に運動施設（体育館、野球場、サッカー場、テニスコートなど）や、食堂、売店、学習室などの学生厚生施設が十分に整えられている。校地、運動場については、新たに

整備を行う必要はない。

(2) 校舎等施設の整備計画

生物学研究科生物学専攻は、ラボワーク・フィールドワークを含めた様々な研究施設・場所を利用する。生物学研究科生物学専攻の基礎となる生物学部は、学科毎に独自の実験・実習室を有しており、現状の施設・設備で十分必要性を満たしている。専任教員の研究室も全員確保されている。大学院生については16名分の学習スペースを用意しており(資料5)、校舎等施設の新たな整備計画はない。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の整備について

生物学研究科生物学専攻の学生が利用する札幌図書館は、生物学に関する蔵書を約15,000冊所蔵しており、生物学研究科生物学専攻設置後も、引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書を幅広く収集し、充実させる予定である。

2) 学術雑誌の整備について

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの2形態を整備する。「学術雑誌一覧」(資料6)の通り、生物学研究科生物学専攻に関して多数の学術雑誌を所蔵しており、教育研究に支障はない。

3) オンライン・文献データベース及びその他の電子媒体の整備について

生物学研究科生物学専攻学生が利用可能であるオンライン・文献データベースは、既に整備されており、学内の図書館を始め各施設、研究室、一部は自宅からも24時間検索を実現している。

4) 図書館の施設整備について

札幌図書館は札幌キャンパスの本館3階に位置し、図書館活動を展開している。授業開講時には20時まで開館し利用者に対応している。閲覧室、閲覧席とも既存の施設を活用、OPAC用端末、外部データベース及びレポート作成にも使えるパソコン、閲覧室に設置、無線LANのポートもあり、図書館機能を果たしていると考えている。

5) 他大学図書館との協力について

東海大学附属図書館の蔵書はすべて電算化され、所蔵情報は学生の自宅からも検索が可能である。附属図書館間の図書の相互活用は活発で、郵送で取寄せて、学生等利用者に自館所蔵図書と同じく館外貸出に供している。

同様に他大学との連携は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。また、北海道内では北海道地区大学図書館協議会、北海道地区私立大学図書館協議会にも加盟しており今後も活発な協力活動を展開する計画である。

⑧ 基礎となる学部との関係

本研究科の基礎となる学部は、2012年4月に設置した生物学部（生物学科、海洋生物科学科）である。本研究科の設置により、学部・学科と研究科・専攻との対応関係が明確となり、学部から大学院修士課程へ、さらには既設の大学院博士課程へと、継ぎ目のない一貫した生物学教育体制が実現する。

生物学研究科は、生物学専攻のみの1専攻で構成される。生物学専攻は、生物学部の生物学科と海洋生物科学科の両学科を母体とする。生物学部生物学科及び海洋生物科学科は、それぞれ陸上及び海洋生物の分類学、生態学、行動学、遺伝学、数理生物学、生理学、栄養学及び繁殖学を専任教員の主な研究領域としており、両学科の専任教員が生物学研究科生物学専攻の専任教員として所属する計画になっていることから、継続的な教育研究体制を構築できる。さらに、生物学専攻を修了後、生態科学及び生命科学分野の専門性をさらに高めたい場合は、それぞれ大学院博士課程の地球環境科学研究科及び生物科学研究科への進学が整備されている（資料7）。

⑨ 入学者選抜の概要

(1) 入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

本学の「建学の精神」と、生物学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れる。

求める学生像

生物学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力がある者。

入学者にもとめる力（知識・技能・能力）

専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を有している者。

生物学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの知識と、それをを用いて自らの研究課題を構想する基礎学力がある者。

(2) 入学者の選抜の方法

1) 入学定員並びに出願資格

入学定員は8名とし、国内の大学新卒・既卒の志願者（社会人、留学生含む）を対象とする。出願資格は以下のとおりとする。なお、社会人とは、卒業または修了後の社会経験を有するものであり、下記の出願資格の2)は該当しない。

【出願資格】

学校教育法第102条の規定により、次の項目の一つに該当する者。

- 1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び大学院入学までに卒業見込みの者。
- 2) 大学に3年以上（入学時までに3年または3年6ヶ月の課程を修了見込みの者（注））在学した者で、かつ所定の単位を優れた成績を持って修得したと本大学院が認めた者。ただし、休学期間は在学年数に参入しない。

(注) 東海大学の在学者は第6セメスターまたは第7セメスターとする。

- 3) 学校教育法施行規則第 155 条の規定により、大学を卒業したものと同等以上の学力があると認められる者のうち、次の各号の一つに該当する者。
- ① 学校教育法第 104 条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び大学院入学までに授与される見込みの者。
 - ② 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び大学院入学までに修了見込みの者。
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び大学院入学までに修了見込みの者。
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び大学院入学までに修了見込みの者。
 - ⑤ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府または関係機関の認証を受けた者による評価を受けたものまたはこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び大学院入学までに授与される見込みの者。
 - ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び大学院入学までに修了見込みの者。
 - ⑦ 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）。
 - ⑧ 学校教育法第 102 条第2項の規定により大学院に入学した者（大学院に飛び入学した者）であって、当該者をその後に入学者とする本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者。
 - ⑨ 本大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業したものと同等以上の学力があると認められた者で 22 歳以上の者。

2) 入学時期、入学試験の実施方法、及び審査・試験の概要と判定

入学時期は4月（春学期）と10月（秋学期）の2回とする。入学試験は、4月入学生については、春学期第1期推薦入学試験（7月）、春学期第2期推薦入学試験（2月）、春学期第1期一般入学試験（7月）、春学期第2期一般入学試験（2月）を行う。10月入学については、秋学期推薦入学試験（7月）、秋学期一般入学試験（7月）を行う。

推薦入学試験では、本学からの推薦者を対象とし、生物学に関する勉学・研究を目指す強い意欲と明確な目標をもち、学部・学科が十分に推薦できるに足ると認められた学生を、在学中の成績を審査した上で受け入れる。

一般入学試験では、学力試験として、

- ① 英語（ただし、日本語を母語としない者は日本語も含む場合がある）
- ② 小論文（生物学における知識と論理的思考及び発想力を問う）を行う。

面接試験では、生物学に関する専門知識、研究科で学修・研究を行おうとする意欲、問題意識、将来設計、コミュニケーション能力などを問う。

これらを研究科所属教員で総合的に評価して、入学の可否の予備判定を行い、生物学研究科教授会での審議を経て、本学大学院全研究科が関わる大学院運営委員会において審議し、正式な合否判定を決定する。

⑩ 取得可能な資格

生物学研究科生物学専攻において取得可能な資格（予定）は、中学校教諭専修免許状（理科）及び高等学校教諭専修免許状（理科）である。

これらは国家資格であり、取得にあたっては、修了要件の他、教職関連科目を修得することが必要となる。

なお、現在、教職課程認定を申請中であり、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性がある。

⑪ 管理運営

（1）大学全体での運営

本学には大学院運営委員会が設置されており、大学院の運営に関する基本事項、大学院の各研究科に関する重要事項、学位授与に関する事項等を審議する。生物学研究科の管理運営に関しても、該当する事項について大学院運営委員会において審議され、決定される。大学院運営委員会は原則として月1回開催される。

（2）研究科の運営

生物学研究科長を中心に、生物学研究科の研究指導教員並びに研究指導補助教員を構成員とする生物学研究科教授会が設置されており、学生の教育・研究、学生の指導に関する事項、教員の資格審査に関する事項をはじめとする教学管理・運営上のすべて事項が審議され、大学院運営委員会で決定されるべき事項を除いて、決議される。個別の議案は、研究科教務委員会、研究科評価委員会などの、専門委員会に付託するが、その最終審議と決定は、研究科教授会で行われる。研究科教授会は原則として月1回開催される。

（3）専攻の運営

生物学専攻には専攻長と教務委員を置き、教務委員の補佐のもと、専攻長を議長

として生物学専攻運営会議を設置する。生物学専攻運営会議は、生物学専攻の教育研究体制、学生の教育・研究、学生指導、教員の研究教育の状況など、教学上のあらゆる事項について検討するとともに、生物学研究科教授会、東海大学大学院運営委員会の諸決定を専攻として実施する体制を協議する。専攻運営会議は必要に応じて開催する。

(4) 事務組織

学生の学修・研究、キャンパス生活、並びに就職活動、教員の教育・研究などの支援、及び生物学研究科教授会、各種委員会、入学試験、就職支援、教職員・学生の健康管理などの各種管理運営業務の実施にあたっては、札幌校舎の全研究科・学部を対象に置かれている札幌教学課、札幌事務課、付属図書館札幌図書館、健康推進室が、それぞれの業務を担当する。

⑫ 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて、各種教学改革の提言を行ってきている。

各研究科には、研究科長の諮問機関として、大学院研究科評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。

東海大学で実施している自己点検・評価活動は、大別して(1)機関点検・評価と(2)教員個人の総合的業績評価の2種類に分けることができる。

(1) 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、事業計画書の作成を行っている。

この事業計画書記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価後にヒアリングを行い調整することで、次年度の目標設定につながる取組みを行っている。

(2) 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況についてWebを利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

大学院の研究指導教員については、これらの評価項目に加え、研究内容や研究状況等に基づき、3年に1度、指導教員資格再審査を受けることになっており、一定

の水準に達しなければ、指導教員資格を喪失する。

(3) 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成 29 (2017) 年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和 6 (2024) 年度が予定されている。

このような認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記 1) 及び 2) などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

⑬ 情報の公表

本学は、「学校教育法施行規則」(平成 23 年 4 月 1 日施行)に基づき、以下の通り、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの<大学概要>において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ>大学案内>学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト<大学案内><東海大学について>において、「教育・研究組織」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの<学部・大学院>において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育・研究組織」の名称

トップ>大学案内>東海大学について>教育・研究組織

「学部・学科」の名称

トップ>学部・大学院>学部・学科・専攻・課程のご紹介

「研究科・専攻」の名称

トップ>学部・大学院>大学院のご紹介

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和 59 年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年 1 回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年

報がオフィシャルサイトトップページの<取り組み><教育研究活動>において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの<大学案内><東海大学について>において、「教職員数」として公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの<学部・大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの<研究・産官学連携>において、「研究活動・ライセンス検索（教員研究活動情報の検索）」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教員組織等」

トップ>取り組み>教育研究活動>教育研究年報

「教職員数、教員年齢構成」

トップ>大学案内>東海大学について>教職員数

「教員が有する学位及び業績」

トップ>学部・大学院>学部・学科・専攻・課程のご紹介、大学院のご紹介>各学部・学科（各研究科・専攻）トップ>教員紹介

「教員研究活動情報」

トップ>研究・産官学連携>研究活動・ライセンス検索>教員研究活動情報の検索

- エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの<大学案内><教育研究上の目的及び養成する人材、3つのポリシー>に「アドミッション・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの<大学案内><東海大学について>において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの<キャリア・就職>において、「各種データ」として公表している。

また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ>大学案内>教育研究上の目的及び養成する人材、3つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ>大学案内>東海大学について>学生数

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」

トップ>キャリア・就職>各種データ

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの<学部・学科>及び<大学院>の各学部・研究科のトップページにおいて「シラバス」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部」のシラバス

トップ>学部・大学院>学部・学科・専攻・課程のご紹介>各学部・学科

トップ>シラバス

「大学院」のシラバス

トップ>学部・大学院>大学院のご紹介>各研究科・専攻
トップ>シラバス

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの<学部・大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(学部・学科)」

トップ>学部・大学院>学部・学科・専攻・課程のご紹介>各学部・学科

トップ>カリキュラム

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(研究科・専攻)」

トップ>学部・大学院>大学院のご紹介>各研究科・専攻
トップ>カリキュラム

キ 校地・校舎などの施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各キャンパス」として、その概要をキャンパスごとに公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ>各キャンパス

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの<大学案内>にお

いて、「学部学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」

トップ>大学案内>学部学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの<学生生活>及び<キャリア・就職>において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ>学生生活>教育サポート、学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ>キャリア・就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ>大学案内>組織紹介>健康推進センター

【教育支援センターサイト】<http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】<http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの<大学案内>において、「教育研究上の目的及び養成する人材、3つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの<大学案内>において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの<情報の公表>において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成29年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの<取り組み><教育研究活動>において、「自己点検評価」として掲載している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」

トップ>大学案内>教育研究上の目的及び養成する人材、3つのポリシー
「学則」

トップ>大学案内>学則

「設置届出書及び設置計画履行状況報告書」

トップ>情報の公開

「自己点検評価活動、第三者評価の結果」

トップ>取り組み>教育研究活動>自己点検評価

⑭ 教育内容等の改善のための組織的な研修等

東海大学は、組織的・継続的なFD活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。

教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「FD・SD研修会」を開催している。この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

生物学研究科には、開設後、生物学研究科FD委員会が設置される。この委員会を中心として、生物学研究科の授業改善を行う研究会・研修会を開催すべく、教育支援センターの協力を得ながら準備を進め、教育の質の向上、各教員の教授法開発等に取り組む計画である。

以 上

設置の趣旨等を記載した書類
生物学研究科生物学専攻（修士課程）

【資料目次】

- 資料1 学校法人東海大学教職員定年規程
- 資料2 修了までのスケジュール表・履修モデル
- 資料3 東海大学教育および研究に携わる者の行動指針
- 資料4 東海大学動物実験指針
- 資料5 院生室の見取り図
- 資料6 学術雑誌一覧
- 資料7 基礎となる学部との関係

○学校法人東海大学教職員定年規程

(制定 昭和28年6月1日)

改訂 昭和43年4月1日 昭和63年4月1日
 1991年6月17日 1994年4月1日
 2000年4月1日 2003年4月1日
 2004年4月1日 2006年4月1日
 2007年4月1日 2011年4月1日
 2012年4月1日 2013年4月1日

第1条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職1種・2種	65
			中級職1種・2種	62
			一般職1種	62
		助教諭	一般職2種	60
	2004年4月1日以後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職1種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		1等級～4等級	65
			5等級～7等級	62
			8等級以下	60
	保健		主席保健技術員・副主席保	65

			健技術員・主任保健技術員	
			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は、定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は、「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし、2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認められた者については、第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」に定める定年齢が本規程の定年齢を上回る場合は、「学校法人東海大学非常勤教員規程」・「学校法人東海大学臨時職員規程」により再雇用する。なお、再雇用における条件については、「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は、昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については、別に定める。

付 則 (2013年4月1日)

この規程は、2013年4月1日から施行する。

資料2 修了までのスケジュール表・履修モデル

修了までのスケジュール表

研究指導	入学試験の結果等を踏まえ、指導教員1名を決定する。生物学研究ゼミナールを通じて学生を指導する。		
指導内容	1年次	春学期	担当教員のもと生物学に関する選択したテーマについて基礎的な知識を習得するとともに、研究に必要な論理的思考力や論文執筆のために必要な文章表現力を身につける。このため、関連する文献を調べ、研究テーマの目的や背景を良く理解するとともに、2年間の大まかな研究計画を策定し、それに必要な理論や研究手法を学ぶ。加えて、数学的手法やコンピュータによる数値解析・考察を行う能力、英語による研究発表や情報交換を行う能力を養う。
		秋学期	生物学研究ゼミナール1で選択した研究テーマに沿って既往文献の講読や調査・実験の中間発表を通して討論を行い、専門領域に関する高度な知識の習得と研究計画の妥当性を検討するとともに、見直しを行う。
指導内容	2年次	春学期	生物学研究ゼミナール2までに立案された研究計画をもとに、必要な調査・実験の実施とデータの整理・分析を行う。学生間もしくは教員と学生の間で結果に関して議論を行うことにより、修士論文の作成を進める。また、研究成果の外部への発表等を通して、研究発表能力や論文作成技術を涵養する。
		秋学期	研究計画に沿って進められてきた調査や実験、およびデータの整理結果やそこから得られた考察をもとに、設定した研究テーマに関する修士論文を作成する。
審査方法	共通学科目群より「総合生物学特論」と「科学英語特論」の4単位、および研究ゼミナールより「生物学研究ゼミナール1」～「生物学研究ゼミナール4」の8単位を含む32単位以上を修得するとともに、修士論文を提出し、生物学研究科教授会及び大学院運営委員会の審査に合格すること。		

履修モデル 1a (生命科学科目群を中心に履修)

生命科学分野を専門とする国公立試験研究機関や食品・製薬関連企業の研究職・技術職を目指す。

	研究指導科目 (8単位)	講義演習科目 (24単位)	各学期の学修内容
1年次 春学期	生物学研究ゼミナール1	総合生物学特論 (2単位) 科学英語特論 (2単位) 脊椎動物学特論A (2単位) 脊椎動物学特論C (2単位) 動物生理学特論 (2単位) (小計10単位)	生物学の現在や技術者・研究者への道筋、科学英語、動物学の基礎を幅広く学ぶことにより、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を身につける。また、生物学における生命科学の位置付けを明確にする。
1年次 秋学期	生物学研究ゼミナール2	無脊椎動物学特論 (2単位) 数理生物学特論 (2単位) 大気海洋環境学特論 (2単位) 栄養生理学特論 (2単位) 組織学特論 (2単位) 生殖生物学特論 (2単位) (小計12単位)	動物学の基礎に加えて、それを取り巻く環境や生命現象の数学的アプローチ法を幅広く学ぶことにより、生物学を探究するための基礎を身につける。また、生命科学科目の学修を通じて、その学問体系を理解する。
2年次 春学期	生物学研究ゼミナール3	環境生理学特論 (2単位) (小計2単位)	生命科学分野における研究の現状と問題点を把握し、その解決に向けた課題を設定する能力を身につけるほか、生命科学が社会に果たす役割を理解する。また、修士論文の作成に取りかかる。
2年次 秋学期	生物学研究ゼミナール4		生命科学分野における様々な課題について具体的な解決策を提案できる能力を身につけるほか、生命科学が人間社会にもたらす功罪について考察する。また、修士論文を完成させる。

履修モデル 1b (生態科学科目群を中心に履修)

生態科学分野を専門とする国公立試験研究機関の研究職や環境調査会社のコンサルタントを目指す。

	研究指導科目 (8単位)	講義演習科目 (24単位)	各学期の学修内容
1年次 春学期	生物学研究ゼミナール1	総合生物学特論 (2単位) 科学英語特論 (2単位) 脊椎動物学特論A (2単位) 脊椎動物学特論B (2単位) 脊椎動物学特論C (2単位) (小計10単位)	生物学の現在や技術者・研究者への道筋、科学英語、動物学の基礎を幅広く学ぶことにより、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を身につける。また、生物学における生態科学の位置付けを明確にする。
1年次 秋学期	生物学研究ゼミナール2	無脊椎動物学特論 (2単位) 大気海洋環境学特論 (2単位) 動物生態学特論 (2単位) 保全生態学特論 (2単位) 多様性生物学特論 (2単位) (小計10単位)	動物学の基礎に加えて、それを取り巻く環境や生命現象の数学的アプローチ法を幅広く学ぶことにより、生物学を探究するための基礎を身につける。また、生態科学科目の学修を通じて、その学問体系を理解する。
2年次 春学期	生物学研究ゼミナール3	動物地理学 (2単位) 生態系モデリング学特論 (2単位) (小計4単位)	生態科学分野における研究の現状と問題点を把握し、その解決に向けた課題を設定する能力を身につけるほか、生態科学が社会に果たす役割を理解する。また、修士論文の作成に取りかかる。
2年次 秋学期	生物学研究ゼミナール4		生態科学分野における様々な課題について具体的な解決策を提案できる能力を身につけるほか、生態科学が人間社会にもたらす功罪について考察する。また、修士論文を完成させる。

履修モデル1c（生命科学・生態科学科目群の両者を履修）

生物・環境系の公務員、中学校・高等学校の理科教員を目指す。

	研究指導科目 (8単位)	講義演習科目 (24単位)	各学期の学修内容
1年次 春学期	生物学研究ゼミナール1	総合生物学特論 (2単位) 科学英語特論 (2単位) 脊椎動物学特論A (2単位) 脊椎動物学特論B (2単位) 脊椎動物学特論C (2単位) (小計10単位)	生物学の現在や技術者・研究者への道筋、科学英語、動物学の基礎を幅広く学ぶことにより、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を身につける。
1年次 秋学期	生物学研究ゼミナール2	無脊椎動物学特論 (2単位) 数理生物学特論 (2単位) 大気海洋環境学特論 (2単位) 生殖生物学特論 (2単位) 動物生態学特論 (2単位) 保全生態学特論 (2単位) (小計12単位)	動物学の基礎に加えて、それを取り巻く環境や生命現象の数学的アプローチ法を幅広く学ぶことにより、生物学を探究するための基礎を身につける。また、生命・生態科学科目の学修を通じて、両者の関係と相互の必要性を理解する。
2年次 春学期	生物学研究ゼミナール3	環境生理学特論 (2単位) (小計2単位)	生物学における研究の現状と問題点を把握し、その解決に向けた課題を設定する能力を身につけるほか、生物学が社会に果たす役割を理解する。また、修士論文の作成に取りかかる。
2年次 秋学期	生物学研究ゼミナール4		生物学における様々な課題について具体的な解決策を提案できる能力を身につけるほか、生物学が人間社会にもたらす功罪について考察する。また、修士論文を完成させる。

履修モデル 2a（陸上生物を中心に履修）

農業系の公務員、陸上生物を対象とした国公立試験研究機関や企業の技術職・研究職を目指す。

	研究指導科目 (8単位)	講義演習科目 (24単位)	各学期の学修内容
1年次 春学期	生物学研究ゼミナール1	総合生物学特論 (2単位) 科学英語特論 (2単位) 脊椎動物学特論A (2単位) 脊椎動物学特論B (2単位) 動物生理学特論 (2単位) (小計10単位)	生物学の現在や技術者・研究者への道筋、科学英語、動物学の基礎を幅広く学ぶことにより、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を身につける。
1年次 秋学期	生物学研究ゼミナール2	数理生物学特論 (2単位) 大気海洋環境学特論 (2単位) 組織学特論 (2単位) 生殖生物学特論 (2単位) 動物生態学特論 (2単位) 保全生態学特論 (2単位) (小計12単位)	動物学の基礎に加えて、それを取り巻く環境や生命現象の数学的アプローチ法を幅広く学ぶことにより、生物学を探究するための基礎を身につける。また、陸上生物の特性を理解する。
2年次 春学期	生物学研究ゼミナール3	環境生理学特論 (2単位) (小計2単位)	生物学における研究の現状と問題点を把握し、その解決に向けた課題を設定する能力を身につけるほか、陸上生物の役割と人間活動との関係を理解する。また、修士論文の作成に取りかかる。
2年次 秋学期	生物学研究ゼミナール4		生物学における様々な課題について具体的な解決策を提案できる能力を身につけるほか、陸上生物の保全や利活用に向けた方策を考察する。また、修士論文を完成させる。

履修モデル 2b（海洋生物を中心に履修）

水産系の公務員、海洋生物を対象とした国公立試験研究機関や企業の技術職・研究職を目指す。

	研究指導科目 (8単位)	講義演習科目 (24単位)	各学期の学修内容
1年次 春学期	生物学研究ゼミナール1	総合生物学特論 (2単位) 科学英語特論 (2単位) 脊椎動物学特論A (2単位) 脊椎動物学特論C (2単位) 動物生理学特論 (2単位) (小計10単位)	生物学の現在や技術者・研究者への道筋、科学英語、動物学の基礎を幅広く学ぶことにより、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を身につける。
1年次 秋学期	生物学研究ゼミナール2	無脊椎動物学特論 (2単位) 数理生物学特論 (2単位) 大気海洋環境学特論 (2単位) 生殖生物学特論 (2単位) 動物生態学特論 (2単位) 保全生態学特論 (2単位) (小計12単位)	動物学の基礎に加えて、それを取り巻く環境や生命現象の数学的アプローチ法を幅広く学ぶことにより、生物学を探究するための基礎を身につける。また、海洋生物の特性を理解する。
2年次 春学期	生物学研究ゼミナール3	動物地理学特論 (2単位) (小計2単位)	生物学における研究の現状と問題点を把握し、その解決に向けた課題を設定する能力を身につけるほか、海洋生物の役割と人間活動との関係を理解する。また、修士論文の作成に取りかかる。
2年次 秋学期	生物学研究ゼミナール4		生物学における様々な課題について具体的な解決策を提案できる能力を身につけるほか、海洋生物の保全や利活用に向けた方策を考察する。また、修士論文を完成させる。

[特定個人情報の適正な取扱い](#)[個人情報保護](#)[知的財産憲章](#)[東海大学情報セキュリティポリシー](#)[東海大学教育研究者行動方針](#)[東海大学遺伝子組換え実験](#)[東海大学動物実験](#)[医療系業界透明性ガイドラインに対する本学の対応](#)[利益相反ポリシー](#)[研究活動の不正防止](#)

東海大学教育研究者行動方針

東海大学教育および研究に携わる者の行動指針

東海大学は、建学の精神に則り、高度な科学技術の深奥を究め、地球環境を守りながら世界の平和と人類の幸福をもたらす教育および研究を展開している。その中であって、本学の構成員には、学問の自由と学術研究の重要性に鑑み、社会に対する重い責任と自己の行動に対する厳しい倫理規範が求められている。本指針は、本学の教職員で本学において教育および研究に携わる者の倫理規範を示したものである。

1. 教育・研究者の責任

教育・研究者は、自ら生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門的知識、技術、経験を活かして、真理の探求、学問の教授、社会の安全と安寧、人類の健康と福祉、そして環境の保全に対する責任を有することを自覚する。

2. 教育・研究者の行動

教育・研究者は、研究の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に誠実に判断し、行動する。また、研究によって生み出される知の正確さや正当性を、科学的かつ客観的に示す最善の努力をすると共に、自らの専門領域における相互評価に積極的に関与する。

3. 自己の研鑽

教育・研究者は自らの専門知識・能力などの維持向上に努めると共に、科学技術と社会・自然環境の関係を広い視野から理解できるように常に努力し、最善の判断と姿勢を示す。

4. 説明と公開

教育・研究者は、自ら携わる教育・研究の意義と役割を公開して説明する責任を有することを自覚する。

5. 情報の適正な取り扱い

教育・研究者は、教育・研究の立案・申請・実施・報告などにおいて、本指針に基づいて行動すると共に、資料、情報、データ等を厳正に取り扱う。また、自らねつ造、改ざん、盗用などの不正行為を行わない。

6. 法令等の遵守

教育・研究者は、教育・研究の実施、研究費の使用等にあたっては、法令ならびに関係規則および本学の規程を遵守する。

7. 教育・研究対象などへの配慮

教育・研究者は、教育・研究への協力者の人格、人権を尊重し、福利に配慮する。動物などに対しては、真摯な態度でこれを扱う。

8. 他者との適正な関係

教育・研究者は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの教育・研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。他者の知的成果などの業績を正當に評価し、名誉や知的財産権を尊重する。

9. 人権侵害・差別の排除

教育・研究者は、研究・教育において、性、地位、思想・宗教、人種などによって個人を差別せず、人権侵害を排除し、科学的方法に基づき公平に対応して、個人の自由と人格を尊重する。

10. 教育・研究環境の確立

教育・研究者は、責任ある研究を行うことのできる公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、本学の教育・研究環境の質的向上に関する取り組みに積極的に参加する。

11. 利益相反への配慮

教育・研究者は、自らの研究、審査、評価、判断などにおいて、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の相反に十分に注意を払い、適切に対応する。

2007年3月1日

高野二郎

[本学のコンプライアンスへ戻る](#)

[▶ 東海大学動物実験指針](#)[▶ 東海大学動物実験委員会規程](#)[▶ 東海大学動物実験施設の構造及び利用等に関する基準](#)[▶ 東海大学動物実験評価委員会規程](#)

東海大学動物実験指針

(Guidelines for the Care and Use of Animals for Scientific Purposes at Tokai University)

(制定 2007年4月1日)

改訂 2008年4月1日 2016年4月1日

(動物実験に対する基本的姿勢)

東海大学で行われる動物実験にあつては、その目的が生命科学への知識の向上を基礎に、人類の福祉・健康の増進、教育・研究に寄与し、かつ動物の愛護にも配慮したものでなければならない。動物実験は、科学研究の一般原則に従い、再現性が得られるよう実験動物及び実験の諸条件に留意しつつ、動物の生命を尊重し、できる限り動物に苦痛を与えないよう、平静な条件下に飼育し処置を行うことによって所期の成果を期待しうるものである。

平成17年6月に動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律（平成17年法律第68号）が公布され、動物実験等に関する理念であるいわゆる3Rのうち、Refinement（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないことをいう。）に関する規定に加えて、Replacement（科学上の利用の目的を達することができる範囲においてできる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用することをいう。）及びReduction（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすることをいう。）に関する規定が盛り込まれた。

東海大学においては、「動物の愛護及び管理に関する法律」（昭和48年法律第105号 最終改正 平成26年法律第46号）（以下「法」という。）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（平成25年 環境省告示第84号）（以下「飼養保管基準」という。）、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（平成18年文部科学省告示71号）（以下「基本指針」という。）、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」（日本学術会議2006年6月1日）等を基に、本学における動物実験による研究活動に対し本学研究者の依るべき指針を定め、科学的にはもとより、動物福祉の観点からも、国内外から正当な評価が得られるよう啓発に努める。

(目的)

第1条

この指針は、東海大学（以下「本学」という。）において動物実験を計画し、実施する際に遵守すべき事項を示し、科学的立場はもとより、動物福祉の観点からも適正な動物実験の実施を促すことを目的とする。

(適用範囲)

第2条

この指針は、本学において実施される哺乳類、鳥類、爬虫類又は両生類を用いるすべての動物実験等に適用される。

2

哺乳類、鳥類、爬虫類又は両生類に属する動物以外の動物を実験等の利用に供する場合においても、この指針の趣旨に沿って行うよう努めなければならない。

3

野生生物を用いる場合には、自然保護の観点からも十分に検討し、いわゆるワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（昭和55年条約第25条）、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号））、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号、改正平成25年法律第38号）等に抵触してはならない。

（定義）

第3条

この指針において、次の各号に掲げる用語の定義は、以下に定めるところによる。

- 「動物実験」とは、動物を教育、研究、試験又は生物学的製剤の製造その他の科学上の利用に供することをいう。
- 「実験動物」とは、動物実験の利用に供するため、施設等で飼養し、又は保管している哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類に属する動物(施設等に導入するために輸送中のものを含む。)をいう。
- 「飼養保管施設」とは、実験動物を恒常的に飼養若しくは保管、又は実験処置を行う施設・設備をいう。
- 「動物実験室」とは、実験動物に実験操作を行う実験室（実験操作のため実験動物を48時間以内において一時的に保管する場合を含む。）をいう。
- 「施設等」とは、飼養保管施設及び動物実験室をいう。
- 「動物実験実施者」とは、動物実験を実施する者をいう。
- 「動物実験責任者」とは、動物実験実施者の内、個々の動物実験計画における動物実験の実施に関する業務を統括する者をいう。
- 「管理者」とは、学長のもとに実験動物及び施設等を管理する者（学部、施設、研究所、センター等の長）をいう。
- 「実験動物管理者」とは、実験動物に関する知識及び経験を有し、管理者を補佐し、実験動物の管理を担当する者をいう。
- 「実験動物施設管理者」とは、実験動物管理者の中から学長が任命し、所属校舎の実験動物の管理を担当する者をいう。
- 「飼養者」とは、実験動物管理者又は動物実験実施者の下で、実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。
- 「管理者等」とは、管理者、実験動物施設管理者、実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者をいう。

（学長の責務）

第4条

学長は、本学における動物実験の適正な実施に関して総括管理する。

（機関内規程の策定）

第5条

学長は、法、飼養保管基準、基本指針、その他の動物実験等に関する法令等の規定を踏まえ、実験動物の飼養保管施設及び動物実験室の整備・管理の方法、動物実験等の具体的な実施方法を定め、管理者等はこれを遵守しなければならない。

(施設・設備・組織の整備)

第6条

動物実験を実施する部局においては、動物実験を適正かつ円滑に実施するために、適切な飼養保管施設・動物実験室や、その管理・運営に必要な組織体制が整備されていないといけない。

2

動物実験のために第2条第1項に規定する生きた動物を取扱う施設はすべて、学長承認の下に設置される。

3

動物実験施設の設置承認に関する事項については、「東海大学動物実験施設の構造及び利用等に関する基準」に定めるところによる。

(動物実験委員会)

第7条

学長は、動物実験等の適正な実施のための諮問組織として、東海大学動物実験委員会（以下「動物実験委員会」という。）を設置する。

2

動物実験委員会は、動物実験等に関して優れた識見を有する者、実験動物に関して優れた識見を有する者、その他の学識経験を有する者から、学長が委嘱した委員により構成される。

3

動物実験委員会は、東海大学動物実験委員会規程に従い、動物実験計画の審査、実施状況及び結果の把握、教育訓練、自己点検・評価、情報公開、その他動物実験等の適正な実施のために必要な事項を審議し、学長に報告、提言を行う。

(実施計画の立案)

第8条

動物実験責任者は、動物実験の立案に際し、動物実験計画書を学長に提出しなければならない。学長は、動物実験委員会に実験計画の審査を委ね、審査結果の報告を受ける。本学において行われる動物実験はすべて、学長の承認を得て実施されるものとする。

2

動物実験実施者は、実験動物施設管理者、実験動物管理者の協力を得て、適正な動物実験に必要な飼育環境等の条件を確保しなければならない。

3

動物実験実施者は、代替法を検討した上で、実験動物の数を最小限に止めるよう配慮し、実験目的に適した動物種の選定、実験成績の精度や再現性を左右する供試動物の数、遺伝学的・微生物学的品質、飼育条件等を考慮しなければならない。特に、微生物学的品質に関しては、管理者、実験動物施設管理者、実験動物管理者の指示に従わなくてはならない。

4

東海大学の施設を使用しない動物実験計画であっても、本学の教職員が動物実験に従事若しくは動物実験等の実施を他機関に委託等する場合において、次のいずれかに該当するものは、本学所定の動物実験計画書等を提出しなければならない。

- (1) 霊長類を用いる実験
- (2) 実験動物の購入・飼育等に係わる費用を負担する場合
- (3) 動物実験責任者として従事する場合
- (4) 野外において、野生動物を捕獲し侵襲的処置を加える場合、又は一時的若しくは恒久的な檻等の施設を設け野生動物等の生態若しくは行動を観察する場合
- (5) その他、東海大学動物実験委員会が実施内容の審査が必要と認めるもの

5

学長は、動物実験計画について承認を与えるか否かの決定を行う権限を委譲する者を指名することができる。指名された者は、動物実験委員会の審査結果の報告に基づき、動物実験計画について承認を与えるか否かを速やかに動物実験責任者に通知し、学長に報告しなければならない。

(動物実験実施後の報告)

第9条

動物実験責任者は、動物実験実施後、使用動物数、計画変更の有無及び実験の成果等について学長に報告する。

(動物の検収と検疫)

第10条

動物実験実施者、実験動物管理者、実験動物施設管理者及び飼養者は、実験動物の導入に際し、実験動物の規格、品質及び異常の有無を確認し、動物の状態等を記録し、また、検疫を実施しなければならない。

(実験動物の飼育)

第11条

動物実験実施者、実験動物管理者、実験動物施設管理者及び飼養者は、協力して適切な施設、設備等の維持・管理に努め、適切な給餌、給水等の飼育管理を行わなければならない。

2

動物実験実施者、実験動物管理者、実験動物施設管理者及び飼養者は、協力して実験中の動物についてはもちろんのこと、施設等への導入時から実験終了時に至る全ての期間にわたって動物の状態を詳細に観察してその記録を保管し、適切な処置を施さなければならない。

(実験中における動物の取扱い)

第12条

動物実験実施者は、適切な麻酔や保定等の手段を講じ、又は人道的エンドポイントの設定を熟慮して、動物に無用な苦痛を与えないようにしなければならない。

(実験終了後の処置)

第13条

動物実験実施者は、実験を終了した動物の処置については、飼養保管基準に定められているところ（致死量以上の麻酔薬の投与、頸椎脱臼等の化学的又は物理的方法）に基づき行う必要がある。

2

管理者等は、実験動物の死体及び排泄物等について、最終処理に至るまでの間、所定の場所に適切に保管し、環境を損なうことのないよう配慮しなければならない。

(安全管理等に特に注意を払う必要のある実験)

第14条

管理者等は、病原体、遺伝子組換え体、放射線や放射性同位元素、発癌物質や重金属を含む有害物質等の物理的、化学的及び生物学的に危険な物質等を扱う動物実験においては、関連法令を遵守し、人の安全を確保することはもとより、飼育環境の汚染により動物が傷害を受けたり、実験結果の信頼性が損なわれたりすることがないように十分に配慮し、かつ、施設周囲の汚染防止についても特別の注意を払わなければならない。

(教育訓練)

第15条

学長は、実験動物施設管理者、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者が、関連法令、基本指針等、動物実験等の方法に関する基本的事項、実験動物の飼養保管に関する基本的事項、安全確保に関する事項、その他適切な動物実験等の実施に関して、所定の教育訓練が確保されるよう努める。

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価及び検証)

第16条

学長は、動物愛護に配慮した科学的な動物実験等の実施を図るため、本学で行われた動物実験等の基本指針等への適合性に関し、自己点検及び評価を実施するとともに、その結果について、当該機関等以外の者による検証を行うことに努める。

(動物実験評価委員会)

第17条

学長は、自己点検及び評価に関し自ら検証を行うため、東海大学動物実験評価委員会(以下「評価委員会」という。)を設置する。

2

評価委員会は、動物実験等に関して優れた識見を有する者、学外有識者、動物実験以外の自然科学分野及び人文・社会学分野に優れた識見を有する者から、学長が委嘱した委員により構成される。

3

評価委員会は、学長の諮問に応じて、東海大学における動物実験がこの指針に基づき適正に行われたか自己点検・評価及び検証を行うために必要な事項を審議し、学長に報告、提言を行う。

(情報公開)

第18条

学長は、本学における動物実験等に関する情報について適切な方法で公開を行い、動物実験等に係わる情報の社会的透明性の確保に努める。

(緊急時の対応)

第19条

管理者等は、地震、火災等の緊急時に執るべき措置の計画をあらかじめ作成し、動物実験施設関係者に対して周知しなければならない。

2

管理者等は、緊急事態発生時において、人命保護の優先を堅持しつつ、実験動物の保護、実験動物の逸走による危険防止等に努めなければならない。

(適用除外)

第20条

畜産に関する飼養管理の教育若しくは試験研究又は畜産に関する育種改良を目的とした実験動物（一般に産業動物と見なされる動物種に限る。）の飼養又は保管及び生態の観察を行うことを目的とした実験動物の飼養又は保管については、実験計画の遂行に伴う侵襲的処置を加えない限りは、この指針を適用しない。なお、その場合においても、産業動物の飼養又は保管については「産業動物の飼養及び保管に関する基準」（昭和62年 総理府告示第22号、最終改正 平成25年環境省告示第85号）、又は生態の観察を行うことを目的とした動物の飼養又は保管については「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」（平成14年環境省告示第37号、最終改正 平成25年環境省告示第82号）を遵守しなければならない。

(指針の改訂)

第21条

この指針の改訂は、東海大学動物実験委員会の議を経て、学長の承認を得るものとする。

付 則

この指針は、2007年4月1日から施行する。

付 則（2008年4月1日）

1

この指針は、2008年4月1日から施行する。

2

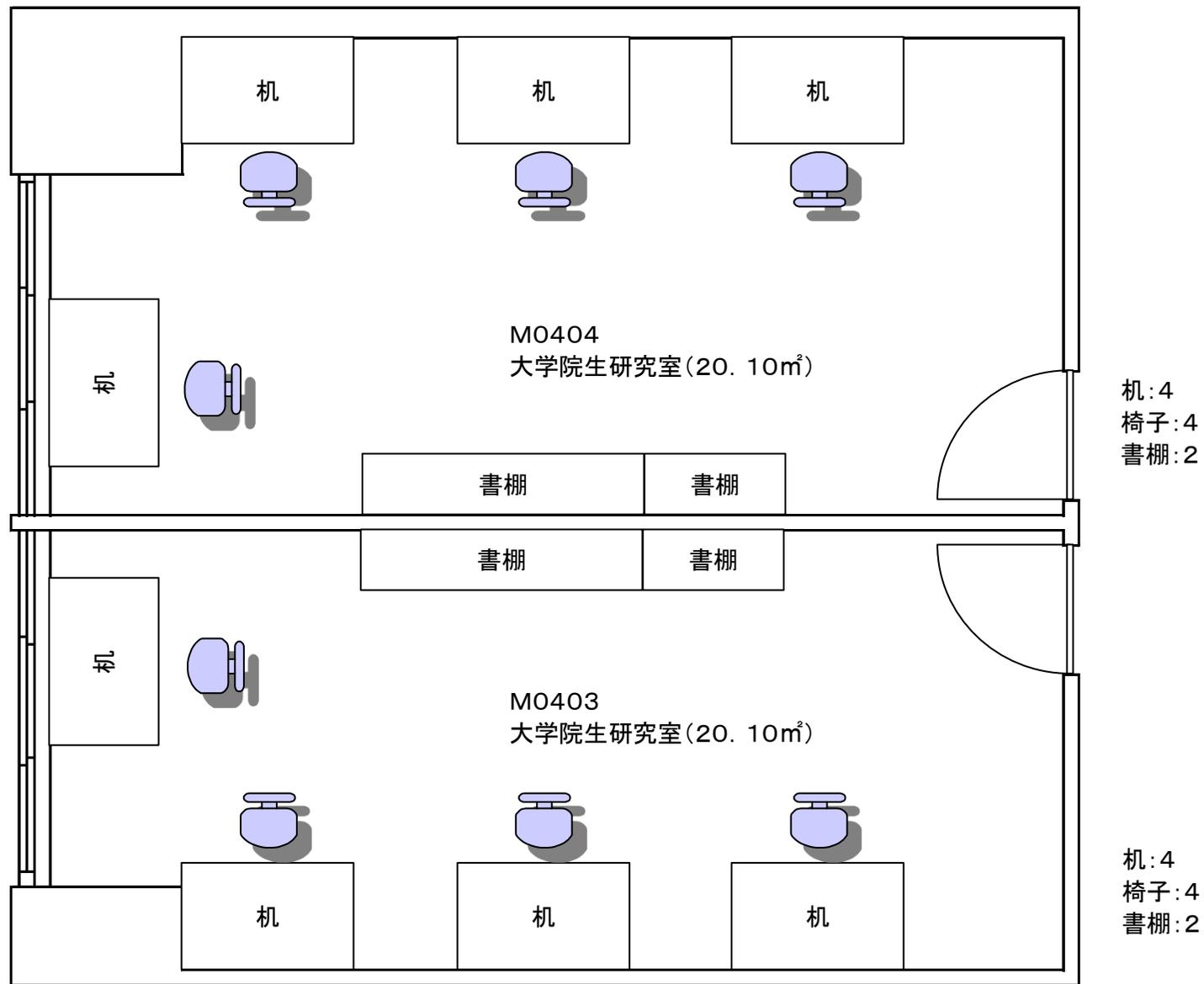
この指針の改訂により、九州東海大学農学部動物実験指針及び北海道東海大学動物実験指針は廃止する。

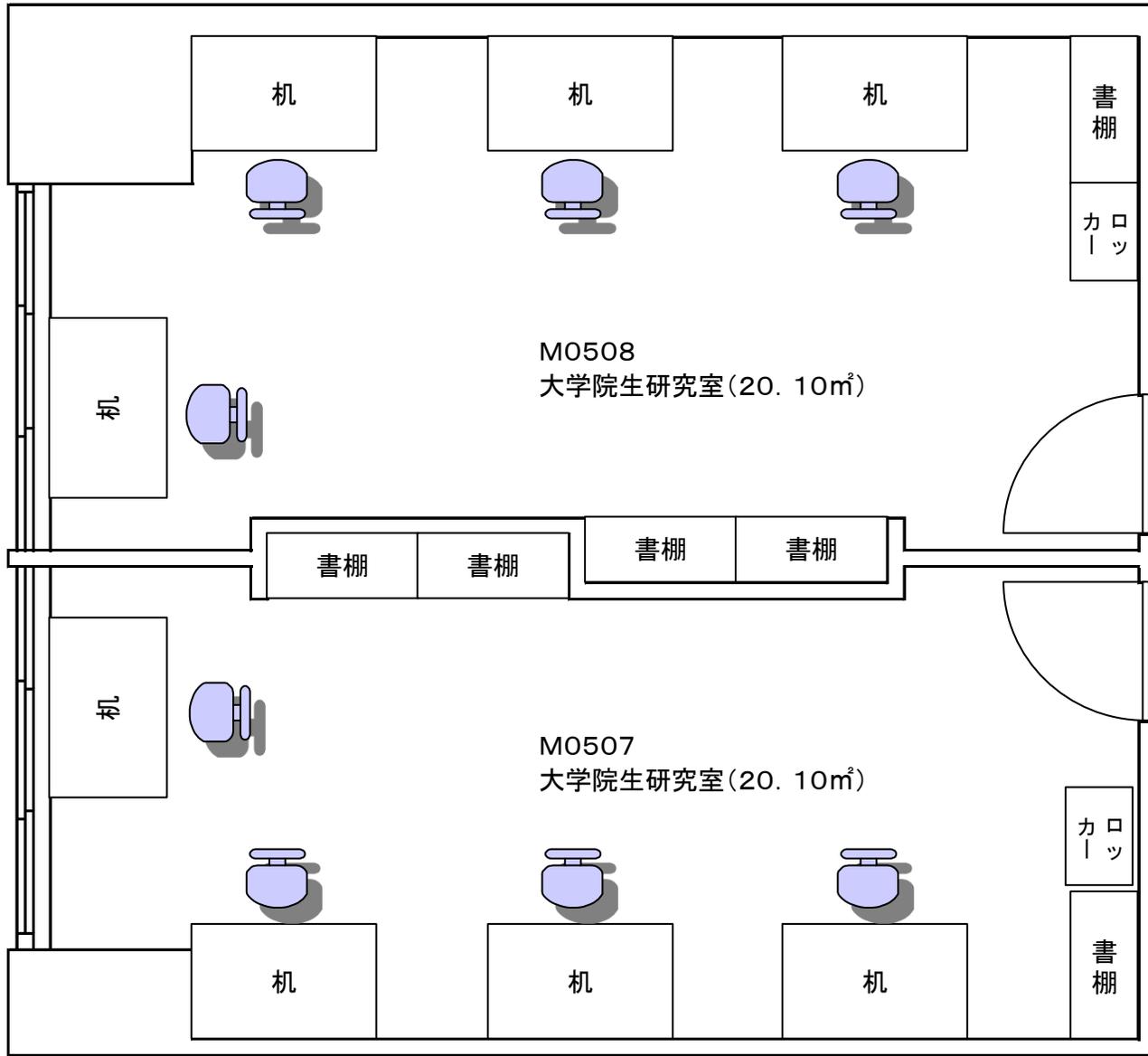
付 則

この指針は、2016年4月1日から施行する。

〔 < [機関内規程等へ戻る](#)

大学院生研究室見取図





机:4
椅子:4
書棚:3

机:4
椅子:4
書棚:3

学術和雑誌一覧

No.	和雑誌タイトル
1	Birder : バードウォッチング・マガジン : バーダー.
2	FRA announcement = 独立行政法人水産総合研究センター広報
3	FRA news : Fisheries Research Agency news = FRAニュース
4	Salmon : National Salmon Resources Center (NASREC) newsletter : さけ・ます資源管理センターニュース
5	Salmon情報 : 水産総合研究センター研究開発情報 : FRA salmonid research report
6	Snake
7	Strix : 日本野鳥の会研究報告
8	秋田県水産振興センター事業報告書
9	秋田県農林水産技術センター水産振興センター事業報告書
10	アクアネット : 産地と消費地をネットする新しい水産情報誌 = Aquanet.
11	アニマ : 野性からの声 = Anima.
12	遺傳 = The heredity
13	西表島研究 : 東海大学沖縄地域研究センター所報 = The study review of Iriomote Island.
14	沿岸海洋研究
15	沿岸漁業等について講じようとする施策
16	遠洋 : 水産研究所ニュース
17	遠洋リサーチ&トピックス : 独立行政法人水産総合研究センター研究開発情報 = ENYO research & topics
18	海藻魚礁ニュース
19	海洋と生物 = Aquabiology
20	化学
21	化学と教育 = Chemical education
22	化学と生物
23	化学と薬学の教室
24	化学と薬学の教室. New ones.
25	北の海から : 水産総合研究センター研究開発情報
26	九州東海大学農学部紀要
27	漁業の動向等に関する年次報告
28	漁村
29	魚病研究
30	魚類学雑誌
31	月刊アクアライフ : 魚とのコミュニケーション = Aqualife : monthly magazine for aquarists
32	月刊日本の生物
33	月刊むし
34	研究業績
35	現代化学 = Chemistry today
36	国立真珠研究所資料
37	国立真珠研究所報告
38	昆虫と自然 = the nature and insects
39	採集と飼育
40	栽培漁業・海面養殖用種苗の生産・入手・放流実績(全国). 資料編
41	栽培漁業・海面養殖用種苗の生産・入手・放流実績(全国). 総括編・動向編
42	栽培漁業技術開発研究
43	栽培漁業技術実証試験結果報告書
44	栽培漁業技術中央研修会テキスト集
45	栽培漁業資源回復等対策事業報告書
46	栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国)

No.	和雑誌タイトル
47	栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国). 資料編
48	栽培漁業事例集
49	栽培漁業センター技報
50	細胞工学 = Cell technology
51	魚と水
52	魚と卵 / 北海道水産孵化場 [編]
53	さけ・ます資源管理センター業務報告書 = Annual report of the National Salmon Resources Center
54	さけ・ます資源管理センター研究報告 = Bulletin of the National Salmon Resources Center.
55	さけますセンター業務報告書
56	サケマス増殖談話会会報 = Salmonid science newsletter
57	資源生物モニタリング : サケOncorhynchus keta
58	種苗放流モニタリング : サケ属魚類Oncorhynchus spp.
59	初期生活史データ : サケOncorhynchus keta.
60	食料・農業・農村白書
61	食料・農業・農村白書附属統計表
62	水産海洋研究
63	水産海洋研究会報
64	水産学術研究・改良補助事業報告
65	水産技術 = Journal of fisheries technology
66	水産研究助成事業報告
67	水産工学
68	水産週報
69	水産大学校研究報告 = The journal of the Shimonoseki University of Fisheries
70	水産庁北海道区水産研究所研究報告
71	水産土木
72	水産年鑑 = Year book of fisheries
73	水産の研究
74	水産白書
75	水産研究・教育機構研究報告
76	図説漁業白書
77	図説食料・農業・農村白書
78	図説水産白書
79	図説農業白書
80	生物科学
81	生物教育
82	世界農業白書
83	世界の農林水産 : 資料と情報
84	専修大学美唄農工短期大学年報
85	動物生理
86	増養殖研究レター
87	淡水区水産研究所研究報告
88	淡水区水産研究所資料. Aシリーズ. 外国文献抜萃
89	淡水区水産研究所資料. Bシリーズ(普及用刊行物)
90	蛋白質・核酸・酵素 = Protein, nucleic acid and enzyme
91	低温科学. 生物篇
92	東海大学紀要. 農学部.
93	道総研さけます・内水面水産試験場事業報告書

No.	和雑誌タイトル
94	動物園水族館雑誌
95	動物学雑誌
96	ななつの海から：水産総合研究センター研究開発情報：Na·na·tsu·no·u·mi·ka·ra
97	日経バイオテク
98	日本化学会誌：化学と工業化学 = Journal of the Chemical Society of Japan : chemistry and industrial chemistry
99	日本人とさかな
100	日本生態學會誌
101	日本農藝化学會誌 = Journal of the Agricultural Chemical Society of Japan
102	日本プランクトン学会報
103	日本プランクトン研究連絡会報
104	年報 = Annual report
105	農業および園芸 = Agriculture and horticulture
106	農業と経済
107	農業白書付属統計表
108	バイオテクニシャン：日本バイオ技術教育学会誌
109	バイオメカニクス研究
110	比較生理生化学
111	微生物
112	ぶんせき
113	分析化学 = Japan analyst
114	東北区水産研究所研究報告 = Bulletin of Tohoku Regional Fisheries Research Laboratory
115	北水研ニュース
116	北水試月報
117	北水試だより：浜と水試を結ぶ情報誌
118	牧草と園芸
119	保全生態学研究
120	北海道区水産研究所技術報告
121	北海道区水産研究所研究報告
122	北海道さけ・ます・ふ化場研究報告 / 水産庁北海道さけ・ます・ふ化場 [編] = Scientific reports of the Hokkaido Salmon Hatchery
123	北海道周辺海域における底魚類の資源調査報告書
124	北海道水産業・漁村のすがた：北海道水産白書 = Hokkaido fisheries today
125	北海道水産試験場研究報告 = Scientific reports of Hokkaido Fisheries Research Institutes
126	北海道大学水産科学研究彙報 = Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University
127	北海道大学水産学部北洋水産研究施設業績集
128	北海道農業の動向
129	北海道農業試験場年報
130	北海道農業統計表
131	北海道大学水産学部研究彙報 = Bulletin of the Faculty of Fisheries, Hokkaido University
132	北海道立水産孵化場研究報告
133	北海道立水産試験場研究報告 = Scientific reports of Hokkaido Fisheries Experimental Station
134	北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場研究報告 = Scientific reports of the Hokkaido Salmon and Freshwater Fisheries Research Institute
135	北海道立総合研究機構農業試験場報告
136	北海道林業試験場研究報告
137	北方林業
138	三重大学大学院生物資源学研究科紀要 = The bulletin of the Graduate School of Bioresources Mie University
139	有機合成化学協会誌
140	養殖

No.	和雑誌タイトル
141	養殖研究レター
142	養殖研究所研究報告 = Bulletin of National Research Institute of Aquaculture
143	養殖研資料
144	養殖研ニュース
145	養殖ビジネス = Aqua culture business

学術洋雑誌一覧

No.	洋雑誌タイトル
1	American anthropologist
2	American anthropologist. New series.
3	American journal of agricultural economics
4	Annual report
5	Annual report
6	Applied and environmental microbiology.
7	Aquacultural engineering.
8	Arctic anthropology
9	Biochemistry
10	Biotechnology letters
11	Bulletin
12	Bulletin of National Research Institute of Aquaculture. Supplement
13	Canadian journal of fisheries and aquatic sciences
14	Contributions from the Institute of Low Temperature Science. Series B
15	Copeia.
16	Cultural anthropology : journal of the Society for Cultural Anthropology
17	Current anthropology : a world journal of the sciences of man
18	Data record of oceanographic observations and exploratory fishing
19	Ecological research.
20	Fisheries oceanography.
21	Garten und Landschaft : deutsche Gesellschaft für Gartenkunst und Landschaftspfleg
22	International journal of systematic and evolutionary microbiology : IJSEM.
23	Journal of anthropological research
24	Journal of bacteriology
25	Journal of chemical ecology.
26	Journal of chemical education
27	Journal of mammalogy
28	Journal of plankton research
29	Journal of plant physiology.
30	L'homme : revue française d'anthropologie
31	Low temperature science. Ser. B, Biological sciences
32	Man. N.S. : the journal of the Royal Anthropological Institute
33	Mankind : official journal of the Anthropological Society of Australia
34	Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University.
35	Memoirs of the Faculty of Fisheries, Hokkaido University
36	Memoirs of the Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University.
37	Nature. New biology
38	Physiologia plantarum
39	Phytochemistry.
40	PICES scientific report
41	Plankton & benthos research.
42	Plankton biology and ecology / Plankton Society of Japan.
43	Plant and cell physiology
44	Plant physiology.
45	Planta : Archiv für wissenschaftliche Botanik
46	Polar biology.

No.	洋雑誌タイトル
47	Scientific report of the Laboratory for Amphibian Biology
48	The Biochemical journal
49	The journal of biological chemistry
50	The Journal of organic chemistry.
51	The plant cell
52	Trends in biochemical sciences
53	Trends in biotechnology.
54	Zeitschrift für Naturforschung. B, A journal of chemical sciences
55	Zeitschrift für Naturforschung. Section C, A journal of biosciences
56	Zoological science

資料7 基礎となる学部との関係

大学院博士課程

地球環境科学研究科 生物科学研究科

生物学研究科
生物学専攻

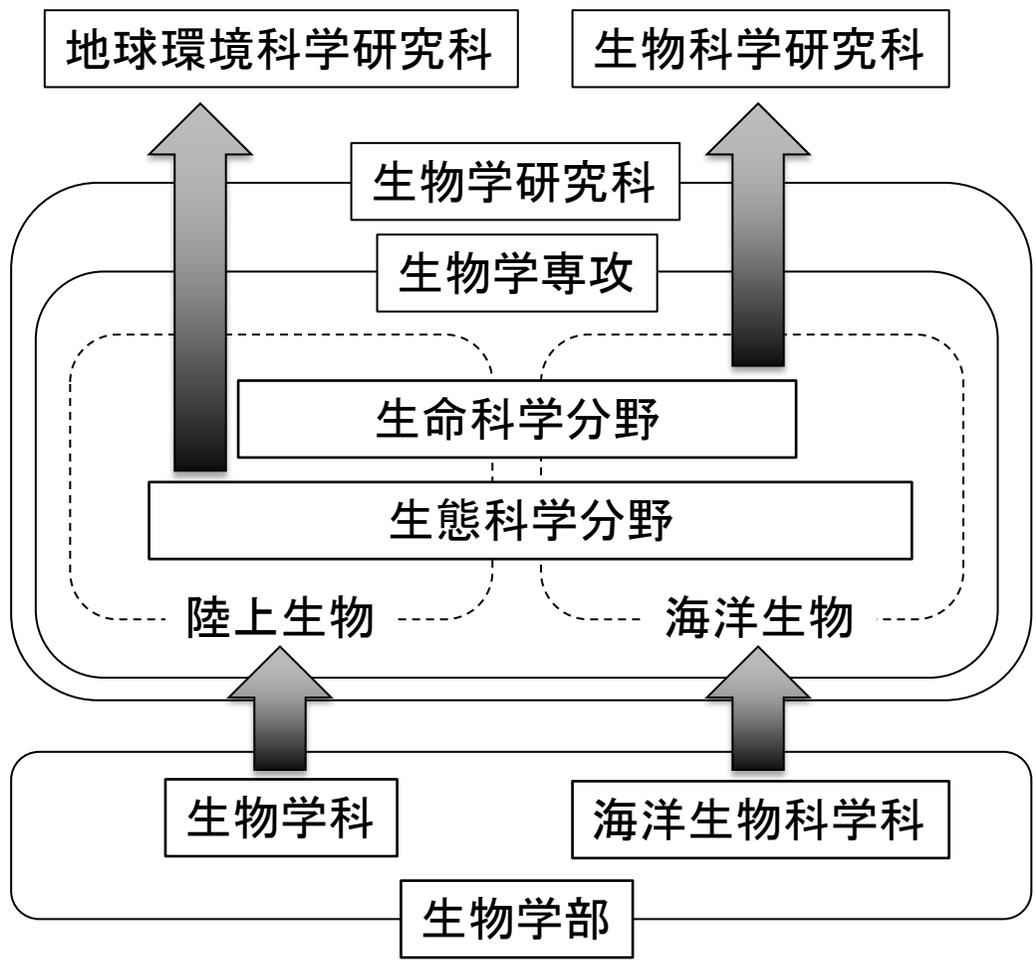
大学院修士課程

生命科学分野
生態科学分野

陸上生物 海洋生物

学部学士課程

生物学科 海洋生物科学科
生物学部



学生の確保の見通し等を記載した書類 生物学研究科生物学専攻（修士課程）

（1）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 新設する生物学研究科生物学専攻の定員充足の見込み

大学院生物学研究科生物学専攻の入学定員は8名、収容定員は16名である。この入学定員8名の定員充足の見込みを検討する上で、本学生物学部生物学科および海洋生物科学科在学学生に対する入学意向調査が最も有効であると考え、2018年4月に第1回目のアンケートを実施したところ、新設後進学対象となる学生（2016年度入学生；標本数130名、回答率87.8%）において、大学院があったほうが良いと回答した学生が75名、進学を希望する学生が11名との結果が得られた（資料1）。また、2019年4月に同じ2016年度入学生を対象に実施した第2回目のアンケート調査（標本数124名、回答率87.3%）（資料2）においても、大変興味があると回答した学生が20名、ぜひ進学したいと回答した学生が11名との結果が得られ、設定する入学定員を上回っている。

以上の検討に基づき、生物学研究科生物学専攻が設定する入学定員8名は、充足することが見込まれる。

2) 「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科等の定員充足の見込み

【基盤工学部電気電子情報工学科】（熊本校舎）

本学科の教育目標である「電気・電子・情報工学およびその応用分野へ適用可能な基盤知識を幅広く理解し、その専門技術を急速に発展している情報化に提供できる実践的技術の育成」を掲げ、広報を展開しているが、受験生にとってやや捉えにくく、定員未充足の状況が続いている。しかし、2017年度入試以降、受験者数は3年連続して増加しており、引き続き本学科の取り組みをアピールしていくことで、入学定員80名を充足できる見込みである。

なお、今後改組することも選択肢のひとつとして検討を進めている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 東海大学大学院生物学研究科生物学専攻修士課程に関する第1回アンケート調査（資料1）

2018年4月に生物学研究科の基礎となる生物学部生物学科および海洋生物科学科3～4年生に対して、大学院進学に関する意向調査を実施した。その結果の一部を表1に示す。

表 1. 第 1 回アンケート調査の概要

	入学 年	学年	回答 数	問 1 A 生物学部に大学院 修士課程があったほうが良 いと思うか	問 2 A 生物学部に大学院修士課 程があった場合、どのように考え るか	
				あったほうが良い	進学したい	第 1 志望では ないが、検討 する
学部 全体	2015	4 年	121	70 人 (58%)	13 人 (11%)	18 人 (15%)
	2016	3 年	130	75 人 (58%)	11 人 (8%)	28 人 (22%)

() は全回答数に対する割合

第 1 回アンケート調査では、3 年生と 4 年生を対象に学部を基礎とした大学院修士課程があったほうが良いか、あった場合に進学を考えるかといった意向を探った。その結果、両学年とも半数以上の学生から大学院修士課程の設置に肯定的な回答が得られた。また、進学を希望する学生が 8～11% 存在するとともに、検討すると回答した学生を含めると、26～30% の学部生の志願が期待できる状況であり、実際の入学者も定員を超過すると推測される。

2) 東海大学大学院生物学研究科生物学専攻修士課程に関する第 2 回アンケート調査 (資料 2)

2019 年 4 月に生物学研究科生物学専攻の基礎となる生物学部生物学科および海洋生物科学科 4 年生に対して、大学院進学に関する意向調査を実施した。その結果の一部を表 2 に示す。

表 2. 第 2 回アンケート調査の概要

学年	人数 (回答 数)	問 3. 生物学研究科に興味があ るか		問 4. 生物学研究科に進学を希望 するか	
		大変興味がある	興味がある	ぜひ進学したい	条件が合えば 進学したい
4 年	124	20 (16%)	36 (29%)	11 (9%)	26 (21%)

() は全回答数に対する割合

第 2 回アンケート調査では、新設後進学対象となる 4 年生に対して生物学研究科生物学専攻への興味の有無と進学の可能性をより明確に探った。その結果、20 名 (16%) の学生が生物学研究科に大変興味を持っており、11 名 (9%) の学生は現時点で進学を希望していることが判明した。

また、条件が合えば進学したいとする学生も 26 名 (21%) 存在することが明らかとなり、今後、生物学研究科生物学専攻のカリキュラムや教員構成、研究内容などを詳細に説明する機会を、3 年生以下の学生も含めて設けることにより、入学定員 8 名の充足は継続的に可能であるものと判断する。

3) 「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の過去 5 年間の入試状況」(資料 3)

2015 年度入試～2019 年度入試における、「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率の項目を記載した。

ウ 学生納付金の設定の考え方

1) 既設研究科との比較

生物学研究科生物学専攻(修士課程)の学生納付金は、入学金 250,000 円、授業料 735,000 円/年、教育運営費・施設設備費 411,000 円/年であり、本専攻の学位「理学関係」と同分野である既設の海洋学研究科海洋学専攻(修士課程)の学生納付金(入学金 300,000 円、授業料 735,000 円/年、教育運営費・施設設備費 411,000 円/年)とほぼ同額となっている。

2) 近隣の競合校等の状況との比較

本学と同じ私立大学で生物関連分野を有する東京農業大学大学院生物産業学研究科生物生産学専攻・アクアバイオ学専攻(博士前期課程、北海道オホーツクキャンパス)の学生納付金は、入学金 270,000 円、授業料 660,000 円/年、実験実習演習費・整備拡充費 510,000 円/年であり、生物学研究科生物学専攻の学生納付金は、これとほぼ同水準となっている。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 新設する生物学研究科生物学専攻の取組状況

生物学研究科生物学専攻の入学者を確保するためには、生物学部への入学者に対して、早い時期から大学院進学への関心を持たせ、その必要性を理解させていく。

このため、生物学部生物学科、海洋生物科学科において 1 年次に開講する必修科目「フレッシュマンゼミナール」及び、選択必修科目「生物と職業」(学部共通)、そして 3 年次に開講する必修科目「水産・海洋の職業」(海洋生物科学科)において、大学院進学への動機付けを高めるため、修士課程修了が求められる業種・業界の紹介や就職後のキャリアパス、学部 4 年から修士課程にかけての研究生活など大学院に進学した場合の状況がイメージしやすくなるような情報提供を行う。

加えて、毎年 4 月に行われる学年別・学科別の履修ガイダンスにおいて、生物学研究科生物学専攻の案内を配付し、卒業後の選択肢として本学大学院への進学もあることを周知するとともに、4 年生に対しては別途、本研究科のカリキュラム、教員構成、研究内容、想定される就職先および入試情報などを紹介するための説明会を開催する。さらに、大学院進学後のキャリア設計についても、本学キャリア支援担当部署の主催により、学内セミナーを開催して学生への宣伝を行う計画である。

また、本学以外の進学希望者の増加を目指し、生物学研究科生物学専攻の新設について、本学オフィシャルホームページでの掲載やポスター製作を行い、学内外に広く広報を展開する予定である。

2) 「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の取組状況

【基盤工学部電気電子情報工学科】(熊本校舎)

本学科において、アクティブラーニングの一種である PBL (Project Based Learning) を取り入れた教育を行っているが、これを更に推し進め、希望者は学年に関わらず研究室において自由に研究を行えるようにした。これにより、2015 年度以降、学部 3 年生が毎年、学会において発表を行っており、2018 年度は 2 名の学部学生が国際会議において発表を行った。

また、本学科が中心となり毎年、ロボットコンテスト、マイコンカーラリー、科学広場等のイベントを開催しており、これらのイベントに参加した複数名の高校生が本学科に入学しており、今後もこれらのイベントを通して本学科の魅力を伝えていく予定である。

本学科では、独自のホームページおよび Facebook を開設しているが、今後は更に内容を充実させ、学生の学会発表やイベント開催の様子、就職内定先など随時情報を発信し、高校生が本学科に興味を持つような内容にする予定である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

20 世紀終盤から今世紀にかけては、分子生物学の進展に伴って遺伝子技術を始めとする生物学とその学際領域の果たす役割が急速に重要性を増しており、こうした分野の知識・技術を有する人材の育成が課題となっている。また、温暖化による気候変動に起因した生息環境の変化、環境破壊に伴う生物多様性の喪失、世界人口の増加に伴う食料需給の逼迫、生物資源を巡る国際間競争といった地球規模での問題を解決に導くことのできるコーディネート能力を持つ人材の育成が強く求められている。

こうしたなか、生物学研究科生物学専攻では、本学の建学の精神や人材育成の理念に基づき、人類が培ってきた文化・文明と自然・地球環境を一体とする文理融合的な視野を有しながら、生物多様性の保全や生物資源の持続可能な利用を目指すとともに、生命・自然に関する幅広い見識を基礎として専門分野における高度な知識と技術を活用できる人材育成を目的としている。生物、特に動物種に関して DNA を用いた分子系統学的解析を含む生物多様性と生理学的機構の理解を基盤とし、生物資源の開発やその持続的利用のために習得した知識と技術を活用できる人材を養成する。

具体的には、生物の生態モデルの構築、分子系統地理学的解析、水産増養殖等

に関する知識・技術や研究活動の経験をもとに、生物多様性の保全や生物資源の維持・開発に主体的に取り組める人材を想定しており、修了後は北海道内を中心に生物系・環境系・農業系・水産系などの国家・地方公務員、農業・水産研究所などの国公立試験研究機関の研究員、中学校・高等学校の理科教員として活躍できる人材を養成する。また、生物学に関する幅広い専門知識を生かし、環境調査会社のコンサルタントや農林水産・食品・製薬関連企業の技術職・研究職となる人材を育成する。

② **上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠**

世界人口の増加、食生活の変化、異常気象の頻発等により世界の食糧需給関係は今後逼迫する方向にあるなか、国内最大の食料供給力を有する北海道の農業および水産業の重要性は増加している。

また、環境面においては、海水面の上昇や大規模な自然災害の発生といった地球規模での気候変動が顕在化するなか、北海道においても低炭素社会や循環型社会、自然共生社会の形成が求められている。

こうした背景を踏まえ、ア. 北海道庁では、農水産業の振興や総合的な環境政策の推進を図るため、各種施策を技術面から支える職員（技師）の採用数を増やす傾向にあること。イ. 一般企業においては、より専門性の高い知識を持った大学院修士課程修了者を優遇し、積極的に採用していく傾向にあること。ウ. 本学と自治体との共同研究・活動により、地域産業の振興が見込まれることから、本研究科の設置は、人材需要の動向を踏まえたものであると判断される。

ア. 北海道庁等公的機関における採用傾向

北海道庁における農業・水産・環境科学A区分（大卒程度以上）における採用予定者数の推移を表3に示す。

表3. 北海道庁における農業・水産・環境科学A区分における採用予定者数

試験区分	採用予定数（人）					
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
農業A（大卒以上）	4	6	8	9	11	11
水産A（大卒以上）	3	4	5	5	9	9
環境科学A（大卒以上）	2	2	4	4	4	4

※ 根拠資料は（資料4）を参照。

また、道内農水産業の生産基盤や環境施策を支える研究開発に取り組んでいる北海道立総合研究機構においては、求める人材の受験資格を修士課程修了者と同等の能力を有する者と限定するなか（資料5）、同機構が所管する農業・水産・林業試験場および環境科学研究センターの研究職員の採用予定数は増加傾向にある（資料6）。

北海道立総合研究機構における農業・水産・環境区分における採用予定者数の

推移を表4に示す。

表4. 北海道立総合研究機構における農業・水産・環境区分における採用予定者数

試験区分	採用予定数（人）					
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
農業	3	3	4	6	12	11
水産	2	2	4	4	4	6
環境	1	1	2	2	2	3

※ 農業には作物・生物工学・病害・害虫・環境保全・農業環境・農業経済・農業機械・畜産・家畜衛生、水産には資源管理・管理増殖・魚病・水産土木・海洋土木・加工利用、環境には野生動物・環境科学・環境情報学・環境工学・森林科学・森林保護・森林機能保全が含まれる。なお、地質（地球物理・地球科学）は含まない。

イ. 一般企業の動向

農業・水産・環境分野で大学院修士課程修了者が求められている傾向は、北海道内における農水産業の生産基盤施設のほか、道路やダムなど社会基盤施設の建設に伴う環境影響評価を担う建設・環境コンサルタント業界の生物系技術者に対する需要に関しても同様である。

「マイナビ 2019, 2020」および「リクナビ 2019, 2020」に掲載された道内 34 の建設・環境コンサルタント会社の新卒採用実績をみると、修士課程修了を含む理系学部卒を安定して採用している。このうち 82.4%の企業において、給与面で修士課程修了を優遇する措置をとっており、学部生とは差別化して積極的に採用する傾向が見られる（資料7）。

さらに、衛生管理の徹底や新製品の開発に注力する農林水産・食品・製薬系企業においても先述と同様の傾向があり、より高度な専門知識と研究能力を身につけた大学院修士課程修了者の採用意欲が高くなっている。

全国的に見ても、「就職四季報 2020 年版（東洋経済新報社）」に記載された農林水産・食品・製薬系企業 60 社の新卒採用実績において、圧倒的に大学院修士課程修了者の割合が高く、理系学部卒 628 名（うち女子 287 名）に対して理系修士卒 969 名（うち女子 325 名）となっている（資料8）。

また、2018 年 10 月に本学が開催した企業懇談会での聞き取り調査によれば、多くの中堅企業においても、大学院修士課程修了者の採用を積極的に行う企業が増加している状況にあるため、生物学研究科生物学専攻の修了生に対しても同様に、人材需要の動向に合致していると判断できる。

ウ. 地元自治体との共同研究等による産業の振興

上記①で述べた人材養成目的は、生物多様性の保全や生物資源の持続可能な利用のために習得した知識と技術を農水産業や食品製造・製薬業、あるいは環境評価などに幅広く展開することにある。実際に、本学との連携協定を有する北海道留萌市では、市内水産業の振興を図るため、産学官連携による水産振興拠点整備

構想を掲げており、そのなかで本学との調査研究を推進することにより、研究フィールドの活用機能や水産物の高付加価値化機能、漁業資源の増養殖機能の構築を目指している（資料9）。

生物学研究科生物学専攻の設置により、その効果はさらに高まると想定されると同時に、社会的・人材的な需要を増やししながら、修了生の活躍の場を広げていく計画である。

以上、生物学研究科生物学専攻においては、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力、生物学に関する専門知識と応用能力、生物学に関する諸問題を客観的に捉え、その解決に向けた分析や提案ができる能力を身につけた修了生を輩出し、農水産・食品・製薬業界における研究・技術開発業務や、建設・環境コンサルタント業界における環境評価・保全業務に従事することが可能である。このことは各業界の採用状況とも合致し、社会的・地域的な人材需要の動向を満たすものであると判断される。

以 上

学生の確保の見通し等を記載した書類
生物学研究科生物学専攻（修士課程）

【資料目次】

- 資料 1 第 1 回アンケート調査
- 資料 2 第 2 回アンケート調査
- 資料 3 「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の過去 5 年間の入試状況
- 資料 4 北海道行政職員採用試験実施状況
- 資料 5 地方独立行政法人北海道立総合研究機構研究職員採用試験募集要項
- 資料 6 地方独立行政法人北海道立総合研究機構研究職員採用試験実施結果
- 資料 7 北海道内に本社・支社が所在する建設・環境コンサルタント会社の採用実績と院修了者優遇措置（給与）の有無
- 資料 8 農林水産・食品・製薬系企業の理系学部卒・修士卒別採用実績
- 資料 9 留萌市水産振興拠点整備構想（案）

第1回アンケート調査

大学院に関するアンケートです。現在、札幌校舎には生物学部卒業生の専門教育・研究指導を目的とした大学院修士課程が設置されていません。こうした状況を皆さんがどのようにお考えか把握したいので、下記アンケートにご協力ください。

どちらかを○で囲みください。 5B 6B

1. 生物学部の4年間で学んだ学問・研究の専門性をさらに深化させる場として、札幌校舎に大学院修士課程があったほうがよいと思いますか。進学希望の有無にかかわらず、お答えください。

- A. あったほうがよい。
- B. なくてもよい。
- C. どちらともいえない(わからない)。

2. もし札幌校舎に大学院修士課程があった場合、あなたはどのように考えますか。進学希望の有無にかかわらず、お答えください。

- A. 札幌校舎の大学院に進学したいと思う。
- B. 第1志望は他大学院だが、札幌校舎の大学院も検討すると思う。
- C. 札幌校舎の大学院には進学しないと思う。
- D. 就職希望なので、大学院進学は考えないと思う。
- E. 現時点ではわからない。
- F. その他()

以上、ご協力ありがとうございました。

第1回アンケート集計結果(単位:人数)

学科	入学年	回答数	回答率	問1			問2						
				A	B	C	A	B	C	D	E	F	その他回答
生物	2015	60	93.8%	29	8	23	2	13	4	32	8	1	大学院進学を考えたかもしれない
	2016	62	83.8%	38	6	18	5	11	4	22	19	1	お金がない
海洋生物	2015	61	89.7%	41	5	15	11	5	5	29	10	1	学科の学修内容の継続ならば進学したい
	2016	68	91.9%	37	8	23	6	17	9	23	13	0	
学部全体	2015	121	91.7%	70	13	38	13	18	9	61	18	2	
	2016	130	87.8%	75	14	41	11	28	13	45	32	1	

東海大学大学院生物学研究科生物学専攻（修士課程）に関するアンケート調査（無記名式）

<回答した内容によって将来の進路が制限されることはありません>

東海大学では、現在、生物学部を基礎とする生物学研究科生物学専攻（修士課程）の設置計画を進めております。このアンケートは、在学生の皆さんの卒業後の進路についてお聞きし、当該研究科の設置手続きを進めるための基礎資料とするものです。是非ご協力をお願いいたします。

なお、この調査結果は、当該研究科を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用しません。

【生物学研究科生物学専攻（修士課程）の概要】

1. 研究科・専攻の概要

名 称：生物学研究科・生物学専攻
英 名：Graduate School of Biology. Course of Biology
学 位：修士（理学）
定 員：入学定員8名（収容定員16名）
標準修業年限：2年
開設時期：2020年4月1日
開設校舎：札幌キャンパス
学 費：入学金250,000円 授業料等1,146,000円 合計1,396,000円

2. 人材養成目的

生物学研究科生物学専攻では、時代の変化に合わせ、生物学に関する専門的知識、特に生物の生理的機構に関する知識、生物多様性に関する解析やその保全、生物資源の維持・開発に関する知識を修得し、実践的に活用できる人材の養成を目的とします。

具体的には、環境・農業・水産系などの公務員技術職、農業・水産研究所など国公立試験研究機関の研究職、中学校・高等学校の理科教員として活躍できる人材のほか、生物学に関する幅広い専門知識を生かし、環境調査会社のコンサルタントやバイオ・食品・餌飼料・製薬関連企業の技術職・研究職となる人材を育成します。

3. 教育課程編成

生物学研究科生物学専攻では、生物学に関する専門的知識、特に生物多様性や生物資源の保全・開発に関する課題に活用できる知識の修得に主眼を置き、以下のような方針でカリキュラムを編成しています。

- 1) 生物学の現在や技術者・研究者への道筋、科学英語を学ぶ「共通科目群」、および動物学を中心とした分類体系やそれを取り巻く環境、生命現象の数学的アプローチ法を学ぶ「基礎科目群」を学修し、生物学を総合的かつ俯瞰的に理解する能力を養います。
- 2) 個々の動物の生理学的機構や繁殖を扱う「生命科学科目群」、および生態学的視点から動物群の分布や動態を扱う「生態科学科目群」を発展的に学修し、生物学に関する専門知識と応用能力を養います。
- 3) 「研究ゼミナール」の学修により、生物学に関する諸問題を客観的に捉え、その解決に向けた分析や提案ができる能力を養うとともに、修士論文を完成させます。

※ 生物学研究科生物学専攻（修士課程）の設置が決定した場合は、進学希望者を対象とした説明会を開催します（詳細はキャンパスライフエンジン・掲示板でお知らせします）。

<裏面に続く>

第2回アンケート集計結果

調査対象：東海大学生物学部4年生

1. あなたの所属学科を選択してください。

区分	人数	割合	回答率
1 生物学科	55	44%	78.6%
2 海洋生物科学科	69	56%	95.8%
計	124	100%	87.3%

2. 生物学部卒業後に希望する進路について、以下のいずれかの番号を選択してください。

区分	人数	割合
1 就職	107	86%
2 大学院へ進学	15	12%
3 その他	2	2%
計	124	100%

3. 本学で計画中の「生物学研究科生物学専攻（修士課程）」について興味はありますか。以下のいずれかの番号を選択してください。

区分	人数	割合
1 大変興味がある	20	16%
2 興味がある	36	29%
3 あまり興味がない	38	31%
4 まったく興味がない	24	19%
5 わからない	6	5%
計	124	100%

4. 本学で計画中の「生物学研究科生物学専攻（修士課程）」への進学を希望されますか。以下のいずれかの番号を選択してください。

区分	人数	割合
1 ぜひ進学したい	11	9%
2 条件が合えば進学したい	26	21%
3 あまり進学したいとは思わない	46	37%
4 まったく進学したいとは思わない	31	25%
5 わからない	10	8%
計	124	100%

5. (質問4に対して、1または2を選択した方のみ)「生物学研究科生物学専攻（修士課程）」への進学を希望される動機について、以下のいずれかの番号を選択してください。

区分	人数	割合
1 生物学部での教育研究を踏まえ、より高度な研究活動を行いたい	23	62%
2 将来、研究職に就きたい	10	27%
3 教員免許状（専修）を取得したい	3	8%
4 その他	1	3%
計	37	100%

6. (質問4に対して、1または2を選択した方のみ)「生物学研究科生物学専攻（修士課程）」において、どのような分野の研究活動を行いたいのか、以下のいずれかの番号を選択してください（括弧内は予定している大学院教員です）。

区分	人数	割合
1 生命科学分野（指導教員：岡本英治・木原稔・佐藤陽子・サバウ バシレ ソリン・寺尾晶）	7	19%
2 生態科学分野（指導教員：櫻井泉・南秀樹・大橋正臣・河合久仁子・北夕紀・鈴木大・松井晋・武藤望生）	26	70%
3 わからない	4	11%
計	37	100%

資料3

「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科等の過去5年間の入試状況

基盤工学部電気電子情報工学科（熊本校舎）

	2015	2016	2017	2018	2019	平均 入学定員超過率
入学定員	80	80	80	80	80	0.59
志願者数	172	117	155	176	217	
受験者数	158	103	142	165	202	
合格者数	135	83	114	133	134	
入学者数	46	25	55	62	50	
入学定員超過率	0.57	0.31	0.68	0.77	0.62	

1（書類等の題名）

学生の確保の見通し等を記載した書類

- ① 資料 4 北海道行政職員採用試験実施状況
- ② 資料 5 地方独立行政法人北海道立総合研究機構研究職員採用試験募集要項
- ③ 資料 6 地方独立行政法人北海道立総合研究機構研究職員採用試験実施結果
- ④ 資料 7 北海道内に本社・支社が所在する建設・環境コンサルタント会社の採用実績と院修了者優遇措置（給与）の有無
- ⑤ 資料 8 農林水産・食品・製薬系企業の理系学部卒・修士卒別採用実績

2（出典）

- ① 北海道庁ホームページ
- ② 地方独立行政法人北海道立総合研究機構ホームページ
- ③ 地方独立行政法人北海道立総合研究機構ホームページ
- ④ マイナビ 2019・2020、リクナビ 2019・2020
- ⑤ 就職四季報

3（引用範囲）

- ① <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hj/nny/1000013001.pdf>（平成 30 年度）
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hj/nny/1000005719.pdf>（平成 29 年度）
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hj/nny/2680535684.pdf>（平成 28 年度）
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hj/nny/2609667781.pdf>（平成 27 年度）
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hj/nny/2875672378.pdf>（平成 26 年度）
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hj/nny/25_final.pdf（平成 25 年度）
- ② <http://www.hro.or.jp/index.html> より「採用情報」（平成 30 年 4 月 1 日掲載分）を引用
- ③ <https://www.hro.or.jp/hro/recruit/recruit/H30kenkyushikenkekka.pdf>（平成 31 年度）
<https://www.hro.or.jp/hro/recruit/recruit/H22-H29kenkyushikenkekka.pdf>（過年度）
- ④ <https://job.mynavi.jp/2020/>、<https://job.mynavi.jp/2019/>、<https://job.rikunabi.com/2020/>、
<https://job.rikunabi.com/2019/>より抽出
- ⑤ 東海大学附属図書館データベース「東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー」より抽出

4（その他の説明）

- ④ 各ホームページより北海道内に本社あるいは支社が所在する建設・環境コンサルタント会社 34 社を抽出し、それぞれの採用実績と大学院修了者の給与面での優遇措置の有無を引用した。
- ⑤ データベースより農林水産・食品・製薬系企業 60 社を抽出し、2018 年度における各社の採用実績を理系学部卒及び修士卒別に引用した。

平成30年11月20日
留萌市地域振興部農林水産課

〇市内水産業の更なる振興を図るため、産学官連携による「大学における調査研究の推進」、「研究フィールドの活用」、「水産物の高付加価値化」、「漁業資源の増養殖体制」など一体的な複合拠点機能を構築する。

大学における調査研究機能



- ・両大学の研究拠点(研究室)
- ・長期滞在可能な設備完備(事務室、実験室、宿泊施設)
- ・研究に必要な機材等の完備(PC、プリンター、各種通信環境、冷蔵冷凍庫、顕微鏡、作業用着衣・工具類、車)



水産物の高付加価値化機能

- ・活エビ等活魚出荷及び短期蓄養による出荷調整など高付加価値化に向けた実施設備(ストック水槽、海水給水設備、循環ろ過・冷却・曝気装置等)
- ・ニーズに即応した鮮魚販売等流通体制システムの構築



研究フィールド活用機能

- ・試験区域等関係者における協議体制
- ・地域ビジョン等を踏まえたニーズの掘り起し体制
- ・静穏域等を活用した増養殖等取組に向けた検討・調整体制(カキ・ホヤ等養殖、ウニ短期蓄養、アサリ養殖等)



拠点施設整備方法

- 〇新築(設置場所の選定、用地取得)
- 〇中古施設(民間等遊休施設)
- 〇既存施設(市・漁協所有施設)

漁業資源の増養殖機能

- ・重要漁業資源の資源増大に係る種苗生産実施体制(ナマコ等)
- ・新規増養殖種の基礎的調査研究実施体制(タコ、エビ、カキ、ホヤ等)
- ・その他(市内小中学校を対象とした社会学習等活用体制)



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ヤマダ キヨシ 山田 清志 <平成26年10月>		法学士		東海大学学長 (平26.10～令3.3)

（注） 高等専門学校にあつては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(生物学研究科 生物学専攻)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 講 義 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
1	専	教授	カホト エイジ 岡本 英治 <平成32年4月>		工学博士		組織学特論 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1後 1前 1後 2前 2後		2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東海大学 札幌教養教育 センター 教授 (平24. 4)	4日
2	専	教授	キハラ ミル 木原 稔 <平成32年4月>		博士(農学)		総合生物学特論 ※ 動物生理学特論 ※ 栄養生理学特論 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1前 1後 1前 1後 2前 2後		0.4 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 教授 (平24. 4)	4日
3	専	教授 (研究 科長、 専攻 長)	サライ イスミ 櫻井 泉 <平成32年4月>		博士(水産 学)		総合生物学特論 ※ 無脊椎動物学特論 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1後 1前 1後 2前 2後		0.4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 教授 (平25. 4)	4日
4	専	教授	サトウ ヨコ 佐藤 陽子 <平成32年4月>		博士(理学)		生殖生物学特論 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1後 1前 1後 2前 2後		2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 教授 (平31. 4)	4日
5	専	教授	サバウ バル ソリン サバウ バル ソリン <平成32年4月>		Ph.D (ルーマニア) 博士(理学)		科学英語特論 数理生物学特論 ※ 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1後 1前 1後 2前 2後		2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 教授 (平28. 4)	4日
6	専	教授	テラオ アキラ 寺尾 晶 <平成32年4月>		博士(獣医 学)		総合生物学特論 ※ 動物生理学特論 ※ 環境生理学特論 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1前 2前 1前 1後 2前 2後		0.4 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 札幌教養教育 センター 教授 (平27. 4)	4日
7	専	教授	ミナミ ヒロキ 南 秀樹 <平成32年4月>		博士(理学)		大気海洋環境学特論 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1後 1前 1後 2前 2後		2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 教授 (平24. 4)	4日
8	専	准教授	オホシ マサミ 大橋 正臣 <平成32年4月>		博士(工学)		総合生物学特論 ※ 数理生物学特論 ※ 生態系モデリング学特論 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後		0.4 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 准教授 (平30. 4)	4日
9	専	准教授	カワイ ケコ 河合 久仁子 <平成32年4月>		博士(理学)		総合生物学特論 ※ 脊椎動物学特論A ※ 動物生態学特論 ※ 動物地理学特論 ※ 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後		0.4 1 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 准教授 (平27. 4)	4日
10	専	准教授	キタ ユキ 北 夕紀 <平成32年4月>		博士(医学)		脊椎動物学特論A ※ 保全生態学特論 ※ 多様性生物学特論 ※ 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1後 1後 1前 1後 2前 2後		1 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 准教授 (平29. 4)	4日
11	専	講師	スズキ ダイ 鈴木 大 <平成32年4月>		博士(理学)		脊椎動物学特論B ※ 保全生態学特論 ※ 動物地理学特論 ※ 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後		1 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 講師 (平29. 4)	4日
12	専	講師	マツイ シン 松井 晋 <平成32年4月>		博士(理学)		脊椎動物学特論B ※ 動物生態学特論 ※ 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1後 1前 1後 2前 2後		1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 講師 (平29. 4)	4日
13	専	講師	タケノ ヲサム 武藤 望生 <平成32年4月>		博士(農学)		脊椎動物学特論C ※ 多様性生物学特論 ※ 生物学研究ゼミナール1 生物学研究ゼミナール2 生物学研究ゼミナール3 生物学研究ゼミナール4	1前 1後 1前 1後 2前 2後		2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東海大学 生物学部 講師 (平28. 4)	4日

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教授	博士	人	人	人	6人	1人	人	人	7人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博士	人	1人	2人	人	人	人	人	3人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講師	博士	人	2人	1人	人	人	人	人	3人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助教	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合計	博士	人	3人	3人	6人	1人	人	人	13人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。